

HP ALM ラボ管理

ソフトウェア・バージョン: 11.52

ラボ管理ガイド

ドキュメント・リリース日: 2013 年 5 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日: 2013 年 5 月 (英語版)



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2002 - 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の登録商標です。

Intel® は米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Javaは、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Microsoft®, Windows® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle®は、Oracle Corporationおよびその関連会社の登録商標です。

Unix® は、The Open Group の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログインページの [**New users - please register**] リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

ラボ管理ガイド	1
目次	5
はじめに	11
本書の構成	11
ALM ヘルプ	12
ALM ヘルプのガイド	12
トピックの種類	15
その他のオンライン・リソース	16
ALM の拡張機能のガイド	17
第1章: ラボ管理 の概略	19
ラボ管理の概要	19
第2章: ラボ管理 の管理	21
ラボ管理 の管理の概要	21
ラボ管理の管理者の作成方法	21
ラボ管理の管理の使用方法	21
ラボ管理管理のユーザ・インタフェース	24
[ラボ管理]タブ	24
[一般設定]ダイアログ・ボックス	26
第3章: プロジェクト設定	29
プロジェクトの設定の概要	29
ターゲット IP アドレスの使用	29
サブネット・マスクの使用	29
プロジェクトを作成する方法	30
プロジェクト設定のユーザ・インタフェース	31
プロジェクト設定モジュール	32
プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン	33
プロジェクト設定モジュールのフィールド	35

[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックス	36
VUD のアクション	39
[Performance Center Controller のオプション]ダイアログ・ボックス	42
第4章: メンテナンス・タスク	49
メンテナンス・タスクの概要	49
メンテナンス・タスクのユーザ・インタフェース	50
メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ	51
メンテナンス・タスクのフィールド	51
メンテナンス・タスクのメニューとボタン	52
[メンテナンスタスクの詳細]ダイアログ・ボックス	54
第5章: ラボ・リソース	55
ラボ・リソースの概要	55
ラボ・リソースを管理する方法	57
ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インタフェース	64
ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン	65
ホスト・モジュール	69
ホスト/テストングホスト・モジュールのウィンドウ	70
ホストのフィールド	72
[新規テストングホスト]ダイアログ・ボックス	77
[テストングホスト詳細]ダイアログ・ボックス	78
イベント・ログ	81
[プロセス]ページ	83
[サービス]ページ	84
[ホストのステータスの確認]ページ	85
ホストのステータスの確認のフィールド	86
[ファイアウォール越し]ページ	87
[インストールするパッチの選択]ダイアログ・ボックス	90
プール・モジュール	90
プール・モジュール・ウィンドウ	91
プール・フィールド	92
[新規ホスト プール]ダイアログ・ボックス	93
[ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス	94

[ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス	95
[リンクされたホスト]ページ	96
場所モジュール	98
場所モジュール・ウィンドウ	98
場所モジュール	99
[新規ホストの場所]ダイアログ・ボックス	100
[ホストの場所詳細]ダイアログ・ボックス	100
MI Listener モジュール	102
MI Listener モジュール・ウィンドウ	102
MI Listener のフィールド	103
[新規 MI Listener]ダイアログ・ボックス	104
[MI Listener 詳細]ダイアログ・ボックス	105
第6章: PC テスト実行	107
PC テスト実行モジュールの概要	107
PC テスト実行のユーザ・インタフェース	107
PC テスト実行モジュールのウィンドウ	108
PC テスト実行モジュールのフィールド	109
PC テスト実行モジュールのメニューとボタン	110
[実行詳細]ダイアログ・ボックス	112
第7章: 使用状況レポート	115
使用状況レポートの概要	115
レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法	116
レポートをPDF または Excel 形式にエクスポートする方法	116
使用状況レポートの時間フレーム	117
使用状況レポートのユーザ・インタフェース	117
[プロジェクトを選択]ダイアログ・ボックス	118
同時実行対ライセンス・レポート	119
リソース・サマリ・レポート	124
タイムスロットの使用状況レポート	126
継続時間別リソース・レポート	128
実行別リソース使用状況レポート	131
プロジェクトごとのVUDライセンス使用状況レポート	133

目次 VUD ライセンス使用状況レポート	135
第 8 章: システム・ヘルス	137
システムのヘルスの概要	137
システムのヘルスのユーザ・インタフェース	137
システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ	138
[システム チェックの設定] ダイアログ・ボックス	139
第 9 章: PC ライセンス	141
HP ALM Performance Center PC ライセンスの概要	141
PC ライセンスのユーザ・インタフェース	143
PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ	144
[ファイルからライセンスを追加] ダイアログ・ボックス	146
第 10 章: 診断管理	149
J2EE/.NET 診断の概要	149
ERP/CRM 診断の概要	150
ERP/CRM メディエータの追加方法	152
HP Diagnostics サーバの追加方法	153
Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法	153
Oracle 11i 診断を事前に設定する方法	156
SAP 診断を事前に設定する方法	158
Siebel サーバでログを有効, 無効にする方法	158
Oracle サーバのログを有効にする方法	159
Oracle サーバの診断パスワードを設定, 無効にする方法	160
診断のユーザ・インタフェース	161
診断モジュール・ウィンドウ	162
診断モジュールのフィールド	163
診断モジュールのメニューとボタン	164
第 11 章: パッチ管理	167
パッチの概要	167
パッチの ALM へのアップロード方法	167
パッチ管理のユーザ・インタフェース	167
パッチ・モジュール・ウィンドウ	168
パッチ・モジュールのフィールド	169

パッチ・モジュールのメニューとボタン	169
[パッチの詳細]ダイアログ・ボックス	171
[新規パッチ]ダイアログ・ボックス	172
第 12章: AUT ホストの管理	175
AUT リソースの概要	175
Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法	175
AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース	179
AUT ホスト・モジュール	180
AUT ホストのフィールド	181
[新規 AUT ホスト]ダイアログ・ボックス	181
[AUT ホストの詳細]ダイアログ・ボックス	183
AUT プール・モジュール	184
[リンクされたホスト]ページ	185
[AUT ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス	186
AUT プールのフィールド	188
[新規 AUT ホスト プール]ダイアログ・ボックス	188
[AUT ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス	189
AUT リソース・モジュールのメニューとボタン	190
第 13章: プロジェクト管理	195
ラボ管理対応プロジェクトの使用の概要	195
ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法	196
第 14章: PC サーバ	199
PC サーバの概要	199
Performance Center サーバを管理する方法	199
Performance Centerサーバ・モジュールのユーザ・インタフェース	200
PC サーバ・モジュール・ウインドウ	201
PC サーバ・モジュールのメニューとボタン	202
PC サーバ・モジュールのフィールド	205
[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックス	207
[新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックス	208
[プロセス]ページ	209
[サーバのステータスの確認]ページ	211

第 15章 : CDA サーバ	215
CDA サーバの概要	215
CDA サーバを管理する方法	215
CDA サーバのユーザ・インタフェース	216
CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ	217
CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン	218
CDA サーバ・モジュールのフィールド	220
[新規 CDA サーバ]ダイアログ・ボックス	220
[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックス	221
第 16章 : Lab Service	223
HP ALM Lab Service の概要	223
HP ALM Lab Service のインストール	223
HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール	227
HP ALM Lab Service の使用	228
自動ログイン	230
[HP ALM Lab Service 設定]ページ	231

はじめに

HP ALM ラボ管理へようこそ。ラボ管理を使用すると、ユーザはALMで機能テストおよびパフォーマンス・テストに使用するラボ・リソースおよびシステムを管理できます。

本書では、ラボ管理プロジェクトの使用方法について説明します。また、概念的な内容、プロジェクトの詳しい操作手順、参考資料も紹介します。

本書の構成

『HP ALM ラボ管理ガイド』の構成は次のとおりです。

部	説明
「ラボ管理の管理」(21ページ)	<p>ラボ管理の管理を実行する方法について説明します。</p> <p>関連タスク:「ラボ管理の管理者の作成方法」(21ページ)および「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)を参照してください。</p>
「プロジェクト設定」(29ページ)	<p>プロジェクト設定の定義および管理方法について説明します。</p> <p>関連タスク:「プロジェクトを作成する方法」(30ページ)</p>
「メンテナンス・タスク」(49ページ)	<p>システムの主要コンポーネントを監視する自動化されたタスクを管理する方法について説明します。</p>
「ラボ・リソース」(55ページ)	<p>テストングホスト、ホスト・プール、MI Listenerの定義および管理する方法とタイムスロット・テストの並べ替え方法について説明します。</p> <p>関連タスク:「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)</p>
「PCテスト実行」(107ページ)	<p>PCテスト実行の情報を表示する方法について説明します。</p>
「使用状況レポート」(115ページ)	<p>Performance Centerサイトのユーザとリソース使用状況に関する情報を表示および分析する方法について説明します。</p> <p>関連タスク:「レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法」(116ページ)</p>
「システム・ヘルス」(137ページ)	<p>システムのコンポーネントのヘルスを監視する方法について説明します。</p>
「PCライセンス」(141ページ)	<p>PCライセンスを定義および表示する方法について説明します。</p>
「診断管理」(149ページ)	<p>複雑な環境のパフォーマンスに関する診断情報を表示する方法について説明します。</p> <p>関連タスク:「HP Diagnostics サーバの追加方法」(153ページ)</p>

部	説明
「パッチ管理」 (167ページ)	パッチをアップロードしてホストにインストールする方法について説明します。 関連タスク: 「パッチのALMへのアップロード方法」(167ページ)
「AUTホストの管理」(175ページ)	AUTホストとAUTホスト・プールを作成、表示、および管理する方法について説明します。 関連タスク: 「ExcelからAUTホスト・データをインポートする方法」(175ページ)
「プロジェクト管理」(195ページ)	ラボ管理システムをステージングから運用環境に移行する方法について説明します。 関連タスク: 「ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法」(196ページ)
「PCサーバ」(199ページ)	Performance Centerサーバを作成、表示、および管理する方法について説明します。 関連タスク: 「Performance Centerサーバを管理する方法」(199ページ)
「CDAサーバ」 (215ページ)	CDAサーバを作成、表示、および管理する方法について説明します。 関連タスク: 「CDAサーバを管理する方法」(215ページ)
「Lab Service」 (223ページ)	HP ALM Lab Serviceをインストールする方法と、ALMテストをリモートのテスト・ホストで実行する方法について説明します。 関連タスク: 「HP ALM Lab Serviceの使用」(228ページ)

ALM ヘルプ

ALM ヘルプは、ALM の使用方法を説明するオンライン・ヘルプ・システムです。ALM ヘルプには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

- ALM の[ヘルプ]メニューで[文書ライブラリ]をクリックすると、ALM ヘルプのホームページが開きます。このホーム・ページには、主なヘルプ・トピックへのクイック・リンクが含まれます。
- [ヘルプ]メニューで[このページのヘルプ]をクリックするとALM ヘルプが開き、現在のページに関するトピックが表示されます。

ALM ヘルプのガイド

ALM ヘルプは、次のガイドとリファレンスで構成されており、オンライン、PDF形式、またはその両方で提供されています。PDFの表示や印刷には、Adobe Readerを使用します。Adobe Readerは、Adobe社のWebサイト(<http://www.adobe.com/jp>)からダウンロードできます。

リファレンス	説明
ALM ヘルプの使用方法	ヘルプの使用方法および編成方法について説明します。

リファレンス	説明
新機能	最新バージョンのALMで新しく提供される機能について説明します。
ムービー	主な製品機能を説明する短いムービーです。 [ヘルプ] > [ムービー]でアクセスできます。
Readme	ALMに関する最新のお知らせと情報が含まれます。

HP Application Lifecycle Management (ALM) ガイド	説明
HP ALM ユーザーズ・ガイド	ALMを使用してアプリケーションのライフサイクル管理プロセスのあらゆる段階を整理し、実行する方法について説明しています。リリースの指定、要件定義、テスト計画、テスト実行、および不具合追跡を行う方法について説明しています。
HP ALM 管理者ガイド	サイト管理機能を使用してプロジェクトを作成し保守する方法や、プロジェクトのカスタマイズ機能を使用してプロジェクトのカスタマイズを行う方法について説明します。
HP ALM ラボ管理ガイド	リモート・ホストでの機能テストとパフォーマンス・テストに使用するラボ・リソースを、ラボ管理を使用して管理する方法を説明しています。
HP ALM ラボ管理トラブルシューティングガイド	HP ALM ラボ管理で発生した問題のトラブルシューティングについて説明します。
HP ALM チュートリアル	ALMを使ってアプリケーション・ライフ・サイクル管理プロセスを管理する方法について、自分のペースで学べるガイドです。
HP ALM インストールおよびアップグレードガイド	ALM サーバをセットアップするためのインストールおよび設定のプロセス、またプロジェクトのアップグレード・プロセスについて説明します。
HP ALM Business Views Microsoft Excel Add-in User Guide	ビジネス・ビューのExcelレポートを作成および設定する機能を備えた Business Views Microsoft Excel アドインをインストールおよび使用方法について説明します。
Business Process Testing ユーザーズ・ガイド	Business Process Testing を使用してビジネス・プロセス・テストを作成する方法を説明しています。

HP ALM Performance Center ガイド	説明
HP ALM Performance Center クイック・スタート	Performance Center ユーザが、自分のペースでパフォーマンス・テストの作成と実行の概要を学べるガイドです。
HP ALM Performance Center ガイド	Performance Center のユーザを対象に、パフォーマンス・テストの作成方法、スケジュール設定方法、実行方法、監視方法を説明します。Performance Center の管理者を対象に、Performance Center プロジェクトの設定方法、管理方法を説明しています。
HP ALM Performance Center インストール・ガイド	Performance Center Server, Performance Center Host, 他の Performance Center コンポーネントの設定のためのインストール・プロセスについて説明します。
HP ALM Performance Center トラブルシューティング・ガイド	HP ALM Performance Center で発生した問題のトラブルシューティングについて説明します。

HP ALM ベスト・プラクティス・ガイド	説明
HP ALM Agile Testing Best Practices Guide	アジャイルなテスト方針を実装する際のベストプラクティスを提供します。
HP ALM Business Process Models Best Practices Guide	Business Models モジュールを使用する際のベストプラクティスを紹介します。
HP ALM Database Best Practices Guide	ALM をデータベース・サーバにデプロイする際のベスト・プラクティスを提供します。
HP ALM Entities Sharing Best Practices Guide	エンティティ共有のベスト・プラクティスを提供します。
HP ALM Project Planning and Tracking Best Practices Guide	リリースの管理と追跡についてのベスト・プラクティスを提供します。
HP ALM Project Topology Best Practices Guide	プロジェクトを構築する際のベスト・プラクティスを提供します。
HP ALM アップグレードのベスト・プラクティス・ガイド	ALM のアップグレードを準備し計画する方法を提供します。
HP ALM Versioning and Baselining Best Practices Guide	バージョン管理の実装とベースラインの作成のためのベスト・プラクティスを提供します。
HP ALM Workflow Best Practices Guide	ワークフローを実装する際のベスト・プラクティスを提供します。

HP ALM Performance Center ベスト・プラクティス・ガイド		説明
HP Performance Center のベスト・プラクティス	Performance Center of Excellence を効果的に構築および運用するためのベスト・プラクティスを紹介します。	
HP パフォーマンス監視ベスト・プラクティス	テスト中のアプリケーションのパフォーマンス監視に関するベスト・プラクティスを紹介します。	

HP ALM API References		説明
HP ALM Project Database Reference	プロジェクト・データベースのすべてのテーブルとフィールドのオンライン・リファレンスです。	
HP ALM Open Test Architecture API Reference	ALM の COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスです。ALM のオープン・テスト・アーキテクチャを使用して、ユーザ独自の設定管理ツール、不具合追跡ツール、自社開発のテスト・ツールを ALM プロジェクトに統合できます。	
HP ALM Site Administration API Reference	サイト管理 COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスです。サイト管理 API を使用して、アプリケーションを編成、管理し、ALM のユーザ、プロジェクト、ドメイン、接続およびサイトの設定パラメータを保守できます。	
HP ALM REST API Reference (テクノロジー・レビュー)	ALM の REST ベース API のオンライン・リファレンスです。REST API を使用すると、ALM データへのアクセスと操作が可能になります。	
HP ALM COM Custom Test Type Developer Guide	独自のテスト・ツールを作成し、そのツールをネイティブ COM 開発ツールを使用して ALM 環境に統合するための完全なオンライン・ガイドです。	
HP ALM .NET Custom Test Type Developer Guide	DCOM クラスと .NET クラスの組み合わせを使用して、独自のテスト・ツールを作成し、そのツールを ALM 環境に統合するための完全なオンライン・ガイドです。	

トピックの種類

上記の ALM ガイドは、トピックごとに編成されています。主なトピックは、**概念**、**タスク**、**リファレンス**の3つです。

トピックの種類	説明	使い方
概念	背景や説明、概念的な内容です。	機能に関して全般的な内容を理解できます。

トピックの種類	説明	使い方
タスク	<p>指示タスク:アプリケーションを操作して目的の機能を実行するための詳しい手順を示します。</p> <p>タスクには、番号付きと番号なしの手順が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 番号付きの手順:連続した順番に従ってタスクを実行します。 • 番号なしの手順:自己完結型の操作のリストであり、任意の順序で実行できます。 	<ul style="list-style-type: none"> • タスクのワークフロー全体を理解できます。 • 番号付きの場合、手順に従ってタスクを完了します。 • 番号なしの場合、操作を個別に実行します。
	<p>ユース・ケース・シナリオ・タスク:特定の状況下でタスクを実行する方法を事例で紹介します。</p>	<p>現実的なシナリオにおいて、タスクを実行する方法を学習できます。</p>
リファレンス	<p>一般的なリファレンス:参考資料の一覧と詳しい説明が記載されています。</p>	<p>特定の内容に関するリファレンス情報を調べることができます。</p>
	<p>ユーザ・インタフェース・リファレンス:特定のユーザ・インタフェースについて説明したリファレンス・トピックが記載されています。通常の場合、製品の[ヘルプ]メニューから[このページのヘルプ]を選択すると、ユーザ・インタフェースのトピックが開きます。</p>	<p>1つまたは複数のユーザ・インタフェース要素(ウィンドウ、ダイアログ・ボックス、ウィザードなど)に入力する内容や使用方法に関する情報を調べることができます。</p>
<p>トラブルシューティングと制限事項</p>	<p>トラブルシューティングと制限事項:よく発生する問題とその解決方法、機能や製品領域の制限事項を説明したリファレンス・トピックが記載されています。</p>	<p>機能を初めて使用する場合やソフトウェアの操作で問題が発生した場合に、重要度の高い問題に関して理解を深めることができます。</p>

その他のオンライン・リソース

[ヘルプ]メニューから、次のオンライン・リソースも利用できます。

リソース	説明
<p>トラブルシューティングとナレッジベース</p>	<p>HP Software サポート Web サイトのトラブルシューティングのページにアクセスします。このページでは、セルフ・ソルブ技術情報を検索できます。[ヘルプ] > [トラブルシューティングとナレッジベース]を選択します。この Web サイトの URL は、http://support.openview.hp.com/troubleshooting.jsp です。</p>

リソース	説明
HP Software サポート	<p>HP Software サポート Web サイトを開きます。このサイトで、セルフ・ソルブ技術情報を参照できます。また、英語版のサイトでは、ナレッジ・ベースの参照、独自の項目の追加、ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの書き込みや検索、パッチや更新されたドキュメントのダウンロードなどを行うこともできます。[ヘルプ] > [HP Software サポート]を選択します。Web サイトの URL は http://support.openview.hp.com/ です。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。 アクセス・レベルに関する詳細は、次の Web サイトにアクセスしてください。 http://support.openview.hp.com/access_level.jsp HP Passport IDを登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。 http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語 サイト)
HP Software Web サイト	<p>HP Software Web サイトにアクセスします。このサイトでは、HP ソフトウェア製品に関する最新の情報をご覧になれます。新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマー・サポートなどの情報も含まれています。[ヘルプ] > [HP Software Web サイト]を選択します。この Web サイトの URL は、 http://support.openview.hp.com/ です。</p>
アドイン	<p>アドイン・ページからは、HP およびサードパーティー・ツールとの統合と同期に関するソリューションを入手できます。</p>
ツール	<p>[ALM ラボ管理 ツールのアドイン] ページが開きます。このページからは、ALM と共に ALM Server 上にインストールされる HP およびサードパーティが提供するツールとの統合と同期に関するソリューションを入手できます。</p>

ALM の拡張機能のガイド

拡張機能は、HP ALM に追加機能を提供します。ALM の拡張機能のライセンスをお持ちの場合は、プロジェクト単位で拡張機能を有効にすることで、追加された機能を利用することができます。拡張機能の有効化の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ALM 11.52 で利用可能な拡張機能の一覧表示や、ALM の拡張機能に関するドキュメントのダウンロードは、HP ALM アドイン・ページ([ヘルプ] > [アドイン])から HP Application Lifecycle Management アドイン・ページにアクセス)を参照してください。

第1章: ラボ管理 の概略

本章の内容

ラボ管理の概要 19

ラボ管理の概要

HP ALM ラボ管理では、ALM サーバ側テストで使用するリソースを管理します。

LM テストでは、さまざまな実行モードでテストを実行できます。ALM エディションまたは Performance Center のユーザは、機能テスト・セットまたはパフォーマンス・テスト・セットにアクセスし、リモート・テスト・ホストでテストの即時実行またはスケジュール実行を行うことができます。LM では、ビルドのデプロイメントとテストをエンドツーエンドで実行し、ラボ管理では、ALM のサーバ側テスト機能のインフラストラクチャを構成するテスト・リソースを管理します。

ラボ管理は、次のモジュールで構成されています。

• ラボ設定

リソースを監視、保守、ALM プロジェクトに割り当てる方法を管理します。このグループには次のモジュールが含まれます。

プロジェクト設定	各 ALM プロジェクトの設定を管理します。ホスト数の上限とホスト・プールの割り当てを、プロジェクトごとに設定します。
メンテナンス・タスク	主要なシステム・コンポーネントで発生した障害を検出および修復するタスクを監視します。

• ラボ・リソース

サーバ側テストで使用できるテスト・ホストとプールを作成および定義します。

ホスト	ALM がサーバ側テストで使用するテスト・ホストを作成および変更します。
プール	テスト・ホストのプールを作成および変更します。ホスト・プールは、ALM プロジェクトに割り当てられます。
場所	テスト・ホストに割り当て可能な場所を定義します。
タイムスロット	ホスト上で行う手動メンテナンスのスケジュールリングと予約を行います。

• Performance Center

Performance Center に関連するリソース、設定、テスト結果データを管理します。

PC テスト実行	すべてのプロジェクトについて、Performance Center テスト実行の結果を表示します。
----------	---

使用状況レポート	Performance Center サイト・ユーザとリソースの使用状況を分析します。
システムのヘルス	システムの稼働状態を追跡および管理します。
PC ライセンス	Performance Center と Performance Center のホスト・ライセンスを管理します。
MI Listener	MI Listener を作成および変更します。これにより、ファイアウォールを介してパフォーマンス・テストを実行可能になります。
診断	診断モジュールを統合することによって、複雑なテスト対象アプリケーションのパフォーマンスを監視および分析します。
パッチ	アプリケーション・パッチをアップロードします。これにより、Performance Center サーバとホストにパッチをインストールできるようになります。
AUT ホスト	テスト対象アプリケーション(AUT)コンポーネントをホストするマシンを作成および変更します。
AUT ホスト・プール	AUT ホストのプールを作成および変更します。

• サーバ

パフォーマンス・テストとテストのデプロイメントで使用するサーバを作成および構成します。

PC サーバ	Performance Center サーバを作成し、パフォーマンス・テストでの使用方法を管理します。
CDA サーバ	HP Continuous Delivery Automation(CDA)サーバを作成および変更します。これによってLMは、サーバ側テストの環境を、クラウドを使って動的にデプロイできるようになります。

第2章：ラボ管理の管理

本章の内容

ラボ管理の管理の概要	21
ラボ管理の管理者の作成方法	21
ラボ管理の管理の使用方法	21
ラボ管理管理のユーザ・インタフェース	24

ラボ管理の管理の概要

ホストやホスト・プールの作成や保守などの管理タスクを実行するラボ管理 ユーザには、管理者権限を割り当てる必要があります。

ラボ管理 ユーザの定義や管理者の役割の割り当ては、ALM サイト管理で行います。ラボ管理の管理者ユーザを作成する方法の詳細については、「ラボ管理の管理者の作成方法」(21ページ)を参照してください。

関連タスクの詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)を参照してください。

ラボ管理の管理者の作成方法

このタスクでは、ラボ管理とサイト管理で、すべてのプロジェクト管理タスクを担当する、ラボ管理の管理者ユーザを作成する方法について説明します。

注：

- このタスクは、「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)のタスクの前提条件になります。
- このタスクはサイト管理で実行されます。サイト管理へのログインと使用方法の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理の管理者ユーザを作成するには、次の手順を実行します。

1. サイト管理にログインします。
2. [サイトのユーザ]タブで、新しいユーザを作成します。
3. [ラボ管理]タブで、[ラボ管理ユーザ]タブを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ラボ管理]タブ」(24ページ)を参照してください。
4. 手順2で作成したユーザを追加し、新しいユーザに対して[プロジェクト管理者]オプションを選択します。

ラボ管理の管理の使用方法

本項では、ラボ管理 管理者が実行できるタスクの一覧を示します。

一部のタスクは、Performance Center ライセンスのあるプロジェクトのみで実行できます。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(22ページ)
- 「Performance Center の初期設定の実行」(22ページ)
- 「Performance Center プロジェクトの作成とプロジェクト設定の定義」(22ページ)
- 「ラボ管理のラボ・リソースの管理と保守」(22ページ)
- 「パフォーマンス・テストの実行の表示と管理」(23ページ)
- 「Performance Center 使用状況レポートの表示」(23ページ)
- 「アプリケーション・パッチのアップロード」(23ページ)
- 「Performance Center サーバの管理」(23ページ)
- 「Performance Center ライセンスとPerformance Center ホスト・ライセンスの管理」(23ページ)
- 「Diagnostic サーバとDiagnostic メディエータの管理」(23ページ)
- 「システムのヘルスの維持」(23ページ)
- 「Performance Center システム・ユーザの変更」(23ページ)
- 「通信セキュリティ・パスフレーズの更新」(23ページ)
- 「セキュリティ保護されたホスト通信設定の更新」(23ページ)
- 「Performance Center の一般設定の設定」(24ページ)

前提条件

これらのいずれかのタスクを実行するには、ラボ管理 管理者である必要があります。ラボ管理の管理者を作成する方法の詳細については、「ラボ管理の管理者の作成方法」(21ページ)を参照してください。

Performance Center の初期設定の実行

Performance Center コンポーネントのインストール直後に、関連するコンポーネントの設定ツールが開き、初期設定の入力が求められます。この設定をスキップした場合、Performance Center の使用を開始する前に、手動で設定を行う必要があります。

詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

Performance Center プロジェクトの作成とプロジェクト設定の定義

サイト管理でプロジェクトを作成し、ラボ管理のプロジェクト設定モジュールでプロジェクトの制限やその他の設定を定義します。詳細については、「プロジェクトを作成する方法」(30ページ)を参照してください。

ラボ管理のラボ・リソースの管理と保守

ホスト、ホスト・プール、ホストの場所の管理は、ラボ・リソース・モジュールで行います。詳細については、「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)を参照してください。

ホスト上でメンテナンス・タスク(パッチのインストール、ホストの再起動など)の実行を計画している場合、これらのホストをタイムスロットに確保することをお勧めします。これで、ホストをメンテナンスに確実に利用できるようになります。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

パフォーマンス・テストの実行の表示と管理

システムのすべてのラボ管理からのテストの実行は、テスト実行モジュールで表示、管理できます。詳細については、「[PC テスト実行モジュールのウィンドウ](#)」(108ページ)を参照してください。

Performance Center 使用状況レポートの表示

Performance Center 使用状況レポートには、Performance Center サイト・ユーザの全体的な分析、リソース使用状況、同時実行リソース使用状況とライセンスによる上限の比較、タイムスロット使用状況、期間と実行別のリソース使用状況に関する情報が表示されます。詳細については、「[レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法](#)」(116ページ)を参照してください。

これらのレポートをPDF形式とExcel形式でエクスポートすることもできます。詳細については、「[レポートをPDFまたはExcel形式にエクスポートする方法](#)」(116ページ)を参照してください。

アプリケーション・パッチのアップロード

アプリケーション・パッチをPerformance Center のサーバとホストにインストールする前に、パッチをシステムにアップロードする必要があります。詳細については、「[パッチのALMへのアップロード方法](#)」(167ページ)を参照してください。

Performance Center サーバの管理

Performance Center サーバの管理は、ラボ管理のPCサーバモジュールから行います。詳細については、「[Performance Center サーバを管理する方法](#)」(199ページ)を参照してください。

Performance Center ライセンスと Performance Center ホスト・ライセンスの管理

Performance Center ライセンスと Performance Center ホスト・ライセンスの管理は、ラボ管理のライセンスモジュールから行います。詳細については、「[PC ライセンスモジュールウィンドウ](#)」(144ページ)を参照してください。

Diagnostic サーバと Diagnostic メディエータの管理

診断モジュールをALMと統合すると、テスト対象の複雑なアプリケーションのパフォーマンスを監視、分析できます。診断モジュールの設定の詳細については、「[診断管理](#)」(149ページ)を参照してください。

システムのヘルスの維持

システムのヘルスの追跡と維持は、システムのヘルスモジュールから行います。詳細については、「[システムのヘルスの概要](#)」(137ページ)を参照してください。

Performance Center システム・ユーザの変更

Performance Center のサーバとホスト上の Performance Center システム・ユーザを変更するには、Performance Center サーバ上にインストールされているシステムIDユーティリティを使用します。詳細については、『[HP ALM Performance Center ガイド](#)』を参照してください。

通信セキュリティ・パスフレーズの更新

Performance Center のサーバとホスト上の通信セキュリティ・パスフレーズを更新するには、Performance Center サーバ上にインストールされているシステムIDユーティリティを使用します。詳細については、『[HP ALM Performance Center ガイド](#)』を参照してください。

セキュリティ保護されたホスト通信設定の更新

最初に、Performance Center ホストまたはスタンドアロン Load Generator にローカルにインストールされているホスト・セキュリティ・セットアップ・ユーティリティを使用して、各ホストまたは Load Generator 上

でセキュリティ保護された通信設定を定義します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

すべてのホストとLoad Generatorで同時にこれらの設定を更新するには、Performance Center サーバにインストールされているHost Security Managerを使用できます。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

Performance Center の一般設定の設定

Performance Center の一般設定は、ラボ管理で管理します。マストヘッドで、[ツール] > [Performance Center の一般設定]を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[一般設定]ダイアログ・ボックス」(26ページ)を参照してください。

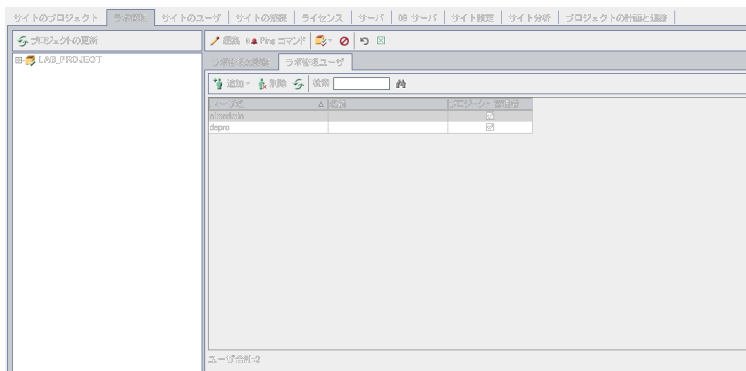
ラボ管理管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

[ラボ管理] タブ	24
[一般設定] ダイアログ・ボックス	26

[ラボ管理] タブ






サイト管理の[ラボ管理]タブを使用すると、LAB_PROJECT プロジェクトの詳細を管理し、ラボ管理管理タスクを担当するラボ管理ユーザを定義できます。



アクセス方法	「サイト管理」の[ラボ管理]タブをクリックします。
関連タスク	「ラボ管理の管理者の作成方法」(21ページ)
参照情報	「ラボ管理の管理の概要」(21ページ)

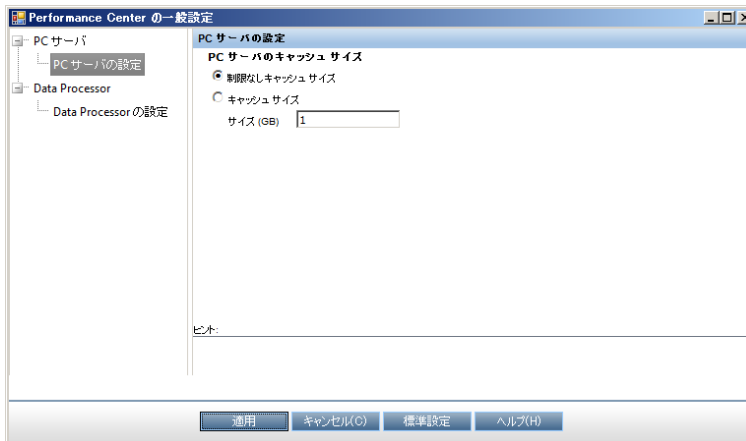
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	接続文字列の編集: ラボ管理の接続文字列を編集します。接続文字列の編集の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

UI 要素	説明
	<p>プロジェクトに Ping コマンドを適用: プロジェクト・データベースがサイト管理からアクセスできるかどうかをチェックします。</p>
	<p>プロジェクトのメンテナンス: プロジェクトを検証, 修復, アップグレードできます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
	<p>プロジェクトのアクティブ化/非アクティブ化: LAB_PROJECT を非アクティブ化すると, ユーザはラボ管理にログインできなくなります。非アクティブにすると, プロジェクトに現在接続されているすべてのユーザが, 強制的にログアウトされます。LAB_PROJECT がサーバから削除されるわけではありません。</p> <p>また, ユーザは LAB_PROJECT にリンクされているプロジェクトに接続できず, 現在接続されているユーザは切断されます。</p>
	<p>ラボ・プロジェクトの復元: LAB_PROJECT へのアクセスを復元し, サイト管理の[ラボ管理]タブに追加します。LAB_PROJECT を復元した場合, 復元した LAB_PROJECT で作成したラボ管理プロジェクトのみ使用できます。</p> <p>接続文字列の編集の詳細については, 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
	<p>ラボ・プロジェクトの削除: サイト管理の[ラボ管理]タブから LAB_PROJECT を削除します。この操作で LAB_PROJECT がサーバから削除されることはありません。LAB_PROJECT は, 必要に応じて元に戻せます。プロジェクトがまだアクティブな場合は, 非アクティブにするように求めるメッセージが表示されます。</p> <p>LAB_PROJECT を削除すると, 関連付けられているすべてのラボ管理プロジェクトが非アクティブ化されます。これらのプロジェクトを有効にするには, 該当するバージョンの LAB_PROJECT を復元する以外に方法はありません。</p>
<p>[ラボ管理の詳細]タブ</p>	<p>ラボ管理を使用するための LAB_PROJECT の詳細を表示, 編集できます。プロジェクトの詳細の表示と編集の詳細については, 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
<p>[ラボ管理ユーザ]タブ</p>	<p>ラボ管理管理を担当するユーザを割り当てることができます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>

[一般設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、Performance Center の一般設定を定義できます。



アクセス方法	ラボ管理のALM マストヘッドで、[ツール]> [Performance Center の一般設定]を選択します。
重要な情報	ここで定義した設定は、Performance Center システムの一般設定となります。
関連タスク	「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)
参照情報	「ラボ管理の管理の概要」(21ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
[PC サーバ]> [PC サーバの設定]ページ	Performance Center サーバの次のキャッシュ設定を定義できます。 <ul style="list-style-type: none">• 制限なしキャッシュ・サイズ: Performance Center サーバのキャッシュ・サイズが無制限になり、キャッシュはクリアされません。• キャッシュ・サイズ: Performance Center サーバのキャッシュ・サイズ(ギガバイト単位)。 標準設定値: 1GB

UI 要素	説明
[Data Processor] > [Data Processor の設定] ページ	<p>Data Processor の次の設定を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none">● Data Processor のタイムスロットの最小長 (分): Data Processor のタイムスロットに割り当てる必要がある最小時間 (分)。 標準設定値: 1 分● 保留中の Data Processor タスクのタイムアウト (分): データ処理タスクが保留中のままの状態を維持できる時間。 標準設定値: 30 分
適用	定義した設定を保存します。
標準設定	Performance Center サーバおよび Data Processor の標準設定を復元します。

第3章: プロジェクト設定

本章の内容

プロジェクトの設定の概要	29
プロジェクトを作成する方法	30
プロジェクト設定のユーザ・インタフェース	31

プロジェクトの設定の概要

プロジェクト設定モジュールを使用すると、プロジェクト設定の次のような項目を表示、変更できます。

- 一般的なプロジェクトの詳細
- パフォーマンス・テストのターゲットとしての IP アドレスの使用
- プロジェクトと使用状況への VUD 仮想ユーザの割り当て
- プロジェクトに対するタイムスロットの設定
- プロジェクトに対する Controller の設定

ターゲット IP アドレスの使用方法の詳細については、「[ターゲット IP アドレスの使用](#)」(29ページ)を参照してください。

ターゲット IP アドレスの使用

ターゲット IP アドレスは、指定されたネットワーク上のすべてのホストのアドレスが共通のプレフィックスを共有するように割り当てられます。共通のプレフィックスで IP アドレスのネットワーク部分を定義し、残りではホスト部分(ローカル部分とも呼ばれる)を定義します。

このコンテキストでのネットワークという用語は、1つまたは複数の物理ネットワークにまたがる論理ネットワークを指します。IP アドレスのネットワーク部分によってサイトが識別され、ローカル部分によってそのサイトの1つのホストが識別されます。

サブネット・マスクの使用

サブネット・アドレス指定を使用しているサイトは、各ネットワークに32ビットのサブネット・マスクを指定する必要があります。サブネット・マスクの各ビットは、ネットワークで IP アドレスの対応するビットがネットワーク・アドレスの一部として扱われる場合、1に設定され、IP アドレスの対応するビットがホスト ID として扱われる場合、0に設定されます。

たとえば、次のサブネット・マスクを考えてみましょう。

```
11111111 11111111 00000000 00000000
```

(10進数形式では255.255.0.0)。このサブネット・マスクでは、最初の2つのオクテットでネットワークが識別され、最後の2つのオクテットでそのネットワークのホストが識別されます。

個々の IP アドレスの定義時に追加する、サブネット・マスク255.255.255.255(2進数形式では11111111 11111111 11111111 11111111)では、サブネット・マスクが存在しないかのように、IP アドレ

スの4つのオクテットすべてでネットワークとホストが識別されます。実際上は、NULLがターゲット・パフォーマンス・テストに対する正確なIPアドレスとして使用されます。

プロジェクトを作成する方法

このタスクでは、プロジェクトを作成する方法について説明します。サイト管理でプロジェクトを作成し、ラボ管理でプロジェクトの設定を定義します。

注:

- このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)を参照してください。
- **製品の機能紹介ムービー:** パフォーマンス・テスト・プロジェクトの作成方法を例示するムービーを表示するには、ALMのメイン・ウィンドウで、[ヘルプ]>[ムービー]を選択します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「サイト管理へのログイン」(30ページ)
- 「プロジェクト・ドメインの作成 - オプション」(30ページ)
- 「プロジェクト管理者ユーザの作成」(30ページ)
- 「新規プロジェクトの作成」(31ページ)
- 「その他のプロジェクト管理者のプロジェクトへの割り当て - オプション」(31ページ)
- 「プロジェクトの設定の定義」(31ページ)
- 「プロジェクト・ユーザの追加とカスタマイズ」(31ページ)

1. サイト管理へのログイン

Webブラウザを開き、次の形式でALMのURLを入力します。

```
http://<ALM名>[:<ポート番号>]/qcbn
```

HP Application Lifecycle Managementウィンドウで、[サイト管理]をクリックします。

サイト管理者のユーザ名とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックします。

2. プロジェクト・ドメインの作成 - オプション

[ドメインの作成]ボタンをクリックし、新しいドメインの名前を入力して、[OK]をクリックします。

3. プロジェクト管理者ユーザの作成

- a. [サイトのユーザ]タブを選択し、[ユーザの新規作成]ボタンをクリックします。[ユーザの新規作成]ダイアログ・ボックスが開きます。
- b. プロジェクト管理者ユーザの詳細を入力し、[OK]をクリックします。
- c. ユーザを選択し、[パスワード]をクリックして、パスワードを入力します。[OK]をクリックします。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

4. 新規プロジェクトの作成

- a. [サイトのプロジェクト]タブをクリックし、プロジェクトを作成するドメインを選択します。
- b. [プロジェクトの作成]ボタンをクリックし、プロジェクトを作成する手順を実行します。必要な場合、次の操作を実行します。
 - 上記で作成したプロジェクト管理者ユーザを追加します。
 - まだ有効になっていない場合には、**ALM ラボ拡張**を有効化します。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

5. その他のプロジェクト管理者のプロジェクトへの割り当て - オプション

その他のプロジェクト管理者を追加するには、次の手順を実行します。

- a. [サイトのプロジェクト]タブをクリックします。
- b. 左側の[プロジェクト]リストで、作成したプロジェクトを選択します。
- c. 右の表示枠の[プロジェクト ユーザ]タブをクリックします。
- d. 別のユーザを追加し、[プロジェクト管理者]を選択します。

6. プロジェクトの設定の定義

プロジェクトは標準設定で作成されますが、必要に応じて変更できます。ラボ管理で、次のようにプロジェクトの設定を定義します。

- a. 管理者のユーザ名とパスワードを使用して、ラボ管理にログインします。
- b. ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]で、[プロジェクト設定]を選択します。
- c. 少なくとも次の設定を定義します。ホスト数の上限、仮想ユーザ数の上限、同時実行数の上限。

ユーザ・インターフェースの詳細については、「[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックス」(36ページ)を参照してください。

注: プロジェクト管理者は、ALM 内のプロジェクトのプロジェクト設定を表示し、いくつかのプロジェクト設定を変更できます。ALM 内のプロジェクト設定にアクセスするには、ALM マストヘッドで、[ツール] > [ラボ設定]を選択します。

7. プロジェクト・ユーザの追加とカスタマイズ

この手順は、プロジェクト管理者が実行します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクト設定のユーザ・インターフェース

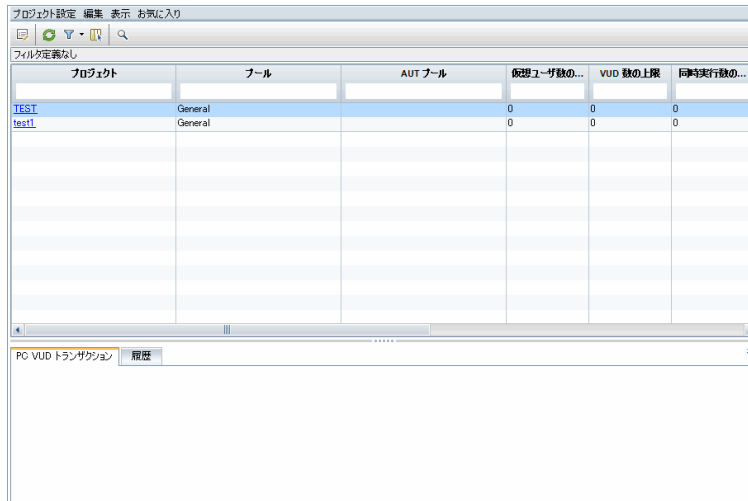
本項の内容

プロジェクト設定モジュール	32
プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン	33
プロジェクト設定モジュールのフィールド	35

[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックス 36
 [Performance Center Controller のオプション]ダイアログ・ボックス 42

プロジェクト設定モジュール

このモジュールを使用すると、すべてのプロジェクトとその設定を表示、管理できます。



アクセス方法	サイドバーの[ラボ設定]で、[プロジェクト設定]を選択します。
重要な情報	このモジュールによって、ALM 内のすべてのプロジェクトのリストが表示されます。 あるいは、特定のプロジェクト内からプロジェクト設定にアクセスできます。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」(30ページ)
参照情報	「プロジェクトの設定の概要」(29ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<プロジェクト設定モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト設定モジュールのフィールド: フィールドの定義については、「プロジェクト設定モジュールのフィールド」(35ページ)を参照してください。 プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン」(33ページ)を参照してください。 ALM メイン・メニューとサイドバー: [ツール]メニュー、[ヘルプ]メニュー、サイドバーの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<プロジェクト設定のグリッド>	ALM 内のプロジェクトのリストとそのプロジェクト設定が表示されます。

UI 要素	説明
[PC VUD トランザクション] タブ	各プロジェクト内のPC VUD トランザクションが表示されます。詳細については、「[プロジェクト設定の詳細] ダイアログ・ボックス」(36ページ)を参照してください。
[履歴] タブ	現在選択されているプロジェクトに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

プロジェクト設定モジュールのメニューとボタン

プロジェクト設定モジュールを使用すると、プロジェクト設定を表示、管理できます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> サイドバーの[ラボ設定]で、[プロジェクト設定]を選択します。 プロジェクト管理者: ALM のマストヘッドで、[ツール] > [Performance Center プロジェクトの設定]を選択します。
重要な情報	プロジェクト管理者の場合、ALMで現在のプロジェクト設定を表示できます。一部の設定を変更することもできます。

プロジェクト設定モジュールのメニューとツールバーについて次に説明します。

UI 要素	場所	説明
お気に入り追加	お気に入り	[追加 お気に入り] ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー	[プロジェクト設定]と<右クリック・メニュー>	選択したプロジェクトをコピーして、そのURLをリンクとして貼り付けます。プロジェクト自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックするとALMが起動し、プロジェクト・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALMによって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
エクスポート	[プロジェクト設定]と<右クリック・メニュー>	<p>[グリッド データのエクスポート] ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのプロジェクト設定をテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてエクスポート: グリッドのすべてのプロジェクト設定をエクスポートします。 選択項目のエクスポート: グリッドの選択したプロジェクト設定をエクスポートします。

UI 要素	場所	説明
検索 	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでプロジェクト設定を検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
プロジェクト設定に移動	プロジェクト設定	[プロジェクト設定に移動]ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のプロジェクト設定レコードを検索できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、プロパティを変更するか、ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
プロジェクト設定の詳細 	[プロジェクト設定]と<右クリック・メニュー>	[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックスが開き、選択したプロジェクトの詳細を表示、編集できます。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	プロジェクトの詳細のグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 プロジェクト設定のフィールドの詳細については、「プロジェクト設定モジュールのフィールド」(35ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のプロジェクト設定に対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
選択項目の更新	[編集]と<右クリック>メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

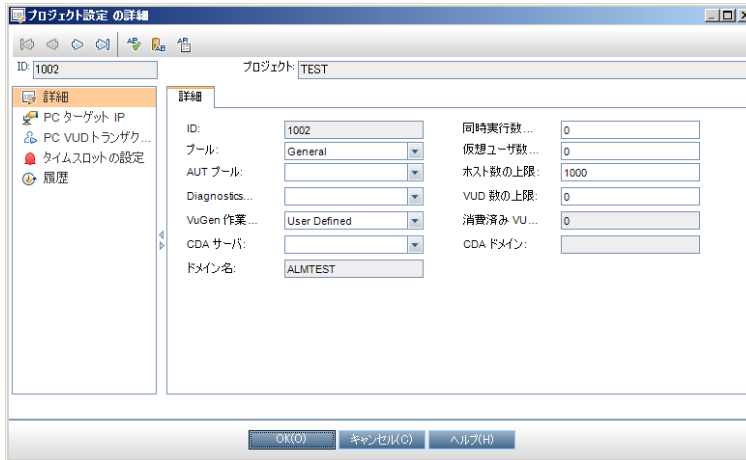
プロジェクト設定モジュールのフィールド

本項では、プロジェクト設定モジュールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
AUT プール	プロジェクトの AUT ホスト・プール。
CDA ドメイン	CDA サーバのドメイン。
CDA サーバ	CDA サーバの名前。
同時実行数の上限	プロジェクト内で許可される同時テスト実行の最大数。
Diagnostics サーバ	プロジェクトに定義されている Diagnostics サーバ。
ドメイン名	プロジェクトが作成されたドメイン。
ホスト数の上限	タイムスロットに予約するホストの合計数 (Controller + Load Generator) は、この上限を超えることはできません。
ID	プロジェクトの ID。
プール	プロジェクトのホスト・プール。
プロジェクト	プロジェクトの名前。
消費済み VUD 数	プロジェクトによって消費されている VUD の数。
VUD 数の上限	プロジェクトで利用できる VUD の最大数。
VuGen 作業モード	VuGen からスクリプトをアップロードするために使用するモード。 <ul style="list-style-type: none">• [Runtime Files]モード: スクリプトを正しく再生するのに必要なファイルのみアップロードします。• [User Defined]モード: サムネール画像を含む利用可能なすべてのファイルをアップロードします。
仮想ユーザ数の上限	プロジェクトで一度に実行できる仮想ユーザの最大数。すべてのプロジェクトの同時実行パフォーマンス・テストで使用される合計数は、この上限を超えることはできません。

[プロジェクト設定の詳細]ダイアログ・ボックス



このダイアログ・ボックスを使用すると、プロジェクトの設定を行うことができます。





<p>アクセス方法</p>	<p>ラボ管理の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. サイドバーの[ラボ設定]で、[プロジェクト設定]を選択します。 2. グリッド内のプロジェクトを右クリックし、[プロジェクト設定の詳細]を選択します。 <p>ALMの場合：</p> <p>ALM マストヘッドで、[ツール] > [Performance Center プロジェクトの設定]を選択します。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>[Controller のオプション] ページは、特定のプロジェクトにログインした場合にのみ利用できます。ラボ管理では、Controller のオプションを設定できません。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「プロジェクトを作成する方法」(30ページ)</p>
<p>参照情報</p>	<p>「プロジェクトの設定の概要」(29ページ)</p>

共通要素

次に、共通ユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	<p>最初の/前の/次の/最後のエンティティ: プロジェクトのリストの間を移動できます。</p> <p>利用可能な場所: ラボ管理のみ。</p>
	<p>スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。</p>

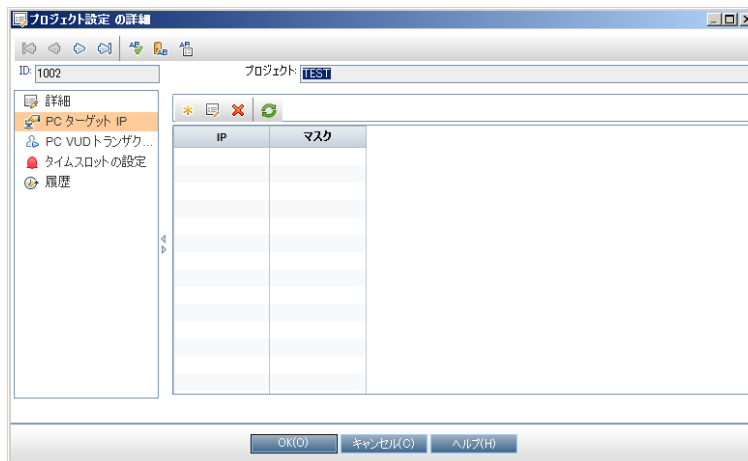
UI 要素	説明
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
プロジェクト	プロジェクトの名前。

[詳細] ページ

このページには, 選択したプロジェクトの一般的な詳細が表示されます。詳細については, 「プロジェクト設定モジュールのフィールド」(35ページ)を参照してください。



[PC ターゲット IP] ページ



このページを使用すると, パフォーマンス・テストのターゲットとして使用する IP アドレスを定義できます。



重要な情報	ターゲット IP を定義できるのは, Performance Center host のみで, スタンドアロン Load Generator では定義できません。
関連タスク	「プロジェクトを作成する方法」(30ページ)
参照情報	「ターゲット IP アドレスの使用」(29ページ)

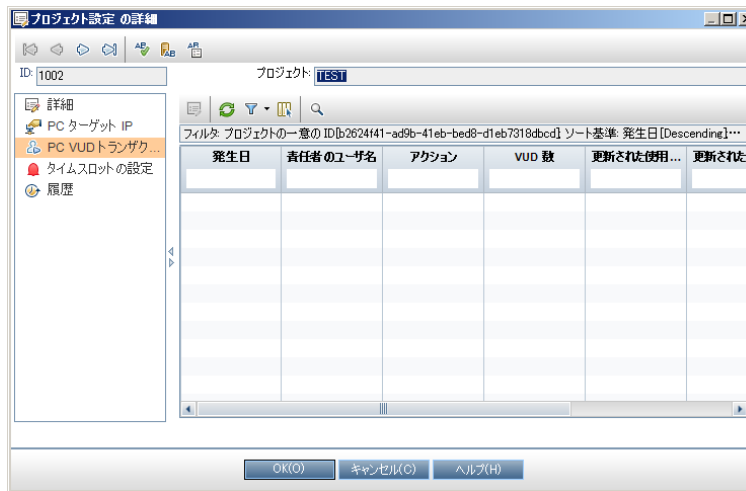
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	新規 : [新規ターゲット IP] ダイアログ・ボックスが開き, パフォーマンス・テストのターゲットとして使用する IP アドレスを定義できます。
	編集 : [ターゲット IP 詳細] ダイアログ・ボックスが開き, 選択したターゲット IP の詳細を表示, 編集できます。

UI 要素	説明
	削除: 選択したターゲット IP を削除できます。
	更新: 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
IP	ターゲット IP アドレス。
マスク	各 ネットワークの 32 ビットのサブネット・マスク。

[PC VUD トランザクション] ページ

このページを使用すると、プロジェクト内の PC VUD トランザクションを追跡できます。



次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
アクション	実行する VUD アクション。可能なアクションの詳細については、「VUD のアクション」(39ページ)を参照してください。
使用中の 実行 ID	VUD を現在実行しているテスト実行の ID。
所有者実行 実行 ID	VUD を最初に発行したテスト実行の ID。
発生日	トランザクションが発生した日付。
責任者の ユーザ名	トランザクションを担当するユーザまたは自動化されたシステム・プロセス。

UI 要素	説明
トークンの一意の ID	同じトランザクションに属するすべてのアクションを識別します。 注: VUD を使用する 1 つの通常の実行で、発行済み、保留中、期限切れの 3 つのアクションがあります。これらの各アクションには、異なるトランザクション ID が設定されますが、トークン ID は同じです。
更新された使用中の VUD	トランザクションの結果実行中の VUD の現在の数。
更新された保留中の VUD	トランザクションの結果保留中の状態にある VUD の現在の数。
更新されたプロジェクトの上限	トランザクションの結果によるプロジェクトの VUD の上限。
VUD 数	アクションに関わる VUD の数。
VUD トランザクション ID	アクション ID。

VUD のアクション

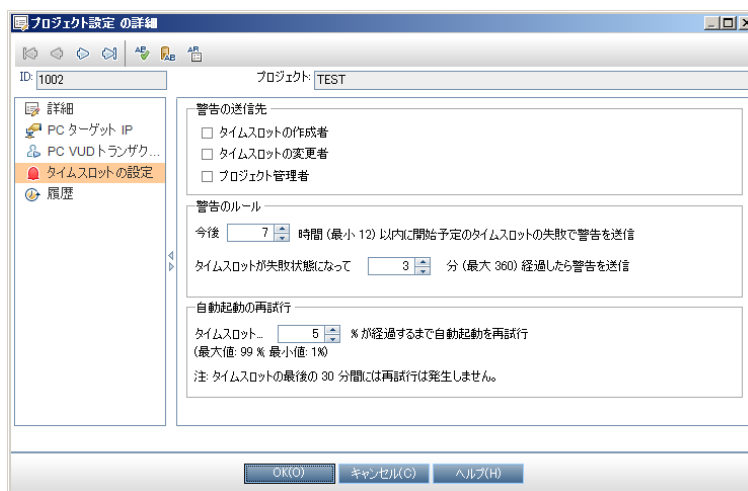
次の表に、可能な VUD アクションの一覧を示します。

UI 要素	説明
割り当て済み	管理者によってプロジェクトの VUD 数の上限に追加された VUD 数。
割り当て解除済み	管理者によってプロジェクトの VUD 数の上限から削除された VUD 数。
期限切れ	24 時間の有効期間終了後にライセンスから削除される VUD 数。 注: 24 時間を超えるパフォーマンス・テストに関わる VUD は、期限が切れても完了するまで実行し続けます。

UI 要素	説明
発行済み	パフォーマンス・テストに追加される VUD 数。 注: <ul style="list-style-type: none"> パフォーマンス・テストに関わるすべての VUD は、実行が開始されていたかどうかに関わらず、テストの開始時点から発行されているものと見なされます。 発行済みの VUD 数によって、プロジェクトの VUD 数の上限は減ります。 未使用のすべての VUD は、テストの完了時点でプロジェクトの VUD 数の上限に戻されます。
保留中	テスト実行は完了したが、24 時間の有効期間が終了していないため、今後さらに利用できる VUD 数。
返却済み	発行済みで、テストで未使用の VUD 数。これらの VUD は、プロジェクトの VUD 数の上限に戻され、後日再発行される可能性があります。
再使用済み	保留中の状態の VUD から差し引かれる実行中の VUD 数。 注: ALM Performance Center は、新しい VUD を発行する前に、保留中の状態の VUD を再利用します。たとえば、 100 個の VUD を含むパフォーマンス・テストを定義するとします。ここで、現在のプロジェクトの上限は 200 で、 25 個の VUD が現在保留中の状態です。ALM Performance Center は、この場合最初に 25 個の保留中の VUD を再利用し、ライセンスからは 75 個のみ発行します。新しい上限は 125 個になります。

[タイムスロットの設定] ページ

このページを使用すると、タイムスロットの設定を行うことができます。



次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

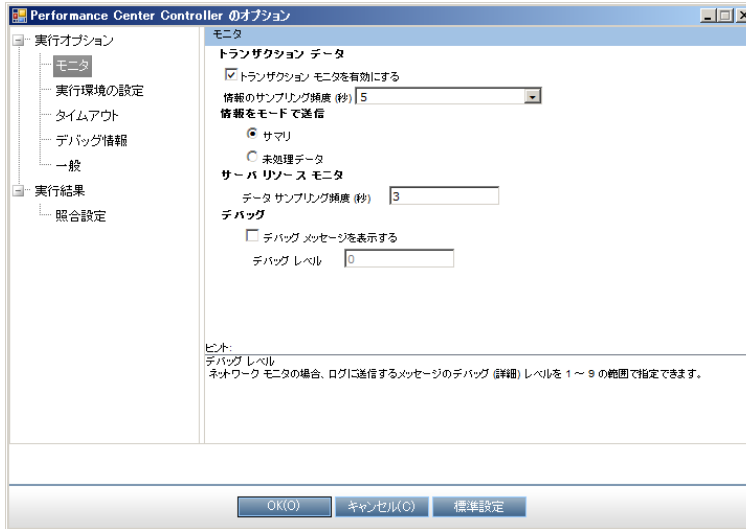
UI 要素	説明
警告の送信先	タイムスロット 警告を受信する必要があるユーザ。 <ul style="list-style-type: none">タイムスロットの作成者: タイムスロットを予約したユーザ。タイムスロットの変更者: タイムスロットを最後に変更したユーザ。プロジェクト管理者: タイムスロットが予約されたプロジェクトの管理者。
警告のルール	タイムスロット 警告を送信する条件(両方の条件を保持する必要があります)。 <ul style="list-style-type: none">今後 <XX> 時間以内に開始予定のタイムスロットの失敗で警告を送信: タイムスロット開始予定のXX時間以内に警告を送信します。 標準設定値: 72 時間 最小値: 12 時間タイムスロットが失敗状態になって <XX> 分経過したら警告を送信: タイムスロットがXX分間無効になったら警告を送信します。 標準設定値: 30 分 最大値: 360 分(6 時間)
自動起動の再試行	タイムスロットにリンクされているパフォーマンス・テストの自動起動が予定されているが、実行を開始しない場合、システムは正常に実行されるまで、テストの自動起動を試行し続けます。 [自動起動の再試行]オプションでは、システムがテストの自動起動の試行を停止する必要があります。いずれの場合でも、タイムスロットの残りが30分以内になると、再試行は停止されます。 標準設定値: 50%, つまり、タイムスロットの半分が経過すると、システムは再試行を停止します。 最大値: 99%, 最小値: 1% 注: システムは、最大 3 回 パフォーマンス・テストの再起動を試みます。

履歴ページ

このページには、プロジェクトに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[Performance Center Controller のオプション]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、Performance Center プロジェクトの Controller のグローバル・オプションを設定できます。



<p>アクセス方法</p>	<p>ALM マストヘッドで、[ツール] > [Performance Center Controller のオプション] を選択します。</p> <p>注: このページにアクセスできるのは、ALM プロジェクト自身からのみで、ラボ管理からはアクセスできません。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>Controller は、パフォーマンス・テストのマネージャです。Controller は、スクリプト、その実行時の設定、使用する Load Generator のリストを受け取ります。Controller は、実行するスクリプト、スクリプトごとに実行する仮想ユーザ数、仮想ユーザの実行の開始時点を含む指示を Load Generator に発行します。</p> <p>パフォーマンス・テスト中に、Controller はオンライン監視情報を表示します。テスト実行の終了時に、Controller は Analysis 用のデータを照合します。</p> <p>パフォーマンス・テストを実行する前に、プロジェクト内のすべてのパフォーマンス・テストに対して Load Generator と仮想ユーザのオプションを設定できます。標準設定ではほとんどの環境に対応できますが、設定を変更してテストの動作をカスタマイズできます。</p> <p>これらの設定は、プロジェクトの今後のすべてのテスト実行に適用され、通常、一度だけ設定する必要があります。これらの設定は、パフォーマンス・テストのすべての Load Generator にグローバルに適用されます。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「プロジェクトを作成する方法」(30ページ)</p>
<p>参照情報</p>	<p>「プロジェクトの設定の概要」(29ページ)</p>

[実行オプション] > [モニタ]

トランザクション・モニタをアクティブにし、トランザクション・データの動作を設定し、オンライン・モニタのデータ・サンプリング頻度、デバッグ、周波数設定を設定できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
トランザクション・データ	<p>トランザクション、データ・ポイント、および Web リソースの各 オンライン・グラフ用のデータの動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none">● トランザクション・モニタを有効にする: オンライン仮想 ユーザ・トランザクション・モニタを有効にして、テスト実行の開始時にトランザクションの監視を開始するには、このオプションを選択します。 <p>情報のサンプリング頻度 (秒) <>: オンライン・モニタがデータをサンプリングして、トランザクション、データ・ポイント、Web リソースの各 オンライン・グラフを作成する頻度 (秒単位) を選択します。</p> <p>頻度が高いほど、ネットワーク・トラフィックが少なくなります。データは定義された頻度の期間で平均化され、ただ 1 つの値が Controller に送信されます。</p> <p>標準設定値: 5 秒</p> <p>例:</p> <ul style="list-style-type: none">■ 小さなテストでは、頻度 1 を使用してください。■ 大きなテストでは、頻度 3 ~ 5 を使用してください。 <p>注: テスト実行中にこれらの設定を変更できません。モニタを非アクティブ化するか、頻度を変更する前に、テスト実行を停止する必要があります。</p>
情報をモードで送信	<p>データを Controller に返信する方法を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">● サマリ: トランザクション・データのサマリを Controller に返信します。● 未処理データ: トランザクション・データをすべて未処理形式で Controller に返信します。未処理データを送信すると、データを処理する必要がないため、時間を節約できます。 <p>注: [未処理データ]を選択した場合、Controller に転送されるデータ量によって、より多くのネットワーク・トラフィックが発生する可能性があります。転送速度が重要な場合は、[サマリ]を選択してください。</p>

UI 要素	説明
サーバ・リソース・モニタ	<p>サーバ・リソース・モニタの動作を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● データ・サンプリング頻度: 連続して行われるデータ・サンプリングの間の時間 (秒) です。標準設定では、オンライン・モニタは 3 秒の間隔でデータをサンプリングします。サンプリング頻度を大きくすると、データの監視頻度が減ります。この設定はすべてのグラフに適用されます。 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ここで設定したサンプリング頻度は、その後アクティブにするすべてのサーバ・モニタに適用されます。すでにアクティブにされているサーバ・モニタには適用されません。新しいサンプリング頻度をアクティブになっているサーバ・モニタに適用するには、パフォーマンス・テストを保存してから再度開きます。 ● 各タイプのモニタには、異なる最小サンプリング頻度が設定されています。標準設定のサンプリング頻度またはここで設定されている頻度がモニタの最小サンプリング頻度より小さい場合、モニタはその最小サンプリング頻度でデータをサンプリングします。たとえば、Oracle モニタの最小サンプリング頻度は 10 秒です。ここでデータ・サンプリング頻度が 10 秒未満に設定されている場合、Oracle モニタは 10 秒の間隔でデータを監視し続けます。
デバッグ	<ul style="list-style-type: none"> ● デバッグ・メッセージを表示する: オンライン・モニタはデバッグ機能を提供します。デバッグ・メッセージを出力ウィンドウに表示するには、このオプションを選択します。 ● デバッグ・レベル: ネットワーク・モニタの場合、ログに送信するメッセージのデバッグ (詳細) レベルを 1 ~ 9 の範囲で指定できます。

[実行オプション] > [実行環境の設定]

仮想ユーザ・クォータ、仮想ユーザの停止時、およびランダム・シーケンス・シードに関連するテストの実行環境の設定を指定して、システムに負荷がかかりすぎるのを防止し、仮想ユーザが実行を停止する方法を制御できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
仮想ユーザ・クォータ	<p>仮想ユーザ・クォータは、システムに負荷がかかりすぎるのを防止し、すべての Load Generator の仮想ユーザに適用されます。</p> <p>すべての Load Generator で同時に初期化できる仮想ユーザ数: 一度に初期化できる仮想ユーザ数を制限します (初期化コマンドの送信時)。</p> <p>標準設定値: 999</p>

UI 要素	説明
仮想ユーザの停止時	<p>テスト実行を手動で停止時に仮想ユーザが実行を停止する方法を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 停止前に現在の反復終了まで待機する:(標準設定オプション)停止前に仮想ユーザが実行中の反復を完了します。仮想ユーザは[徐々に終了]ステータスに移行し、段階的にテスト実行を終了します。 停止前に現在のアクション終了まで待機する:停止前に仮想ユーザが実行中のアクションを完了します。仮想ユーザは[徐々に終了]ステータスに移行し、段階的にテスト実行を終了します。 直ちに停止する:仮想ユーザは直ちに実行を停止して、[終了中]ステータスに移行し、直ちにテスト実行を終了します。
ファイルタイプ・パラメータのランダム・アドバンス・モード	<ul style="list-style-type: none"> シード付きのランダム・シーケンスを使用する:ランダム・シーケンスのシード数を設定できます。テストの実行中に問題が発生して、同じシーケンスのランダム値を使用してテストを繰り返す場合、このオプションを選択します。 シードを使用する<#>:各シード値は、テストの実行に使用されるランダム値の1つのシーケンスを表します。このシード値を使用するときは、常に同じシーケンスの値がテスト内の仮想ユーザに割り当てられます。 <p>この設定は、データ・ファイルから値を割り当てるために Random メソッドを使用しているパラメータ化された仮想ユーザ・スクリプトに適用されます。記録された思考遅延時間の乱数率(『HP Virtual User Generator ユーザーズ・ガイド』の[実行環境の設定]ダイアログ・ボックスの情報を参照)にも影響します。</p>

[実行オプション] > [タイムアウト]

Performance Center のさまざまなコマンドのタイムアウトを設定できます。Controller からコマンドが発行されたら、コマンドを実行するための Load Generator または仮想ユーザの最大時間を設定できます。時間制限内にコマンドが完了しない場合、Controller はエラー・メッセージを発行します。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
コマンド・タイムアウト(秒)	<p>タイムアウトをチェックする:次に示すように、Load Generator と仮想ユーザのタイムアウトをチェックできます。</p> <p>注:このオプションを選択しない場合、ALM は、Load Generator による接続と切断、および初期化、仮想ユーザの開始、期間、仮想ユーザの停止の各アクションが実行されるのを無期限に待機します。</p>

UI 要素	説明
Load Generator	<p>Load Generator のタイムアウト制限:</p> <ul style="list-style-type: none">• 接続操作 (秒): 任意の Load Generator に接続するまでに待機する時間 (秒) です。この時間内に接続が成功しない場合、Load Generator のステータスは[失敗]になります。 標準設定の接続タイムアウト: 30 秒• 切断操作 (秒): 任意の Load Generator から切断するまで待機する時間です。Load Generator がこの時間内に切断しない場合、Load Generator のステータスは[失敗]になります。 標準設定の切断タイムアウト: 120 秒
仮想ユーザ	<p>仮想ユーザのタイムアウト制限:</p> <ul style="list-style-type: none">• 初期化ステージ (秒): 初期化アクションのタイムアウト値。 標準設定のタイムアウト制限: 180 秒• 実行ステージ (秒): 仮想ユーザの開始アクションのタイムアウト値。 標準設定のタイムアウト制限: 120 秒• 一時停止ステージ (秒): 期間アクションのタイムアウト値。 標準設定のタイムアウト制限: 120 秒• 停止ステージ (秒): 仮想ユーザの停止アクションのタイムアウト値。 標準設定のタイムアウト制限: 120 秒 <p>注: 計算では、アクティブな仮想ユーザ数とそのタイムアウト値への影響が考慮されます。たとえば、1000 個の仮想ユーザが初期化を試行している場合、10 個の仮想ユーザより時間がかかりかかります。アクティブな仮想ユーザ数に基づいて、指定したタイムアウト値に内部値が追加されるためです。</p>

[実行オプション] > [デバッグ情報]

テスト実行中にトレースする情報のタイプを選択できます。ここでの選択に応じて、トレース・ファイルが作成され、デバッグ目的での情報の収集に使用されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
次のトレースを有効にする	<p>発生しているパフォーマンス・テストの問題に関連するトレース・フラグ:</p> <ul style="list-style-type: none">● 一般: テスト実行中に一般トレースを実行します。● ファイル転送: テスト実行中にファイルの転送に関わる問題をトレースします。● 受信: テスト実行中に受信をトレースします。● 送信: テスト実行中に送信をトレースします。 <p>注: Performance Center エージェントと Controller は、仮想ユーザに送信されるパラメータ・ファイル、出力コンパイル・ファイル、設定ファイルなどの情報を収集するいくつかの一時ファイルを作成します。Performance Center エージェントのファイルは、エージェント・マシンの TMP または TEMP ディレクトリの brr フォルダに保存されます。Controller のファイルは、Controller マシンの TMP または TEMP ディレクトリの lrr フォルダに保存されます。テスト実行の最後に、これらのファイルはすべて自動的に削除されます。</p>

[実行オプション] > [一般]

IP スプーフィングを有効にした場合に、マルチ IP アドレスを割り当てるモードを選択できます。

[テスト オプション]ダイアログ・ボックスの詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
マルチ IP アドレス・モード	<p>Controller は、次のいずれかの方法で IP アドレスを割り当てることができます。</p> <ul style="list-style-type: none">● プロセスごとに IP アドレスを割り当てる: プロセスごとに IP アドレスを割り当てます。● スレッドごとに IP アドレスを割り当てる: スレッドごとに IP アドレスを割り当てるため、テスト実行における IP アドレスの範囲がより多様になります。 <p>例:</p> <ul style="list-style-type: none">● Web 仮想ユーザには、プロセスごとに IP アドレスを割り当てる必要があります。● WinSock 仮想ユーザの IP アドレスは、スレッドまたはプロセスごとに割り当てることができます。

[実行結果] > [照合設定]

実行結果の照合に関連する動作を指定できます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
出力メッセージ・データベース	<ul style="list-style-type: none">• 次の値より小さい場合に <code>output.mdb</code> を <code>RawResults.zip</code> に追加: 照合プロセスは、サイズが指定した <code>RawResults.zip</code> ファイルのサイズより小さい場合にのみ、<code>output.mdb</code> を <code>RawResults.zip</code> に追加します。• <code>output.mdb</code> を <code>RawResults.zip</code> から常に除外: 照合プロセスは、<code>output.mdb</code> を <code>RawResults.zip</code> から常に除外します。
タイムアウト	<ul style="list-style-type: none">• 照合タイムアウト (分): 照合プロセスが進捗なしに実行を継続する必要がある最大の時間。• 診断の照合タイムアウト (分): 結果と診断データの照合時に、照合プロセスが進捗なしに実行を継続する必要がある最大の時間。

第4章：メンテナンス・タスク

本章の内容

メンテナンス・タスクの概要	49
メンテナンス・タスクのユーザ・インタフェース	50

メンテナンス・タスクの概要

サーバ側のテストを ALM で実行するには、ラボ・システムが起動し、正常に動作している必要があります。自動メンテナンスのスケジュールを指定しておく、主要なシステム・コンポーネントを定期的に監視し、システム障害を検出することができます。システムの状態・チェックには、メンテナンス・タスク・モジュールを使用します。

次の表では、メンテナンス・タスクについて説明します。

UI 要素	説明
Check Host Task	ホストのインストールを確認し、ホストの状態を[稼働中]または[非稼働]に更新します。 標準設定の頻度: 24 時間ごと
Data Processor Task	次のアクションのいずれかのデータ処理キューを設定、更新します。テスト実行の分析、SLA の再計算、またはテスト実行のトレンド・レポートへの追加。 標準設定の頻度: 1 分ごと
Handle Non Polling Functional Hosts	登録済みのすべての機能テスト・ホストを対象に、[最終ポーリング時刻]フィールドをチェックします。長期間アクティブになっていないテスト・ホストを検出すると、状態を[アイドル]または[非稼働]に変更します。
OFW Status Update Task	ファイアウォール越しのホストの実際の状態([稼働中]または[非稼働])を更新します。 標準設定の頻度: 15 分ごと
Orphan Run Task	アクティブなタイムスロット中と外で孤立したテスト実行を識別します。 標準設定の頻度: 15 分ごと

UI 要素	説明
Resource Recovery Task	<p>[非稼働]状態の Controller と Load Generator で、定義済みの検証テストを実行します。ホストがテストに成功した場合、ステータスが[稼働中]に変わります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Controller の検証テスト: OTA 接続, 実行機能, 利用可能なディスク領域をテストします。 • Load Generator の検証テスト: エージェントへの接続をテストします。 <p>タスクのパラメータは次のガイドライン以内である必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • MIN_APPLICATION_DIR_DISK_SPACE: 10 ~ 1000 • CHECK_LG_TIMEOUT: 1 ~ 15 • MAX_RETRIES: 1 ~ 1000 <p>標準設定の頻度: 15 分ごと</p> <p>注: ファイアウォール越しの Load Generator の場合, これは OFW ステータス更新タスクによって実行されます(上記を参照)。</p>
Result Cleaning Task	<p>次のインスタンスで、Controller または Load Generator からのテスト実行結果をクリーニングします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 結果がすでに照合済みの場合。 • 結果が照合されていない古いパフォーマンス・テストがある場合。 • パフォーマンス・テストが削除済みの場合。 <p>RESULT_EXPIRY_DAYS タスク・パラメータには、1 ~ 1000 の値を指定します。</p> <p>標準設定の頻度: 6 時間ごと</p>
Synchronize Lab and SA times	<p>ラボ管理とサイト管理者の時刻の差異を検出し、DATACONST テーブルの SA_LAB_TIME_DIFF_MILLIS パラメータに設定します。</p>

メンテナンス・タスクのユーザ・インターフェース

本項の内容

メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ	51
メンテナンス・タスクのフィールド	51
メンテナンス・タスクのメニューとボタン	52
[メンテナンスタスクの詳細]ダイアログ・ボックス	54

メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ

このモジュールには、システムによって実行されたメンテナンス・タスクに関する情報が表示されます。

名前	反復実行 (分)	説明	最終実行時刻
Resource Recovery Task	15	リソースの回復タスク	2013/05/02 19:02:11
Result Cleaning Task	360	結果のクリーニングタスク	2013/05/02 15:46:51
SPW Status Update Task	15	ファイアウォール越しのホスト ステータスの更新タスク	2013/05/02 19:02:11
Orphan Run Task	15	ヘルス チェックのテスト実行	2013/05/02 19:02:11
Data Processor Task	1	保管中の Data Processor タスクの処理	2013/05/02 19:03:11
Check Host Task	15	ホストの妥当性チェックのテスト	2013/05/02 19:02:11
Handle Non-Polling Functional Hosts	5	非ポーリング機能ホストを非稼働およびアイドルにします	2013/05/02 19:02:11
Sanchronize Lsh and SA times	5	このタスクは、ラボと SA の間の時間管理を DATACONST テーブルのク...	2013/05/02 19:03:11
Handle Stale Execution	5	クライアントによっては更新されていない期限切れの実行項目を...	
Orphan PAL Reports Task	60	レポートの構成要素になっていないレポート項目を削除します。	2013/05/02 18:48:10

アクセス方法	サイドバーの[ラボ設定]で、[メンテナンス タスク]を選択します。
参照情報	「メンテナンス・タスクの概要」(49ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<[メンテナンス タスク]タブの UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> メンテナンス・タスクのフィールド: フィールドの定義については、「メンテナンス・タスクのフィールド」(51ページ)を参照してください。 メンテナンス・タスクのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「メンテナンス・タスクのメニューとボタン」(52ページ)を参照してください。 ALM メイン・メニューとサイドバー: [ツール]メニュー、[ヘルプ]メニュー、サイドバーの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<メンテナンス・タスクのグリッド>	メンテナンス・タスクのリストが表示されます。詳細については、「メンテナンス・タスクの概要」(49ページ)を参照してください。
[パラメータ]タブ	選択したメンテナンス・タスクの説明が表示されます。
[説明]タブ	<p>選択したメンテナンス・タスクのパラメータ情報が表示されます。</p> <p>テキスト・ボックス内で右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。</p>




メンテナンス・タスクのフィールド





[メンテナンス タスク]タブでは、次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明
説明	メンテナンス・タスクの説明。
ID	メンテナンス・タスクのID。
最終実行時刻	メンテナンス・タスクを最後に実行した時刻。
名前	メンテナンス・タスクの名前。メンテナンス・タスクのタイプのリストについては、「メンテナンス・タスクの概要」(49ページ)を参照してください。
反復実行(分)	メンテナンス・タスクの頻度。

メンテナンス・タスクのメニューとボタン

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。


UI 要素	場所	説明
URL のコピー 	[メンテナンスタスク]と <右クリック・メニュー>	<p>選択したメンテナンス・タスクをコピーして、その URL をリンクとして貼り付けます。タスク自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、タスク・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。</p>
エクスポート	[メンテナンスタスク]と <右クリック・メニュー>	<p>[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのタスクをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート: グリッドのすべてのタスクをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート: グリッドの選択したタスクをエクスポートします。
検索 	表示	<p>[検索]ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでタスクを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
メンテナンス・タスクに移動 	メンテナ ス・タスク	<p>[メンテナンスタスクに移動]ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のタスクを検索できます。現在のフィルタで利用可能なタスクにのみ移動できます。</p>
グリッド・フィルタ	[表示]と< 右クリック・メニュー>	<p>[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>

UI 要素	場所	説明
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
メンテナンスタスクの詳細 	[メンテナンスタスク]と<右クリック・メニュー>	[メンテナンスタスクの詳細]ダイアログ・ボックスが開き、タスクの詳細を表示、編集できます。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッドに[置換]ダイアログ・ボックスを開き、グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 システムのヘルスのフィールドの詳細については、「メンテナンス・タスクのフィールド」(51ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のタスクに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	[編集]と<右クリック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。





[メンテナンス タスクの詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したメンテナンス・タスクの詳細情報が表示されます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> サイドバーの[ラボ設定]で、[メンテナンス タスク]を選択します。 グリッドでメンテナンス・タスクを選択し、[メンテナンス タスクの詳細]ボタン  をクリックします。
参照情報	<p>「メンテナンス・タスク・モジュール・ウィンドウ」(51ページ)</p> <p>「メンテナンス・タスクのフィールド」(51ページ)</p> <p>「メンテナンス・タスクの概要」(49ページ)</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ: ホストのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
[詳細]タブ	現在選択されているメンテナンス・タスクの詳細が表示されます。詳細については、「メンテナンス・タスクのフィールド」(51ページ)を参照してください。
[説明]タブ	選択したメンテナンス・タスクの説明が表示されます。
[パラメータ]タブ	パラメータ、パラメータの値と説明をグリッドに表示します。詳細については、「メンテナンス・タスクの概要」(49ページ)を参照してください。

第5章: ラボ・リソース

本章の内容

ラボ・リソースの概要	55
ラボ・リソースを管理する方法	57
ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インタフェース	64

ラボ・リソースの概要

ラボ・リソース・モジュールでは、LM サーバ側のテストで使用するテスト・リソースを定義します。

ラボ管理 なしで ALM を使用すると、ユーザはローカル・コンピュータからテストを管理する必要があります。ラボ管理 でテスト・ホストのセットアップが完了すると、ALM から、リモート・サーバでのテストのスケジュール設定やテストの自動実行が可能になります。ラボ管理 では、プロジェクトで使用するテスト・ホストやホスト・プールを設定できます。

次の表では、ラボ管理 で利用可能なテスト・リソースを一覧表示します。

リソース	説明
テストング ホスト/ホスト	<p>テストング・ホストは、テストを実行し、これらのテストから収集したデータを処理するために使用されます。機能ホストまたはパフォーマンス・ホスト、あるいはその両方のホストとして定義できます。機能ホストとパフォーマンス・ホストは、次の用途に使用できます。</p> <p>機能ホスト(ALM エディションのみ)</p> <ul style="list-style-type: none">● Business Process Testing: ビジネス・プロセス・テストが実行されるテストングホスト。● QuickTest Professional: QuickTest Professional が実行されるテストング・ホスト。● Service Test: Service Test が実行されるテストング・ホスト。● システム・テスト: システム・テストが実行されるホスト。● Unified Functional Testing: United Functional Testing が実行されるテストング・ホスト。● VAPI XP: VAPI-XP が実行されるテストングホスト。 <p>注: 機能テストにテストング・ホストを使用するには、テストング・ホストをLMに登録する必要があります。詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(228ページ)を参照してください。</p> <p>パフォーマンス・ホスト</p> <ul style="list-style-type: none">● Controller: パフォーマンス・テストの管理に使用されるテストングホスト。テストの実行中に、Controllerは、実行するスクリプト、スクリプトごとに実行する仮想ユーザ数、仮想ユーザの実行の開始時点と停止時点を含む指示をLoad Generatorに発行します。Controllerはテストごとに1つしかありません。● Load Generator: テスト中に仮想ユーザが実行されるテストングホスト。特定のテストに対して任意の数のLoad Generatorを使用できます。● Data processor: テストの実行中に収集されたデータを処理、公開するために使用されるテストングホスト。 <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none">● 柔軟性を高めるために(リソースが少ない場合に特に)、ControllerとLoad Generatorを兼用した1台のパフォーマンス・ホストを割り当てることができます。一般的に、この方法はお勧めできません。仮想ユーザの数が非常に少ないテストに対してのみ適しています。ホストの割り当て時に、システムは、ControllerとLoad Generatorを兼用したホストの前に、単一機能のホストの使用を試みます。● 1台のホストをController、Data processor 兼用として設定することもできますが、データ処理用には別のホストを設定することをお勧めします。● ファイアウォール越しのホストやUNIXホストは、Load Generator専用として使用できます。

リソース	説明
ホスト・プール	<p>ホスト・プールとは、テスト用ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあります。ホスト・プールを管理する場合、利用可能な総リソースを理解していることが重要です。プールには、少なくとも1つの Controller, 1つの Load Generator, 1つの Data Processor が含まれている必要があります。ホストには二重の機能を持たせられるため、プールには、他のホストの中でも Controller 機能専用のホストを少なくとも1台含めることをお勧めします。</p> <p>利用可能な場所: ラボ管理のみ。</p>
ホストの場所	<p>テスト用のホストを選択する場合、プール内のホストは広い物理的領域に配置できるため、ホストの場所を考慮に入れる必要があります。ファイアウォール越しのホストは、Load Generator としてのみ指定できます。</p> <p>利用可能な場所: ラボ管理のみ。</p>
MI Listener	<p>MI Listener は Controller と Performance Agent 間のルータとして機能するため、ファイアウォール越しに仮想ユーザを実行し、ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。MI Listener は、Performance Agent から定期的にデータを受け取ります。テストの実行中に、Controller は MI Listener からデータを取得し、実行時データとして処理します。MI Listener は Load Generator でのみ利用できます。</p> <p>ファイアウォールを使用するようにラボ管理を設定する方法の詳細については、『HP ALM Performance Center インストール・ガイド』のファイアウォールの使用に関する項を参照してください。</p> <p>利用可能な場所: ラボ管理の Performance Center モジュールのみ。</p>

ラボ・リソースの管理の詳細については、「[ラボ・リソースを管理する方法](#)」(57ページ)を参照してください。

ラボ・リソースを管理する方法

本項では、パフォーマンス・テストの設計と実行に必要なラボ・リソースの管理方法について説明します。

注:

- ALM プロジェクト自体に特定のプロジェクトのテスト用ホストを表示することもできます。
- **製品の機能紹介ムービー:** パフォーマンス・テストの実行に必要なラボ・リソースの設定方法を例示するムービーを表示するには、ALM のメイン・ウィンドウで、[ヘルプ] > [ムービー] を選択します。
- **ALM エディション:** 機能テスト用ホスト管理は ALM エディションにのみ利用できます。

本タスクの内容

- 「[ラボ・リソースの追加](#)」(58ページ)
- 「[ホスト・データの Excel からのインポート](#)」(59ページ)

- 「ラボ・リソースの詳細の変更/表示」(62ページ)
- 「テストングホストに対するホスト接続のチェック」(62ページ)
- 「ホストの再起動」(62ページ)
- 「ホストへのパッチのインストール」(63ページ)
- 「ホストの再設定」(63ページ)
- 「パフォーマンス・ホスト上のプロセスの終了」(63ページ)
- 「ホストのホスト・プールへのリンク」(63ページ)

ラボ・リソースの追加

テストを設計, 実行する前に, 必要なリソースをALMに追加する必要があります。この中には, ホスト, ホストの所属先のホスト・プール, ホストの場所, ファイアウォール越しのLoad GeneratorのMI Listenerが含まれます。ラボ・リソースの概要については、「ラボ・リソースの概要」(55ページ)を参照してください。



テストングホストを追加する前に, 次のことを確認してください。

- テスティング・ツールがテストング・ホストにインストールされていること。
- 追加しているテストング・ホストがリモートの場所にある場合, 場所が[ラボリソース] > [場所]モジュールで追加されたこと。
- 追加するテストング・ホストがファイアウォール越しにある場合, ホストはMI Listener経由でパフォーマンス・ホストと通信します。MI Listenerが[ラボリソース] > [MI Listener]モジュールで追加されたことを確認してください。
- HP ALM Lab Serviceが追加しているテストングホストにインストールされていること。タスクの詳細については、「HP ALM Lab Serviceのインストール」(223ページ)を参照してください。

ヒント: ホストのインポート機能を使用すると, ホストのリストをExcelファイルからALMにインポートできます。詳細については、「ホスト・データのExcelからのインポート」(59ページ)を参照してください。

ラボ・リソースを追加するには, 次の手順を実行します。

1. 新しいリソースを作成します。

- ラボ管理のラボ・リソースで, 関連するリソース・モジュールを選択し, [新規<リソース>]  ボタンをクリックします。詳細については、「[新規テストングホスト]ダイアログ・ボックス」(77ページ)を参照してください。
- ALMで, [ラボリソース]の[ホスト]モジュールを選択し, [新規ホスト]ボタン  をクリックします。詳細については、「[新規テストングホスト]ダイアログ・ボックス」(77ページ)を参照してください。ALMで作成されたホストはプライベート・ホストであり, 一度に1つのホスト・プールにしか存在できません。

- ### 2. テスティングホストを追加します。
- セキュリティ上の理由から, テスティングホストは事前にHP ALM Lab Serviceを使用して登録する必要があります。テストングホストの登録後, テスティングホストの登録はラボ管理内で承認される必要があります。

HP ALM Lab Service をダウンロードしてインストールするには、[ヘルプ] > [ツール] を選択してアドインページを開き、該当するアドインのリンクをクリックします。タスクの詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(228ページ)を参照してください。

注: 互換性を確保するには、Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンである必要があります。Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンではない場合、ALM とラボ管理のホスト/テストング・ホスト・グリッドで、テストング・ツールが[利用不可]として表示されます。

ホスト・データの Excel からのインポート

ホストのリストを Excel ファイル(.xls または .csv) から ALM にインポートできます。

1. Excel ファイルが、インポート機能によってそのカラムを認識、マップできるように設定されていることを確認します。

- Excel ファイルの最初の行には、次の表に表示されるフィールド名または対応する論理名が含まれている必要があります。(日付文字列は、大文字と小文字が区別されません。)

フィールドの中には、必須のフィールド、あるいは必要または任意指定のフィールドがあります。

- **必須**は、Excel ファイルに**必ずなければならない**フィールドを示します。このフィールドを省略すると、インポートは失敗します。このフィールドのカラムのいずれかの行で値を省略すると、その特定の行のインポートが失敗します。
- **必要**は、Excel ファイルに**ある必要がある**フィールドを示します。このフィールドを省略すると、コードによってすべての行に標準設定値が入ったフィールドが追加されます。フィールドを指定しても、このカラムのいずれかの行で値を省略すると、コードによってその行に標準設定値が追加されます。
- **任意指定**は、Excel ファイルにある**必要がない**フィールドを示します。このフィールドを省略しても、インポート手順に影響はありません。
- 仮想、参照、無効なフィールドを表すフィールドは無視されます。
- 空のカラムは許可されます。

次のようにファイル内のカラムと値を設定します。

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
HOST_NAME	名前	任意の文字列	ホスト・マシンの有効な名前。
必須			

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
HOST_PURPOSE 必須	用途	Controller, Load Generator, QTP, Sprinter などがあります。	<p>テストングホストの用途。</p> <p>注: オプションの任意の組み合わせを指定できません。オプションは、スペースなしでセミコロンで区切る必要があります。</p> <p>例: Controller; Data Processor; QTP</p>
HOST_STATE 必要	ステータス	<ul style="list-style-type: none"> ○ 稼動中 ○ 非稼動 ○ 利用不可 <p>標準設定値: 稼動中</p>	ホストの状態。
HOST_INSTALLATION 必要	インストール	<ul style="list-style-type: none"> ○ Unix Load Generator ○ Windows Host ○ Windows Standalone LG <p>標準設定値: Windows Host</p>	<p>ホストのインストールのタイプ。</p> <p>注: 次には、ダブル・スペースがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「Windows <スペース> <スペース> Host」 ○ 「Unix<スペース><スペース>Load Generator」
HOST_PRIORITY 必要	優先度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-最低の優先度 ○ 2, 3... 8 ○ 9-最高優先度 <p>標準設定値: 5</p>	ホストの優先度。
HOST_SSL_ENABLED 必要	SSLの有効化	<ul style="list-style-type: none"> ○ Y ○ N <p>標準設定値: N</p>	SSLの有効化
HOST_USERNAME 任意指定	ユーザ名	任意の文字列	ホストにログインするためのユーザ名。

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
HOST_PASSWORD 任意指定	パスワード	任意の文字列	ホストにログインするためのユーザ・パスワード。
HOST_DOMAIN 任意指定	ドメイン	任意の文字列	ホストのドメイン。
HOST_DESCRIPTION 任意指定	説明	任意の文字列	ホストの説明。

次の表に指定したフィールドは、Excel ファイルに含めないでください。各ホストのインポート中に、これらのフィールドには標準設定値が割り当てられます。

フィールド名	割り当てられる標準設定値
所属プール	一般
場所	標準設定値
MI Listener	なし

注: これらのフィールドのデータがExcel ファイルに含まれている場合、そのデータは無視されます。特定のホストに関連しない標準設定値は、ホスト・モジュールで手動で変更する必要があります。

例:

次の図は、2台のAUT ホスト ([test]abc, [test]host) と名前が提供されていない3番目のマシンによる Excel ファイルの設定を示しています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
	HOST_NAME	HOST_PURPOSE	HOST_STATE	HOST_INSTALLATION	HOST_PRIORITY	HOST_SSL_ENABLED	HOST_USER_NAME	HOST_PASS_WORD	HOST_DOMAIN	HOST_DESCRIPTION
1										
2	[test]abc	Load Generator	Operational	Windows Host	3	N				Host number 1
3	[test]host	Controller:Load Generator			8	Y	user	pass	domain	
4		Data Processor		Windows Host						
5										

2. 次の手順で host をインポートします。
 - a. [ラボリソース]で[ホスト]を選択します。
 - b. ホスト・モジュールで、[ホスト]>[インポート]を選択します。

c. ホストを含む Excel ファイルを参照し、[開く]をクリックします。

インポート・プロセスの最後に、レポートにインポート結果が表示され、インポートされたホストがホスト・モジュールにリストされます。正常にインポートされなかったホストは、手動で追加する必要があります。

ラボ・リソースの詳細の変更/表示

ラボ・リソースの詳細を変更または表示するには、関連するラボ・リソース・モジュールで、グリッド内のリソースを右クリックし、[<リソース>の詳細]を選択します。詳細については、「ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インターフェース」(64ページ)を参照してください。

テストング ホストに対するホスト接続のチェック

[ラボリソース]で[ホスト]を選択します。グリッド内のホストを右クリックし、[ホストの確認]を選択します。

タスク・マネージャが開き、ホスト上で実行された各チェックの結果全体、[成功]または[失敗]が表示されます。

ホスト・チェックの進行状況は、ホスト・モジュールの[ホストのステータスの確認]タブで確認できます。

注: 機能ホストで実行可能なテストは、[ホストへの ping]のみです。

ホストの目的と場所に基づいて、ホスト上で次のチェックが実行されます。

実行されるチェック	Load Generator ホスト					Data Processor ホスト	機能ホスト
	通常	UNIX	スタンドアロン	Controller OFW	ホスト		
ホストに対する ping	はい	はい	はい	N/A	はい	はい	はい
インストール済みのパッチ	はい	N/A	N/A	N/A	はい	はい	N/A
サービス	はい	N/A	N/A	N/A	はい	はい	N/A
パフォーマンス	はい	N/A	N/A	N/A	はい	はい	N/A
ファイアウォール越しのステータス	N/A	N/A	N/A	はい	N/A	N/A	N/A

あるいは、上記のチェックとともにホストから特定の URL への追加の接続チェックを実行できます。グリッド内のホストを右クリックし、[URL への接続性の確認]を選択して、URL を入力します。

例:

- 通常の URL: `http://www.website.com`
- マシン名: `machine22` または `http://machine22`

ホストの再起動

[ラボリソース]で[ホスト]を選択します。グリッド内の再起動するホストを右クリックし、[ホストの再起

動]を選択します。

ホストへのパッチのインストール

注:

- ホストにパッチをインストールするには、最初にパッチを ALM にアップロードしておく必要があります。詳細については、「[パッチの ALM へのアップロード方法](#)」(167ページ)を参照してください。
- パッチをホストにインストールできるのは、ホストの状態が[アイドル]の場合のみです。
- パッチは、パフォーマンス・ホストにのみインストールできます。

[ラボリソース]で[ホスト]を選択します。グリッド内のパッチをインストールするホストを右クリックし、[パッチのインストール]を選択します。

ユーザ・インターフェースの詳細については、「[\[インストールするパッチの選択\]ダイアログ・ボックス](#)」(90ページ)を参照してください。


ホストの再設定

注: 再設定可能なのはパフォーマンス・ホストのみです。

ホストを再設定すると、ホストのライセンス、Performance Center のシステム・ユーザ(IUSR_METRO)、ホスト・マシンの通信セキュリティ・パスフレーズがリセットされます。

ホストを再設定するには、[ラボリソース]で[ホスト]を選択します。グリッド内の再設定するホストを右クリックし、[ホストの再設定]を選択します。

パフォーマンス・ホスト上のプロセスの終了

パフォーマンス・ホストでプロセスを終了するには、[ラボリソース]で[ホスト]を選択します。ホストを選択し、[プロセス]タブでプロセスを選択して、をクリックします。

ホストのホスト・プールへのリンク

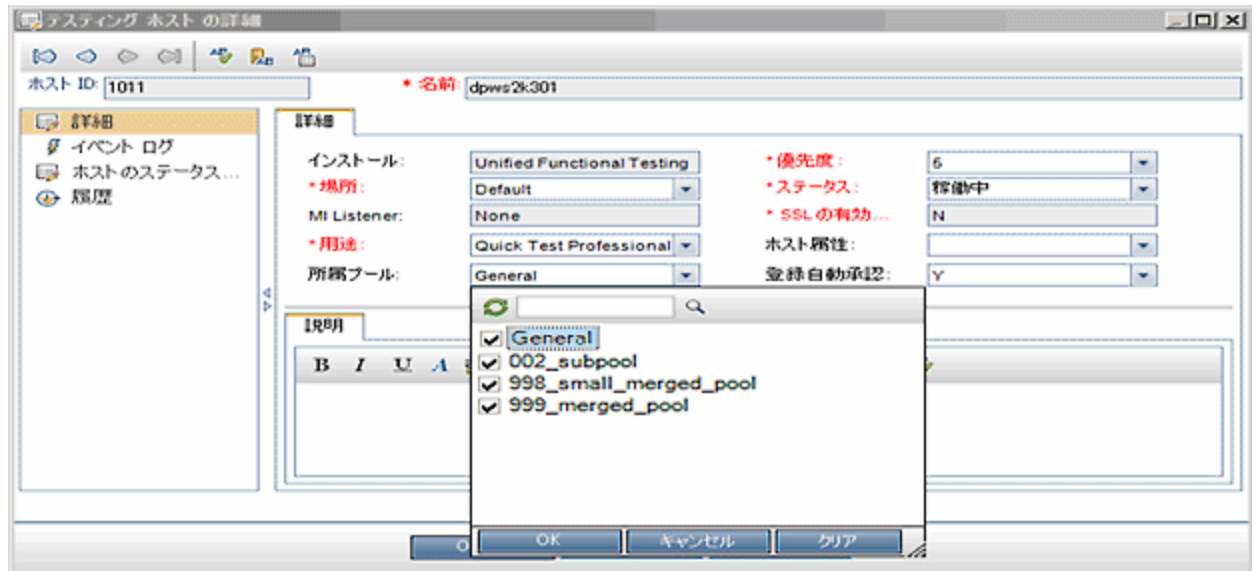
注: ホスト・プール管理は、ラボ管理でのみ使用できます。ALM では利用できません。

次のいずれかの方法で、ホストでホスト・プールを設定できます。


- **ホスト・モジュールの場合:** 1つまたは複数のホスト・プールにホストをリンクできます。
- **プール・モジュールの場合:** 特定のホスト・プールに1つまたは複数のホストをリンクできます。

ホスト・モジュールからホストを1つまたは複数のホスト・プールにリンクするには、次の手順を実行します。

1. [ラボリソース]で[ホスト]を選択します。
2. グリッド内のホストを右クリックし、[ホスト詳細]を選択します。
3. [所属プール]の横にある下向き矢印をクリックし、ホストを含めるプールを選択します。[OK]をクリックします。



プール・モジュールから1つまたは複数のホストを1つのホスト・プールにリンクするには、次の手順を実行します。

1. ラボ管理 サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト プール]を選択します。
2. グリッド内のホスト・プールを選択します。
3. [リンクされたホスト]タブで、[ホストをプールに追加]  をクリックします。グリッドからホストを選択し、[追加]をクリックします。

ラボ・リソース・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

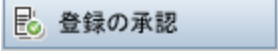

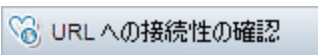
ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン	65
ホスト・モジュール	69
プール・モジュール	90
場所モジュール	98
MI Listener モジュール	102

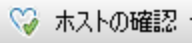
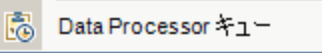




ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン



ラボ・リソース・モジュールを使用すると、テスト実行に使用するラボ・リソースを管理できます。





重要な情報	<ul style="list-style-type: none">一部のリソースは、ラボ管理でのみ使用できます。管理者権限を持つユーザのみ、これらのリソースを管理できます。ラボ管理の管理者以外のユーザは、自身のプロジェクトに属するホストの詳細とホスト・プールの詳細の表示、ホストの再設定、再起動、ホスト上でのホスト接続のチェックを行うことができます。このピックは、次のラボ・リソース・モジュールのすべてに関連します。<ul style="list-style-type: none">ホストプール場所MI Listener(Performance Center グループで利用可能)これらすべてのリソースは、通常、<リソース>として参照されます。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)



ラボ・リソース・モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

UI 要素	場所	説明
お気に入り に追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
 登録の承認	ホスト/テスト ホスト ・モジュール	テストホストの登録を承認できます。これにより、テスト実行にそのホストが使用できるようになります。 注: 選択したホストの[登録自動承認]フィールドが「Y」の場合、このボタンは無効になります。
 自動更新	ホスト/テスト ホスト ・モジュール	グリッドを30秒ごとに自動更新します。
 URLへの接続性の確認	ホスト/テスト ホスト ・モジュール	[ホストの確認]ボタンと同じチェック、任意の指定されたURLへの接続性のチェックを実行します。

UI 要素	場所	説明
 ホストの確認	ホスト/テスト ティングホス ト・モジュー ル	機能ホストの場合、選択したテスト・ホストに有効な用途が関連付けられているかどうかをチェックします。検証チェックの結果は、[タスクマネージャ]ダイアログ・ボックスに表示されます。 パフォーマンス・ホストの場合、選択したホストとシステム内の他のマシン間の接続性をチェックします。
 Data Processor キュー	ホスト/テスト ティングホス ト・モジュー ル	[Data Processor キュー] ウィンドウが開き、保留中のデータ処理要求を表示できます。 注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
削除 	[編集]と< 右クリック・メ ニュー>	グリッド内の選択したリソースを削除します。 注: ホストが使用中の MI Listener は、削除できません。
<リソース> の詳細 	ツールバーと 右クリック・メ ニュー	[<リソース> の詳細]ダイアログ・ボックスが開き、選択したリソースの詳細を表示、編集できます。
エクスポート	ツールバーと <右クリック・ メニュー>	[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き、リソースを、テキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート: グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート: グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
検索 	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでリソースを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<リソース> に移動 	ツールバー	[<リソース> に移動]ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のリソースを検索できます。現在のフィルタ内のリソースにのみ移動できます。

UI 要素	場所	説明
グリッド・フィルタ	[表示]と< 右クリック・メ ニュー→	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
インポート	ホスト/テスト ティングホス ト・モジュー ル	lab ホストのリストを Excel ファイル(.xls または .csv) から ALM(.xls または .csv 形式)にインポートできます。
情報パネル	[表示]と< 右クリック・メ ニュー→	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
 パッチのインストール	ホスト・モ ジュール	<p>[パッチのインストール]ダイアログ・ボックスが開き、選択したホストにインストールするパッチを選択できます。詳細については、「[インストールするパッチの選択]ダイアログ・ボックス」(90ページ)を参照してください。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> Controller ホストと Load Generator ホストが [実行中] 状態の場合、これらのホスト上でパッチのインストール機能は使用できません。これらのホストがアイドル時にのみ、パッチをインストールできます。 この機能は、ALM 認定パッチのインストールのみに使用してください。 パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。 <p>利用可能な場所: ラボ管理のみ。</p>
新規<リソース> 	ツールバー	リソースを追加できます。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。

UI 要素	場所	説明
 ホストの再起動	ホスト/テスト ティングホス ト・モジュー ル	リモートでホスト・マシンを再起動できます。 注: <ul style="list-style-type: none"> Controller ホストと Load Generator ホストは、[実行中]状態の場合、再起動できません。アイドル時にのみ、これらのホストを再起動できます。 UNIX Load Generator ホストは再起動できません。 パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
 ホストの再設定	ホスト/テスト ティングホス ト・モジュー ル	選択したホスト・マシンの次の項目をリセットします。 <ul style="list-style-type: none"> ホスト・ライセンス システム・ユーザ(IUSR_METRO) 通信セキュリティ・パスフレーズ 注: <ul style="list-style-type: none"> 一度に1つのホストのみ再設定できます。 パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	[編集]と< 右クリック・メ ニュー>	グリッドに<置換>ダイアログ・ボックスを開き、グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

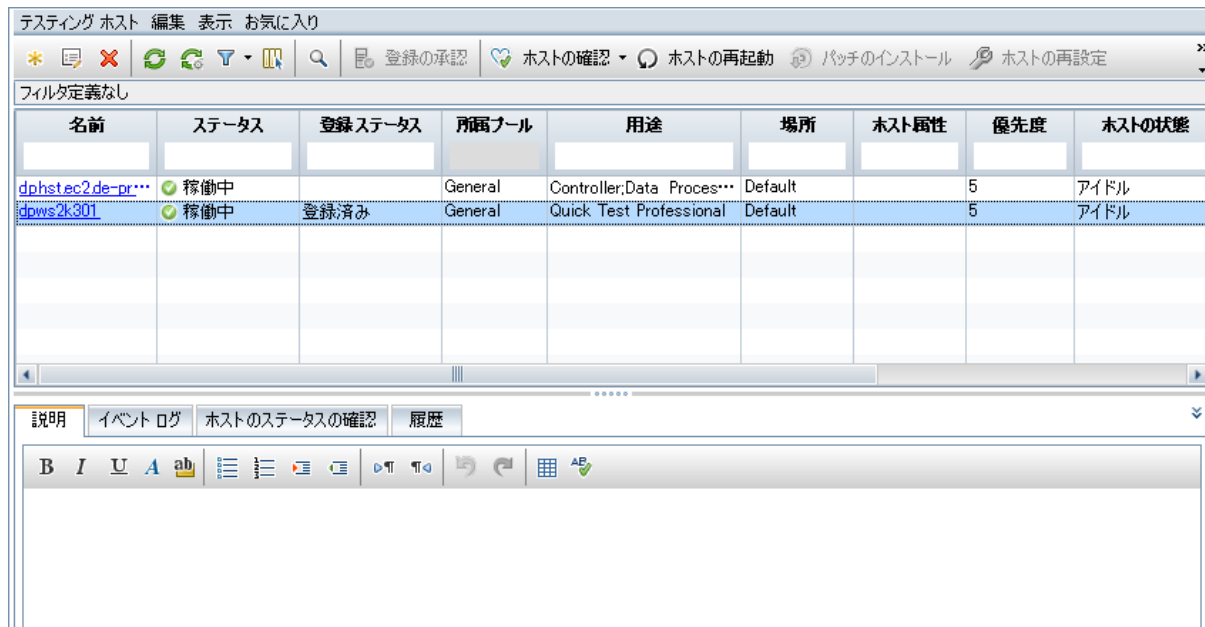
UI 要素	場所	説明
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	ホスト/テスト ホスト・モジュール	テストホストの登録を解除できます。これにより、テスト実行にそのホストが使用できなくなります。
選択項目の更新	[編集]と< 右クリック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きません。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できません。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ホスト・モジュール

ホスト/テストホスト・モジュールのウィンドウ	70
ホストのフィールド	72
[新規テストホスト]ダイアログ・ボックス	77
[テストホスト詳細]ダイアログ・ボックス	78
イベント・ログ	81
[プロセス]ページ	83
[サービス]ページ	84
[ホストのステータスの確認]ページ	85
[ファイアウォール越し]ページ	87
[インストールするパッチの選択]ダイアログ・ボックス	90



ホスト/テストング ホスト・モジュールのウィンドウ

このモジュールを使用すると、テスト実行に使用するホストを表示および管理できます。



アクセス方法	<p>ラボ管理: サイドバーの[ラボ リソース]で、[ホスト]を選択します。</p> <p>ALM: サイドバーの[ラボ リソース]で、[テストング ホスト]を選択します。</p>
重要な情報	<p>一部の要素は、パフォーマンス・ホストでのみ表示されます。</p> <p>ラボ管理: ホスト・モジュールによって、利用可能なすべてのホストのリストが表示されます。</p> <p>ALM: テストング ホスト・モジュールによって、プロジェクトのホスト・プール内のすべてのホストのリストが表示されます。</p> <p>ALM エディション: 機能テストング ホスト管理に関連する一部の機能は ALM エディションにのみ利用できます。</p>
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ホスト・モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> ホスト・モジュールのフィールド: フィールドの定義については、「ホストのフィールド」(72ページ)を参照してください。 ホスト・モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(65ページ)を参照してください。
<ホスト・グリッド>	ALM 内のホストのリストを表示します。
[説明]タブ	<p>現在選択されているホストについての説明が表示されます。</p> <p>ヒント: この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
[イベント ログ] タブ	選択したホストで実行されているタスク、操作のステータス、エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については、「イベント・ログ」(81ページ)を参照してください。
[インストール済みの PC コンポーネント] タブ	<p>ホスト・マシンにインストールされている PC コンポーネント(バージョンとパッチを含む)のリストを表示します。</p> <p>注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</p> <p>グリッドを更新するには、 をクリックします。</p>
[インストール済みのプログラム] タブ	<p>ホスト・マシンにインストールされているすべてのプログラムのリストを表示します。詳細には、バージョン、ソフトウェアの発行元、ホスト・マシンにインストールされた日付が含まれます。</p> <p>注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</p> <p>グリッドを更新するには、 をクリックします。</p>
[プロセス] タブ	<p>選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。</p> <p>注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</p> <p>詳細については、「[プロセス] ページ」(83ページ)を参照してください。</p>
[サービス] タブ	<p>ホスト・マシンで実行中のサービスを表示します。</p> <p>注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</p> <p>詳細については、「[サービス] ページ」(84ページ)を参照してください。</p>

UI 要素	説明
[ホストのステータスの確認]タブ	ホストの確認の各ステップのステータスを表示します。ホストの確認のステータスの詳細を表示するには、[ホストのステータスの確認]タブの行を右クリックし、[ホストステータスの詳細の確認]を選択します。詳細については、「ホストのステータスの確認のフィールド」(86ページ)を参照してください。
[ファイアウォール越し]タブ	ファイアウォール越しのホストの場合、ファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。詳細については、「[ファイアウォール越し]ページ」(87ページ)を参照してください。 注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
[履歴]タブ	現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

ホストのフィールド

本項では、ホストのフィールドについて説明します。ラボ管理 で、プライベート・ホストおよびパブリック・ホストのフィールドを変更できます。ALM では、プライベート・ホストのフィールドのみが変更できます。

フィールド	説明
アクティブなタイムスロット ID	このホストが予約されていて、現在開いているタイムスロットの ID。
所属プール	ホストの割り当て先のホスト・プール。 ホスト・プールを使用すると、どのホストをどのホスト・プールに割り当てるかを制御できます。テスト用のホストを割り当てる場合、システムでは、プロジェクトのホスト・プールからホストを割り当てます。ホストは少なくとも 1 つのプールに割り当てる必要があります。 注: プライベート・ホストは、1 つのプールにしか割り当てできません。 利用可能な場所: ラボ管理のみ。
説明	ホストの説明。
SSL の有効化	Load Generator ホストと Controller との通信を SSL (Secure Socket Layer) 経由で行うかどうかを示します。 注: Load Generator は、実行時にのみ SSL を使用して Controller と通信しません。実行時以外の機能(結果の照合など)では、Load Generator は通信プロトコルとして SSL を使用しません。 ファイアウォール越しの Load Generator ホストにのみ関連します。

フィールド	説明
ホスト属性	<p>ホストのシステム属性。</p> <p>例: メモリ, 強度, インストールされているコンポーネント。</p> <p>ヒント: ホスト属性はラボ管理でカスタマイズできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
ホスト ID	ホストの ID。
ホストの状態	<p>ホスト上の現在のアクティビティ。</p> <ul style="list-style-type: none">● アイドル: ホストが使用されていないことを示します。● インストール中: パッチをホストにインストール中であることを示します。● 再起動中: ホストを再起動中であることを示します。● <実行状態>: パフォーマンス・テストの実行中のホストの状態を示します。● <データ処理の状態>: データ処理タスク中のホストの状態を示します。
ホスト・バージョン	<p>テストング・ホストにインストールされている Lab Service エージェントのバージョン。</p> <p>注意: テスティング・ホストにインストールされている Lab Service エージェントと ALM サーバのバージョンが異なる場合, テスティング・ホストのステータスは[利用不可]になり, サーバ側のテストを実行できなくなります。テストング・ホストを使用可能な状態に戻すには, Lab Service エージェントを最新バージョンにアップグレードし, テスティング・ホスト・グリッドでステータスを[稼働中]にリセットします。</p>

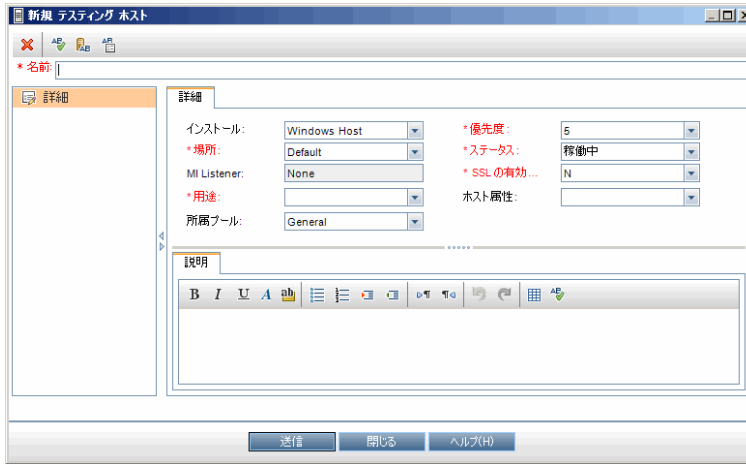
フィールド	説明
インストール	<p>ホストのインストール・タイプ。</p> <p>次のタイプを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows UFT: このホストに Unified Functional Testing がインストールされていることを示します。 HP Unified Functional Testing(UFT) は、以前は HP QuickTest Professional と HP Service Test と呼ばれていた製品で構成されています。 <ul style="list-style-type: none"> QuickTest の機能は、UFT では GUI テストと呼ばれます。 Service Test の機能は、UFT では API テストと呼ばれます。 <p>注: [Windows UFT] を選択すると、Service Test と QTP が標準設定の用途として選択されます。Windows UFT のインストールでは、この標準設定の用途を1つ以上含める必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> Unix Load Generator: この Unix ホストを、パフォーマンス・テストで Load Generator として使用することを示します。 Windows ホスト: この Windows ホストは、パフォーマンス・テスト (Controller, Load Generator, Data Processor) または汎用機能テスト (システム・テスト, Vapi-XP など) で使用可能であることを示します。 Windows Standalone LG: この Windows ホストを、パフォーマンス・テストでスタンドアロン Load Generator として使用することを示します。 <p>注: 既存のホストのこのフィールドは変更できません。</p>
最終設定チェック	実行済みの最後の設定チェック。
最終接続性チェック	実行済みの最後の接続チェック。
最終インストールチェック	実行済みの最後のインストール・チェック。
最終パフォーマンス・チェック	実行済みの最後のパフォーマンス・チェック。
最終ポーリング時刻	実行済みの最後のポーリング時刻。
最終実行のタイムスロット ID	ホスト上でパフォーマンス・テストまたはデータ処理が行われたタイムスロットの ID。



フィールド	説明
場所	<p>ホストの場所。たとえば、物理的領域に従って場所を定義できます。</p> <p>場所によって、ホストがファイアウォール越しにあるかどうかも判断できます。ファイアウォール越しにある場合、データ収集を有効にする MI Listener を選択する必要があります。</p>
MI Listener	<p>データ収集を可能にする MI Listener の IP アドレスまたは名前。</p> <p>ファイアウォール越しのホストにのみ関連します。</p>
名前	<p>ホストの名前です。</p> <p>注: ホスト名は、サフィックスを付けずに入力します。</p>
パスワード	<p>ホスト・マシン上の Performance Center システム・ユーザのパスワード。</p> <p>標準設定値: P3rfoRm@1nce</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none">Performance Center システム・ユーザの名前とパスワードは、UNIX ホスト、以前のバージョンの Performance Center から移行されたホストでのみ表示されます。新たに追加された Windows ホストのシステム・ユーザの名前とパスワード (ここでは詳細は表示されません) は、残りの Performance Center システムのシステム・ユーザの名前とパスワードと同じです。
優先度	<p>ホストに割り当てられているランク。ホストに指定する優先度が高いほど、そのホストがテストに割り当てられる可能性が高くなります。優先度の割り当て時に考慮する必要がある条件が多数あります。主な考慮点は、ホストが専用マシンかどうか、そのマシンにインストールされているハードウェアのタイプです。</p>
プライバシータイプ	<p>ホストのプライバシータイプです。プライベート・ホストなど、ラボ管理内のすべてのホストを変更できます。ALM では、プロジェクトのプール内のプライベート・ホストのみを作成し、変更できます。</p> <p>注: ラボ管理でのみ表示できます。</p>

フィールド	説明
用途	<p>ホスト上で使用できるテスト・ツール。たとえば、Controller, Load Generator, Data Processor, QuickTest Professional, Sprinter などがあります。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト・マシンがファイアウォール越しに配置されている場合、または UNIX マシンである場合、Controller または Data Processor として使用することはできません。 インストール・オプションとして [Windows Standalone LG] または [Unix Load Generator] を選択した場合、ホストの用途として [Load Generator] が自動的に選択され、他のオプションは無効になります。
登録自動承認	<p>テストングホストが HP ALM Lab Service による登録後に自動承認されたかどうかを示します。</p> <p>詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(228ページ)を参照してください。</p>
登録ステータス	<p>ホストの登録のステータス。テスト用のホストを使用するには、最初に HP ALM Lab Service を使用してホストを登録する必要があります、ホストはラボ管理のラボ管理者によって承認する必要があります。</p> <p>詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(228ページ)を参照してください。</p> <p>注: [登録ステータス]が[未登録]の場合、ホストの[ステータス]を「稼働中」に変更することはできません。</p>
ステータス	<p>ホストのステータス。ホスト名の横に表示される、現在のステータスを示すインジケータ。</p> <p>可能性のあるステータスは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 稼働中: ホスト・マシンは稼働しています。 非稼働: ホスト・マシンはダウンしています。 利用不可: ホストのステータスに関して利用可能な情報はありません。
ユーザ名	<p>ホスト・マシン上のシステム・ユーザの名前。</p> <p>標準設定値: IUSR_METRO</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none"> システム・ユーザの名前とパスワードは、UNIX ホスト、以前のバージョンのラボ管理から移行されたホストでのみ表示されます。 新たに追加された Windows ホストのシステム・ユーザの名前とパスワード (ここでは詳細は表示されません) は、残りのラボ管理システムのシステム・ユーザの名前とパスワードと同じです。





[新規テストング ホスト]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスではテストング・ホストを作成できます。



アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ● ラボ管理 : [ラボリソース]で[テストング ホスト]を選択します。[新規テストング ホスト]  ボタンをクリックします。 ● ALM: [ラボリソース]で[テストング ホスト]を選択します。[新規テストング ホスト]  ボタンをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ● 新しいパブリック・ホストを作成できるのは、ラボ管理内のみです。ALM内で作成したホストはプライベート・ホストとみなされ、プロジェクトのホスト・プールに直接追加されます。プライベート・ホストは、ALM内で変更できます。 ● ホストを Load Generator として使用する場合は、ファイアウォール越しにのみ作成できます。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

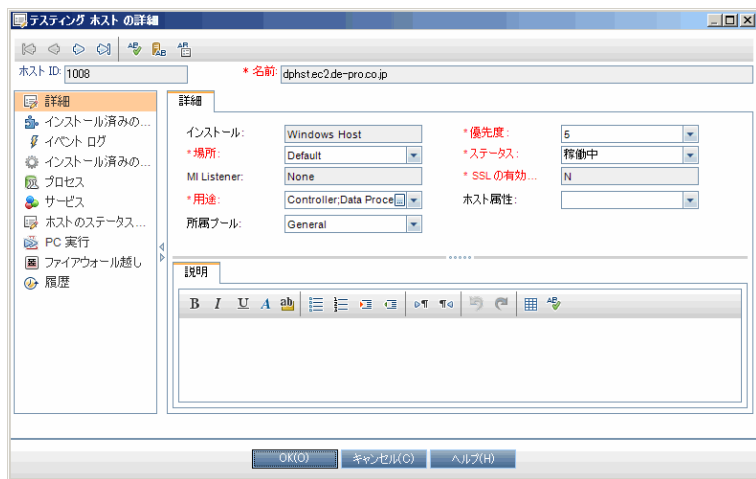
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。

UI 要素	説明
名前	<p>新規ホストの名前。</p> <p>ヒント: ホストに意味のある名前を付けてください。これは、ホストの場所、用途、タイプ、ID、オペレーティング・システムから作成できます。名前により多くの情報を付加すれば、システムの使用と保守がより簡単になります。名前は覚えやすく、長くすぎないでください。</p> <p>注意: リモート・ホスト上で機能テストを実行するために、ドメイン名を含まないコンピュータ名である必要があります。入力した名前が登録するホストの名前と一致しない場合、登録は失敗します。</p>
詳細	<p>必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ、赤色で表示されます。利用可能なホスト・フィールドの詳細については、「ホストのフィールド」(72ページ)を参照してください。</p>

[テストング ホスト 詳細] ダイアログ・ボックス





このダイアログ・ボックスには、選択したホストの詳細情報が表示されます。



アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ● ラボ管理: [ラボリソース]で[ホスト]を選択します。グリッドのホストを右クリックし、[テストング ホスト 詳細]を選択します。 ● ALM: [ラボリソース]で[テストング ホスト]を選択します。グリッドのホストを右クリックし、[テストング ホスト 詳細]を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ● このダイアログ・ボックスは、ラボ管理とALMの両方で利用できます。 ● 一部のUI要素は、パフォーマンス・ホストでのみ使用できます。
関連タスク	<p>「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)</p>

参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)
-------------	---------------------

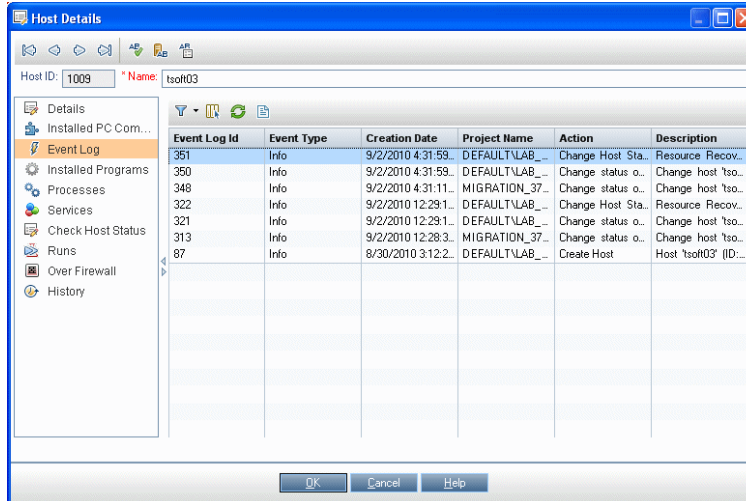
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ: ホストのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
ホスト ID	ホストの ID。
名前	ホストの名前です。
詳細	現在選択されているホストの詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「 ホストのフィールド 」(72ページ)を参照してください。
インストール済みの PC コンポーネント	ホストにインストールされている Performance Center コンポーネント(バージョンとパッチを含む)のリストを表示します。 注: <ul style="list-style-type: none"> • すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。 • パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
イベント・ログ	選択したホストで実行されているタスク, イベント・ステータス, エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については、「 イベント・ログ 」(81ページ)を参照してください。
インストール済みのプログラム	ホスト・マシンにインストールされているすべてのプログラムのリストを表示します。詳細には、バージョン, ソフトウェアの発行元, ホスト・マシンにインストールされた日付が含まれます。 注: <ul style="list-style-type: none"> • すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。 • パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。

UI 要素	説明
プロセス	<p>選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。詳細については、「[プロセス] ページ」(83ページ)を参照してください。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none">すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
サービス	<p>ホスト・マシンで実行中のサービスを表示します。詳細については、「[サービス] ページ」(84ページ)を参照してください。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none">すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。
ホストのステータスの確認	<p>ホストの確認の各ステップのステータスを表示します。ホストの確認のステータスの詳細を表示するには、[ホストのステータスの確認] タブの行を右クリックし、[ホスト ステータスの詳細の確認] を選択します。詳細については、「ホストのステータスの確認のフィールド」(86ページ)を参照してください。</p>
実行	<p>選択したホストで実行されているテスト実行に関する詳細情報を表示します。詳細については、「PC テスト実行モジュールのウィンドウ」(108ページ)を参照してください。</p> <p>注: すべてのエントリを表示するには、ページの下部にあるナビゲーション・バーを使用します。</p>
ファイアウォール越し	<p>ファイアウォール越しのホストの場合、ファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。詳細については、「[ファイアウォール越し] ページ」(87ページ)を参照してください。</p> <p>注: パフォーマンスのためのホストでのみ使用できます。</p>
履歴	<p>現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>


イベント・ログ




イベント・ログには、プロジェクトで発生したイベントが表示され、各イベントの原因と重大度が報告されます。



アクセス方法	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ツール] > [イベント ログ] を選択します。 • [イベント ログ] タブを選択します。 <p>利用可能なモジュール:</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ラボ管理: ホスト, PC テスト実行, タイムスロット, PC サーバ ■ ALM プロジェクト: タイムスロット (グリッド・ビューのみ), ホスト, テスト実行
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • イベント・ログは、グリッド・ビューでのみ利用可能です。 • イベント・ログには、関連する選択内容の情報が表示されます。つまり、プロジェクト全体、タイムスロット、ホスト、サーバなどのイベントが表示されます。 • 削除可能なイベントを EVENT_LOG データベース・テーブルに残しておく期間 (日数) は、EVENT_LOG_PURGE_PERIOD_DAYS パラメータによって決定されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

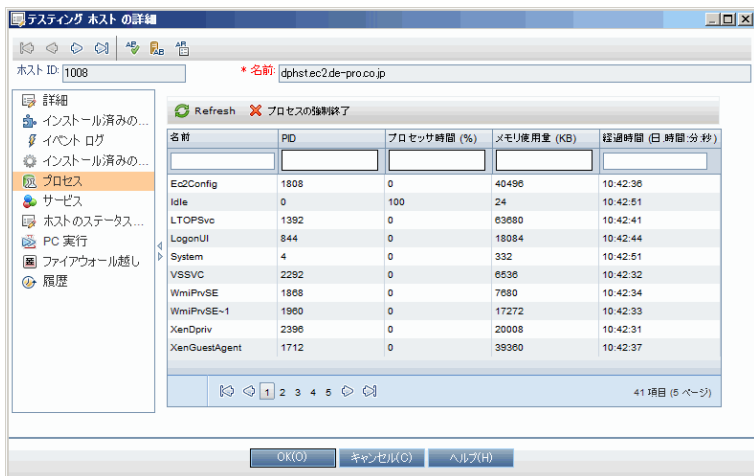
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	<p>フィルタの設定: イベント・ログ内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>

UI 要素	説明
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、イベント・ログに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	更新 : 最新の情報が表示されるように、イベント・ログを更新します。
	すべてエクスポート : [すべてのグリッド データをエクスポート] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドのリソースを、テキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。
アクション	イベントが発生したアクションのカテゴリ。 例: サーバの作成。
コンテキスト	イベントが発生した特定のエンティティ。 例: PC サーバ: VM05
作成日	イベントがログに記録された日時。
説明	イベントの説明。
イベント ログ ID	イベント ID。
イベント名	イベントの名前。
イベント・タイプ	イベントの重大度の表示。最も重大なイベントから最も重大でないイベントの順に、エラー、警告、または情報。
フロー・コンテキスト ID	いくつかのイベントに関する一意のアクションを示す GUID。たとえば、テストの実行など。
モジュール	イベントの原因となった ALM モジュール。 例: テスト
プロジェクト名	イベントが発生したプロジェクト。
担当者	イベントを担当するユーザまたは自動システム・プロセス。
ソース	イベントの原因となったシステム要素。
サブ・モジュール	イベントが発生した ALM サブ・モジュール。 例: テスト・ラボ



[プロセス] ページ

このページには、選択したホストのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報が表示されます。



アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ホスト・モジュールからの場合: サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。情報パネルで、[プロセス]を選択します。 [ホスト詳細]ダイアログ・ボックスからの場合: サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。ホストを右クリックして、[ホスト詳細]を選択します。[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスで、[プロセス]を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ALM では、UNIX マシンまたは Windows スタンドアロン Load Generator に関するプロセスおよびリソースの使用情報を表示できません。 [プロセス] ページは、Performance ホストでのみ利用可能です。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

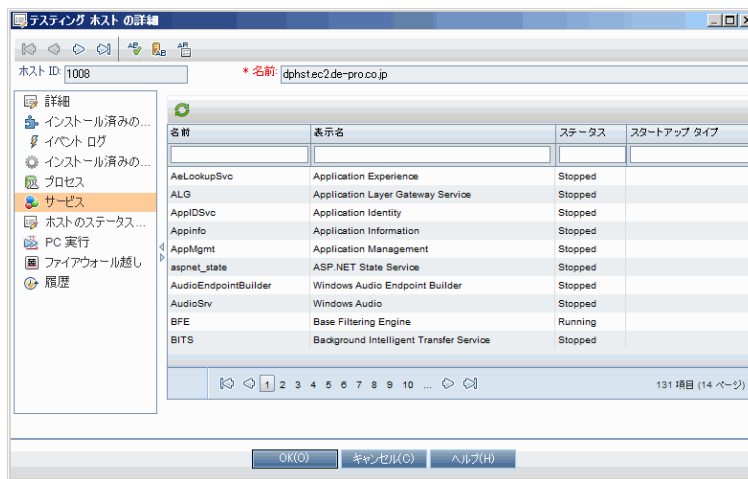
次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべて更新: 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	<p>プロセスの強制終了: グリッド内の選択したプロセスを終了します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホスト・モジュールの場合: 選択したプロセスを終了するには、プロセスの強制終了アクセス許可が必要です。 ラボ管理サーバ・モジュールの場合: ビューア・アクセス許可を持つユーザが選択したプロセスを終了できます。

UI 要素	説明
自動更新	選択した期間が経過した後にグリッドを自動的に更新します。
<プロセスグリッド>	<p>プロセスに関する次の詳細情報を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 名前: プロセスの名前。 PID: プロセス ID。 プロセッサ時間 (%): プロセスが使用するプロセッサ時間の割合。 メモリ使用量 (KB): プロセスが使用するメモリ量 (KB)。 経過時間 (日.時間:分:秒): プロセス開始以降に経過した時間で、日は日数、時間:分:秒は経過した時間、分、秒です。
<ナビゲーション領域>	<p>グリッド内のエントリのページ内を移動できます。エントリの合計数がナビゲーション領域の右側に表示されます。</p> <p>ページの下部にあります。</p>


[サービス] ページ

このページには、選択したホストのサービスが表示されます。



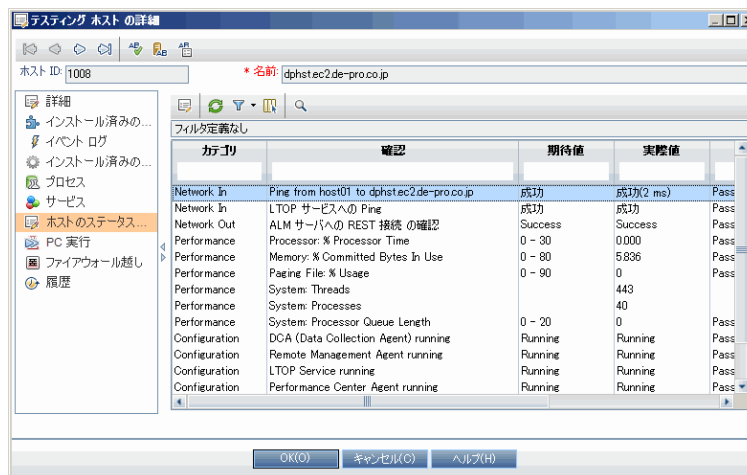
アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ホスト・モジュールの場合: サイドバーの[ラボ リソース]で、[ホスト]を選択します。情報パネルで、[サービス]を選択します。 [ホスト詳細]ダイアログ・ボックスの場合: サイドバーの[ラボ リソース]で、[ホスト]を選択します。ホストを右クリックして、[ホスト詳細]を選択します。[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスで、[サービス]を選択します。
重要な情報	[サービス] ページは、Performance ホストでのみ利用可能です。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	更新 : 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
名前	サービスの名前。
表示名	サービスの正式名。
ステータス	サービスのステータス: [Running] または [Stopped] 。
スタートアップ・タイプ	サービスのスタートアップの設定方法: <ul style="list-style-type: none"> ● Auto: サービスが自動的に開始します。 ● Disabled: サービスは無効になっています。 ● Manual: サービスは手動で開始する必要があります。
<ナビゲーション領域>	ページの下部にあり、グリッド内のエントリのページ内を移動できます。エントリの合計数がナビゲーション領域の右側に表示されます。

[ホストのステータスの確認] ページ


このページには、選択したホストのチェックのステータスが表示されます。



アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ● ホスト・モジュールからの場合: サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。ホストを選択し、情報パネルで、[ホストのステータスの確認]を選択します。 ● [ホスト詳細]ダイアログ・ボックスからの場合: サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。ホストを右クリックして、[ホスト詳細]を選択します。[ホストの詳細]ダイアログ・ボックスで、[ホストのステータスの確認]を選択します。
---------------	---

関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	[ホスト ステータスの確認]の詳細 : [ホストのステータスの確認 詳細]ダイアログ・ボックスが開き、各チェックの詳細を表示できます。フィールドの詳細については、「ホストのステータスの確認のフィールド」(86ページ)を参照してください。
	すべて更新 : 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	フィルタ/ソートの設定 : グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択 : [カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索 : [検索]ダイアログ・ボックスが開き、確認を検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<ホストのステータスの確認のグリッド>	ホストの確認のステータスを表示します。グリッドに表示するカラムを選択するには、  をクリックします。フィールドの詳細については、「ホストのステータスの確認のフィールド」(86ページ)参照してください。

ホストのステータスの確認のフィールド

[ホストのステータスの確認]ページには、次のフィールドが表示されます。

フィールド	説明
実際の値	ホストの接続性の確認による実際の値。
カテゴリ	ホストの確認機能によってチェックされるホストの領域。 <ul style="list-style-type: none"> 設定 接続性 インストール パフォーマンス

フィールド	説明
確認	ホストの確認機能によってチェックされるホストのサブ領域。たとえば、パフォーマンス・チェックの場合のサブ領域は、 プロセッサ 、 メモリ 、 システム です。
確認日	ホストがチェックされた日付。
結果チェックID	ホストの確認の各ステップのID。
エラー	チェック中にエラーが発生した場合、エラーを表示します。
期待値	ホストの確認による期待される値。
ステータス	ホストの確認が成功または失敗したかを示します。

[ファイアウォール越し] ページ

このページには、Performance Center Load Generator ホストと MI Listener 間の通信設定が表示され、選択した Load Generator ホストのファイアウォール越しの詳細設定を行うことができます。

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none">ホスト・モジュールからの場合: サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。情報パネルで、[ファイアウォール越し]を選択します。[ホスト詳細]ダイアログ・ボックスからの場合: サイドバーの[ラボリソース]で、[ホスト]を選択します。ホストを右クリックして、[ホスト詳細]を選択します。[ホストの詳細]ダイアログ・ボックスで、[ファイアウォール越し]を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none">ホストの場所がファイアウォール越しとして定義されている場合に、このページにその情報が表示されます。ファイアウォール越しのホストは、Load Generator ホストとしてのみ使用できません。[ファイアウォール越し]ページは、Performance ホストでのみ利用可能です。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

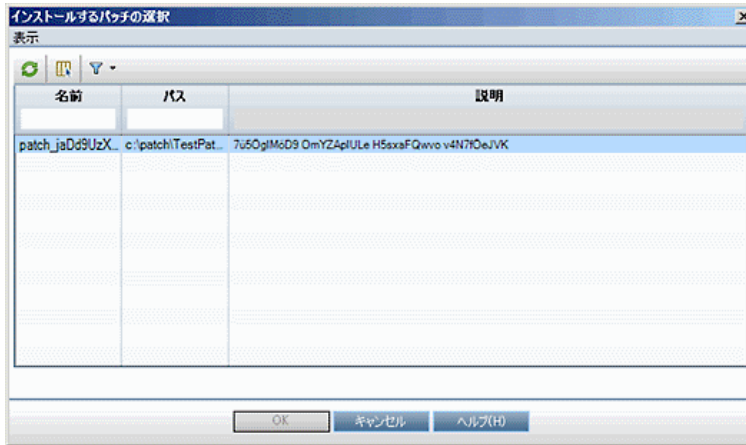
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
接続タイムアウト (秒)	エージェントが MI Listener マシンに接続を再試行するまでの待ち時間 (秒単位)。ゼロの場合、接続はエージェントの実行時点から開いたままになります。 標準設定値: 20 秒 注: このフィールドは必要なフィールドです。
接続タイプ - TCP/HTTP	使用している設定に応じて、[TCP]または[HTTP]を選択します。 標準設定値: TCP
HTTP	HTTP 接続タイプ用の HTTP の設定です。 <ul style="list-style-type: none">• プロキシの名前: プロキシ・サーバの名前。[接続タイプ]オプションが[HTTP]に設定されている場合、このフィールドは必須です。• プロキシ・ポート: プロキシ・サーバの接続ポート。[接続タイプ]オプションが[HTTP]に設定されている場合、このフィールドは必須です。• プロキシ・ユーザ名: プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザの名前。• プロキシ・パスワード: プロキシ・サーバへの接続権を持つユーザのパスワード。• プロキシ・ドメイン: プロキシ・サーバの設定で定義されている場合のユーザのドメイン。このオプションは、NTLMを使用する場合にのみ必要です。
MI Listener パスワード	MI Listener マシンへの接続に必要なパスワード。
MI Listener ユーザ名	MI Listener マシンへの接続に必要なユーザ名。

UI 要素	説明
ポーリング・タイムアウト (秒)	<p>ファイアウォール越しの Load Generator のステータスを確認するために、ALM は Load Generator が最後に MI Listener に接続した時期を確認します。</p> <p>Load Generator が[ポーリングタイムアウト]で設定した時間数より長い時間 MI Listener マシンに接続されなかった場合、ラボ管理によって Load Generator のステータスは[リソース エラー]に変更されます。</p> <p>標準設定値: 60 秒</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none">このフィールドは必要なフィールドです。[ポーリングタイムアウト]は ALM の設定です。Performance Center エージェントでは設定されません。ポーリング・タイムアウトは、以下に示す接続タイムアウトより長くなるように指定する必要があります。
セキュア接続を使用	<p>Secure Sockets Layer (SSL) プロトコルを使用して通信できます。</p> <p>標準設定値: 無効</p> <ul style="list-style-type: none">サーバ証明書を確認: サーバから送信される SSL 証明書を認証します。サーバ証明書が信頼された証明機関によって署名されていることを確認するには、[中]を選択します。送信者の IP アドレスが証明書の情報と一致することを確認するには、[高]を選択します。この設定は、[セキュア接続を使用]が[True]に設定されている場合にのみ利用できます。秘密キー・パスワード: SSL 証明書の認証プロセス中に必要となるパスワード。このオプションは、[クライアント証明書の所有者]オプションが有効になっている場合にのみ関係します。クライアント証明書を使用: SSL 証明書を読み込むことができます(接続を許可するためにサーバで必要な場合)。このオプションは、[セキュア接続を使用]オプションが有効になっている場合にのみ関係します。 <p>標準設定値: 無効</p>

[インストールするパッチの選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、パフォーマンス・ホストにパッチをインストールできます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理 サイドバーの[ラボ リソース]で, [ホスト]を選択します。 2. ホスト・グリッドを右クリックし, [パッチのインストール]を選択します。 <p>ヒント: パッチは、複数のホストに同時にインストールできます。複数のホストを選択するには、キーボードの CTRL キーを押しながらホストを選択します。</p>
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • ラボ管理のみでパッチをインストールできます。 • ホストにパッチをインストールするには、最初にパッチを ALM にアップロードしておく必要があります。詳細については、「パッチの ALM へのアップロード方法」(167ページ)を参照してください。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
<パッチ グリッド>	選択したホストにインストールできる、ALM 内のパッチを表示します。

プール・モジュール

プール・モジュール・ウィンドウ	91
プール・フィールド	92
[新規ホスト プール]ダイアログ・ボックス	93
[ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス	94
[ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス	95

プール・モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、ホスト・プールを表示、管理できます。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で、[プール]を選択します。
重要な情報	<p>ホスト・プールとは、ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあります。</p> <p>HP ALM Performance Center Edition: パフォーマンス・ホストでホスト・プールを管理する場合、利用可能な総リソースを理解することが重要です。ホスト・プールには、少なくとも1つのController、1つのLoad Generator、1つのData Processorが含まれている必要があります。ホストには二重の機能を持たせられるため、プールには、他のホストの中でもController機能専用のホストを少なくとも1台含めることをお勧めします。</p> <p>プライベート・ホストは、一度に1つのプールにしか存在できません。</p> <p>ホスト・プールにホストを追加する方法はいくつかあります。「ラボリソースを管理する方法」(57ページ)を参照してください。</p>
関連タスク	「ラボリソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボリソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ホスト・プール・モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> • プール・モジュールのフィールド: フィールドの定義については、「プール・フィールド」(92ページ)を参照してください。 • プール・モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(65ページ)を参照してください。
<ホスト・プールのグリッド>	ALM 内で定義されているホスト・プールのリストを表示します。
[説明]タブ	<p>現在選択されているホスト・プールについての説明が表示されます。</p> <p>ヒント: この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
[リンクされたホスト]タブ	ホストを選択したプールに追加し、プールからホストを削除できます。詳細については、「[リンクされたホスト]ページ」(96ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	現在選択されているホスト・プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

プール・フィールド

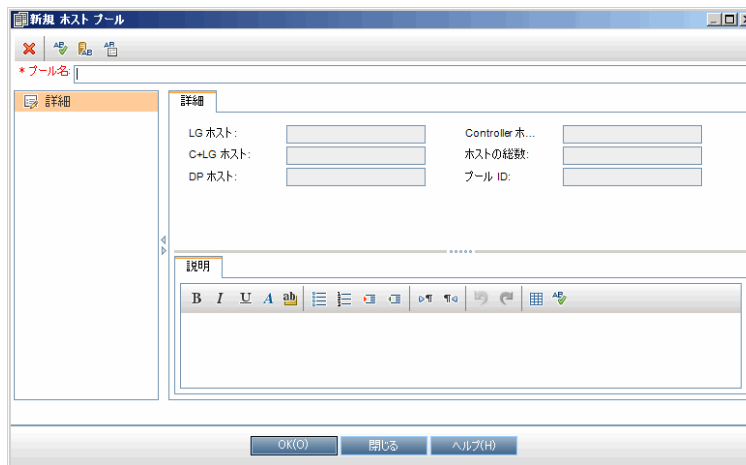
本項では、ホスト・プールのフィールドについて説明します。


フィールド	説明
C + LG ホスト	ホスト・プール内の Controller と Load Generator を兼用したホストの数。
Controller ホスト	ホスト・プール内の Controller ホストの数。
説明	ホスト・プールの説明。
DP ホスト	ホスト・プール内の Data Processor ホストの数。
LG ホスト	ホスト・プール内の Load Generator ホストの数。
プール ID	ホスト・プールの ID。

フィールド	説明
プール名	<p>ホスト・プールの名前。</p> <p>注: この名前には、スペース、ピリオド、次のいずれかの文字を除き、最大 255 文字まで指定できます。</p> <p>;;*\ /"~&?{\$% <>+=^[]()</p>
ホストの総数	ホスト・プール内のホストの合計数。



[新規ホスト プール]ダイアログ・ボックス



このダイアログ・ボックスを使用すると、ホスト・プールを ALM に追加できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理 サイドバーの[ラボリソース]で、[プール]を選択します。 プール・モジュールで、[新規ホスト プール]ボタン  をクリックします。
重要な情報	各プロジェクトには、少なくとも 1 つの Controller ホスト、1 つの Load Generator ホスト、1 つの Data Processor ホストを含む必要がある 1 つのホスト・プールがあります。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

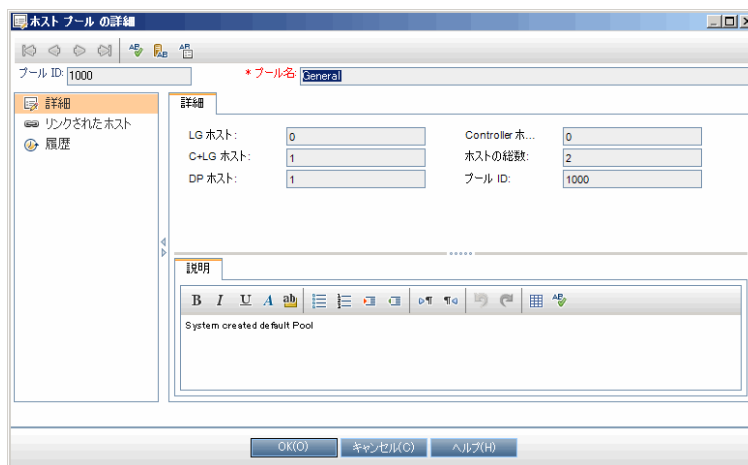
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。

UI 要素	説明
	類語辞典 : 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション : スペル・チェックの方法を設定できます。
プール名	新規ホスト・プールの名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ, 赤色で表示されます。利用可能なホスト・プール・フィールドの詳細については, 「プール・フィールド」(92ページ)を参照してください。





[ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには, 選択したホスト・プールの詳細情報が表示されます。



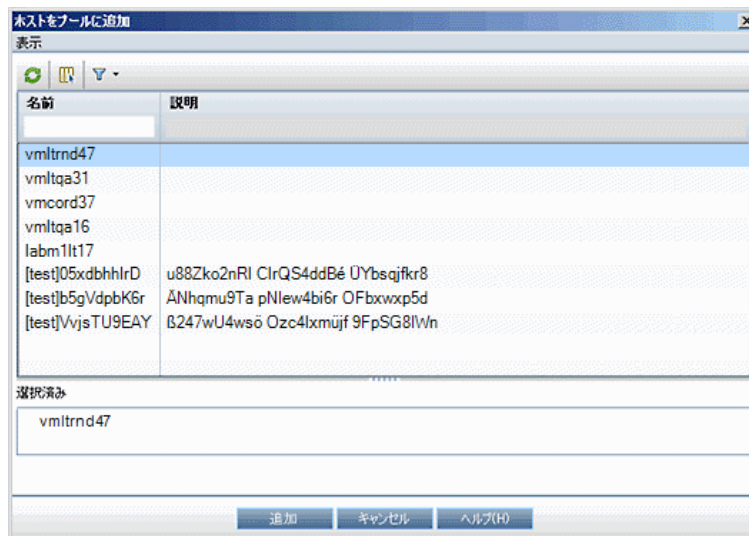
アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で, [プール]を選択します。 2. グリッドのホスト・プールを右クリックし, [ホスト プール詳細]を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ● ホスト・プールとは, ホストのグループです。各プロジェクトに1つのホスト・プールがあります。 ● ホスト・プールを管理する場合, 利用可能な総リソースを理解していることが重要です。プールには, 少なくとも1つのController, 1つのLoad Generator, 1つのData Processorが含まれている必要があります。ホストには二重の機能を持たせられるため, プールには, 他のホストの中でもController機能専用のホストを少なくとも1台含めることをお勧めします。 ● プライベート・ホストは, 一度に1つのプールにしか存在できません。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)



次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ: ホスト・プールのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
プール名	ホスト・プールの名前。
詳細	選択したホスト・プールの詳細情報をリストします。利用可能なフィールドの詳細については、「プール・フィールド」(92ページ)を参照してください。
リンクされたホスト	ホストを選択したプールに追加し、プールからホストを削除できます。詳細については、「[リンクされたホスト]ページ」(96ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているホスト・プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。




[ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス

このページを使用すると、ホスト・プールに追加するホストを選択できます。



アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> • プール・モジュールからの場合： ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で、[プール]を選択します。情報パネルで、[リンクされたホスト]を選択し、[ホストをプールに追加]ボタン  をクリックします。 • [ホストプール詳細]ダイアログ・ボックスからの場合： ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で、[プール]を選択します。ホスト・プールを右クリックし、[ホストプール詳細]を選択します。[ホストプール詳細]ダイアログ・ボックスで、[リンクされたホスト]を選択し、[ホストをプールに追加]ボタン  をクリックします。
重要な情報	あるいは、ホストの詳細の[所属プール]フィールドから単一のホストを複数のホスト・プールにリンクできます。詳細については、「ホストのフィールド」(72ページ)を参照してください。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべて更新: 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	カラムの選択: [カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	フィルタ/ソートの設定: グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
追加	選択したホストをホスト・プールに追加します。
<ホスト・グリッド>	ホスト・プールに追加できるホストが一覧表示されます。
選択済み	プールに追加することを選択したホストが表示されます。

[リンクされたホスト] ページ



このページを使用すると、ホストをホスト・プールに追加し、プールからホストを削除できます。

名前	用途	ステータス	ホストの状態	所属プール	説明
dphstec2-de-pr...	Controller,Data...	稼働中	アイドル	General	
dphstec2-301	Quick Test Prof...	稼働中	アイドル	General	

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> プール・モジュールからの場合: ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で, [プール]を選択します。情報パネルで, [リンクされたホスト]を選択します。 [ホストプール詳細]ダイアログ・ボックスからの場合: ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で, [プール]を選択します。ホスト・プールを右クリックし, [ホストプール詳細]を選択します。[ホストプール詳細]ダイアログ・ボックスで, [リンクされたホスト]を選択します。
重要な情報	<p>[リンクされたホスト]ページを使用すると, 複数のホストをホスト・プールにリンクできます。</p> <p>あるいは, ホストの詳細の[所属プール]フィールドから単一のホストを複数のホスト・プールにリンクできます。詳細については, 「ホストのフィールド」(72ページ)を参照してください。</p>
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は, 山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	ホストをプールに追加 : [ホストをプールに追加]が開き, ホスト・プールに追加するホストを選択できます。詳細については, 「[ホストをプールに追加]ダイアログ・ボックス」(95ページ)を参照してください。
	ホストの削除 : ホスト・プールから選択したホストを削除します。
	ホストに移動 : ホスト・モジュール内の選択したリンクされているホストを表示します。
	ホスト詳細 : [ホスト詳細]ダイアログ・ボックスが開き, 選択したリンクされているホストの詳細情報を表示できます。詳細については, 「[テストングホスト詳細]ダイアログ・ボックス」(78ページ)を参照してください。
	すべて更新 : 最新の情報が表示されるように, グリッドを更新します。
	フィルタ/ソートの設定 : グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば, ツールバーの下に表示されます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

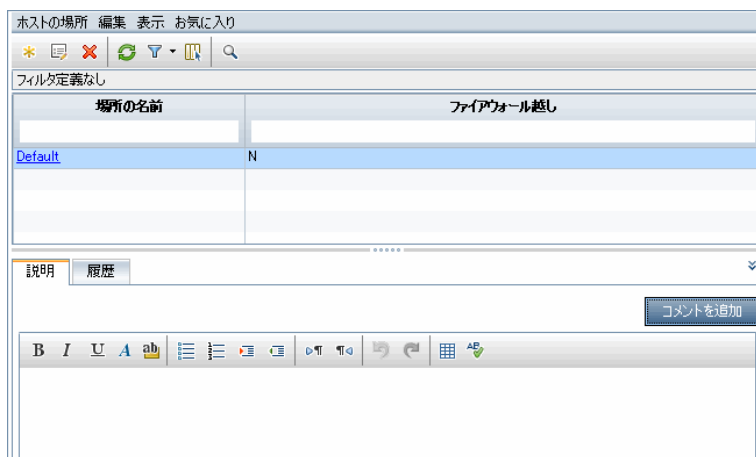
UI 要素	説明
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索 : [検索] ダイアログ・ボックスが開き、ホストを検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<リンクされているホストのグリッド>	ホスト・プールに属しているホストが一覧表示されます。

場所モジュール

場所モジュール・ウィンドウ	98
場所モジュール	99
[新規ホストの場所] ダイアログ・ボックス	100
[ホストの場所詳細] ダイアログ・ボックス	100

場所モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、ホストの場所を表示、管理できます。



アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[ラボリソース]で、[場所]を選択する。 注: 場所モジュールは、ラボ管理でのみ使用できます。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<場所モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none">● 場所モジュールのフィールド: フィールドの定義については、「場所モジュール」(99ページ)を参照してください。● 場所モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(65ページ)を参照してください。
<ホストの場所のグリッド>	ALM 内で定義されているホストの場所のリストを表示します。
[説明]タブ	現在選択されているホストの場所についての説明が表示されます。 ヒント: この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
[履歴]タブ	現在選択されているホストの場所に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

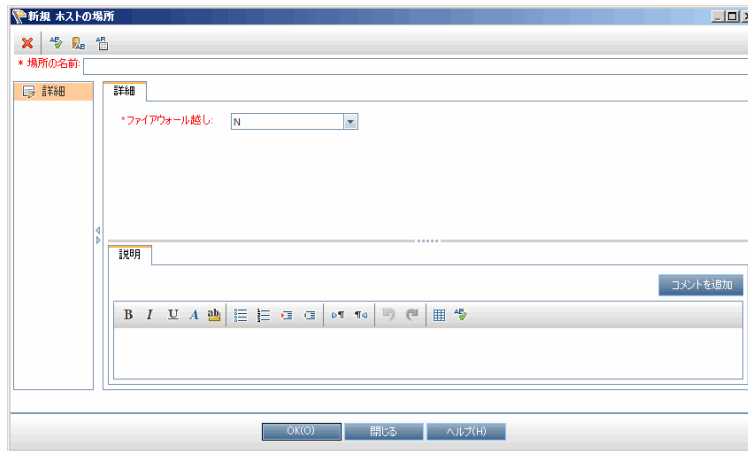
場所モジュール


本項では、ホストの場所のフィールドについて説明します。

フィールド	説明
説明	ホストの場所の説明。
場所 ID	ホストの場所の ID。
場所の名前	ホストの場所の名前。名前には、ホストの場所との論理接続がある必要があります。
ファイアウォール越し	ホストの場所がファイアウォール越しかを示します。





[新規ホストの場所]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、ホストの場所を ALM に追加できます。



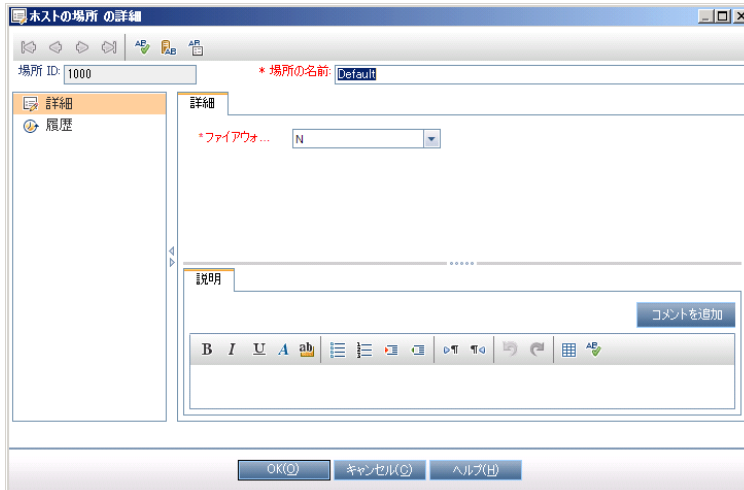
アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理 サイドバーの[ラボ リソース]で、[場所]を選択します。 ホストの場所 モジュールで、[新規ホストの場所]ボタン  をクリックします。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
場所の名前	新規ホストの場所の名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ、赤色で表示されます。利用可能なホストの場所のフィールドの詳細については、「場所モジュール」(99ページ)を参照してください。

[ホストの場所詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、選択したホストの場所の詳細情報が表示されます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理サイドバーの[ラボ リソース]で, [場所]を選択します。 2. グリッド内の場所を右クリックし, [ホストの場所詳細]を選択します。
重要な情報	ホストの場所は, ホストの詳細でその場所を選択する前に定義する必要があります。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

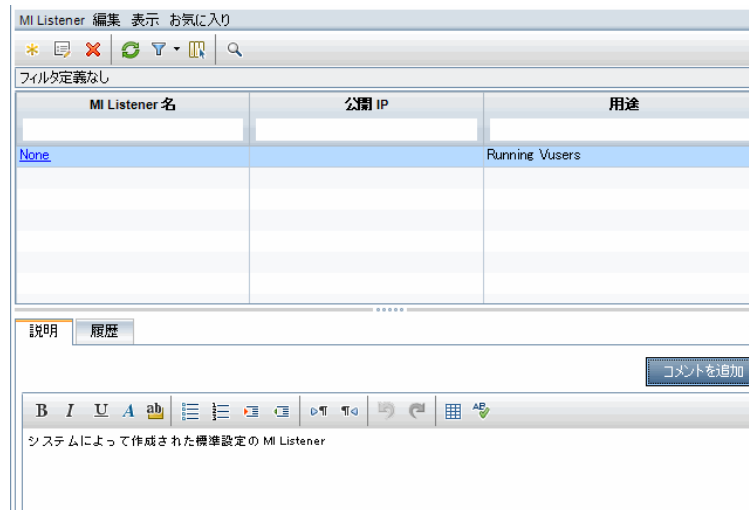
UI 要素	説明
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ: ホストの場所のリストの間を移動できます。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
場所 ID	ホストの場所の ID。
場所の名前	ホストの場所の名前。
詳細	host location. 現在選択されているホストの場所の詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については, 「場所モジュール」(99ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているホストの場所に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

MI Listener モジュール

MI Listener モジュール・ウィンドウ	102
MI Listener のフィールド	103
[新規 MI Listener] ダイアログ・ボックス	104
[MI Listener 詳細] ダイアログ・ボックス	105

MI Listener モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、MI Listener を表示、管理できます。MI Listener を使用すると、ファイアウォール越しのホスト上でパフォーマンス・テストを実行し、ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。



アクセス方法	ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]で、[MI Listeners]を選択します。 MI Listener モジュールは、ラボ管理 でのみ使用できます。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ファイアウォールを使用するように ALM を設定する方法の詳細については、『HP ALM Performance Center インストール・ガイド』でのファイアウォールの使用に関する項を参照してください。 MI Listener がホストによって使用されている場合は、削除できません。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<MI Listener モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> ● MI Listener モジュールのフィールド: フィールドの定義については、「MI Listener のフィールド」(103ページ)を参照してください。 ● MI Listener モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「ラボ・リソース・モジュールのメニューとボタン」(65ページ)を参照してください。
<MI Listener のグリッド>	ALM 内の MI Listener のリストを表示します。
[説明]タブ	<p>現在選択されている MI Listener についての説明が表示されます。</p> <p>ヒント: この領域を右クリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
[履歴]タブ	現在選択されている MI Listener に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

MI Listener のフィールド

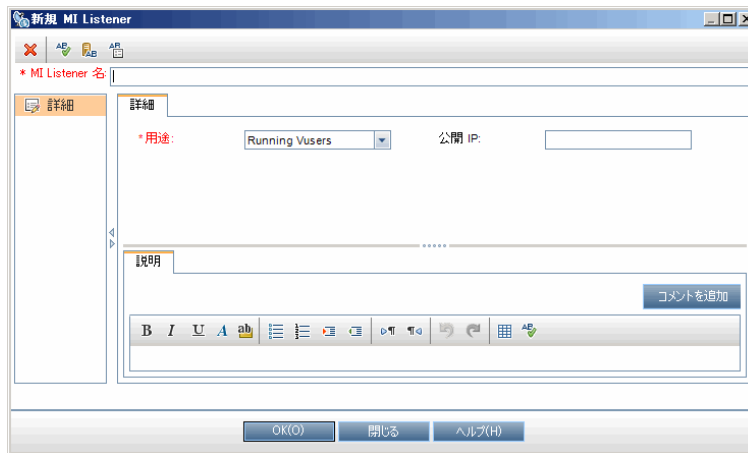
本項では、MI Listener のフィールドについて説明します。


フィールド	説明
説明	MI Listener の説明。
MI Listener ID	MI Listener の ID。
MI Listener IP	<p>MI Listener の IP アドレス。</p> <p>注: 同じ MI Listener に対して 2 つの異なる IP アドレス(1 つは Controller との内部通信用、もう 1 つはファイアウォール越しの Load Generator との公開通信用)がある場合、ここに内部 IP アドレスを入力します。[MI Listener 名]フィールド(次を参照)には、公開 IP アドレスを入力します。</p>
MI Listener 名	<p>MI Listener の名前。</p> <p>注: 同じ MI Listener に対して 2 つの異なる IP アドレス(1 つは Controller との内部通信用、もう 1 つはファイアウォール越しの Load Generator との公開通信用)がある場合、ここに公開 IP アドレスを入力します。[MI Listener IP]フィールド(上記を参照)には、内部 IP アドレスを入力します。</p>

フィールド	説明
用途	MI Listener に指定されたロール。 <ul style="list-style-type: none"> ファイアウォール越しの診断データの収集 ファイアウォール越しの監視 ファイアウォール越しのホストの実行




[新規 MI Listener] ダイアログ・ボックス


このダイアログ・ボックスを使用すると、MI Listener を ALM に追加できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]で、[MI Listeners]を選択します。 MI Listener モジュールで、[新規 MI Listener]ボタン  をクリックします。
重要な情報	MI Listener を使用すると、ファイアウォール越しに仮想ユーザを実行し、ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

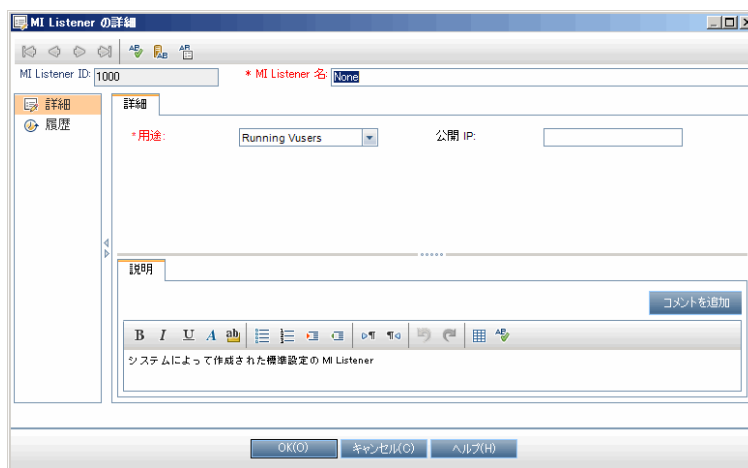
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。

UI 要素	説明
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
MI Listener 名	新しい MI Listener の名前。
詳細	必須フィールドにはアスタリスク(*)のマークが付けられ、赤色で表示されます。利用できる MI Listener のフィールドの詳細については、「MI Listener のフィールド」(103 ページ)を参照してください。

[MI Listener 詳細] ダイアログ・ボックス




このダイアログ・ボックスには、選択した MI Listener の詳細情報が表示されます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]で、[MI Listeners]を選択します。 グリッド内の MI Listener を右クリックし、[MI Listener 詳細]を選択します。
重要な情報	MI Listener を使用すると、ファイアウォール越しのホスト上でテストを実行し、ファイアウォール越しにサーバ・モニタ・データとアプリケーション診断データを収集できます。
関連タスク	「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ)
参照情報	「ラボ・リソースの概要」(55ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ: MI Listener のリストの間を移動できます。

UI 要素	説明
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
MI Listener ID	MI Listener の ID。
MI Listener 名	MI Listener の名前。
詳細	現在選択されている MI Listener についての詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については, 「 MI Listener のフィールド 」(103ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されている MI Listener に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については, 『 HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド 』を参照してください。

第6章: PC テスト 実行

本章の内容

PC テスト 実行 モジュールの概要	107
PC テスト 実行のユーザ・インタフェース	107

PC テスト 実行 モジュールの概要

PC テスト 実行 モジュールは、システム内の全プロジェクトにわたるすべてのテスト 実行に関する情報を表示します。テストの実行状態に関連する詳細情報、関連仮想ユーザ、ホストとタイムスロット情報を表示できます。イベント・ログでは、各テストで発生したイベントにドリルダウンし、詳細を表示できます。

PC テスト 実行のユーザ・インタフェース

本項の内容

PC テスト 実行 モジュールのウィンドウ	108
PC テスト 実行 モジュールのフィールド	109
PC テスト 実行 モジュールのメニューとボタン	110
[実行詳細]ダイアログ・ボックス	112

PC テスト実行モジュールのウィンドウ

このモジュールは、システム内の全プロジェクトにわたる個々のテスト実行に関する情報を表示します。

Run ID	Test Name	Domain/Project	Run State	Tester	Max Users	Duration	Start Date	End Date	Timeslot ID
5	MonitorsTest	AUTOMATION	Before Collating Results	Admin	0	1	7/12/2010 3:25:32 PM	7/12/2010 3:26:04 PM	1106
6	SimpleTestSche...	AUTOMATION	Before Collating Results	Admin	0	1	7/12/2010 3:27:47 PM	7/12/2010 3:28:24 PM	1107
7	NumGroupTest	AUTOMATION	Before Collating Results	Admin	0	1	7/12/2010 3:29:11 PM	7/12/2010 3:29:45 PM	1107
8	RunTimeSetting...	AUTOMATION	Before Collating Results	Admin	0	0	7/12/2010 3:30:46 PM	7/12/2010 3:31:16 PM	1107
9	SimpleMigTest	AUTOMATION	Before Collating Results	Admin	0	0	7/12/2010 3:31:57 PM	7/12/2010 3:32:26 PM	1107
10	SimpleMonitorTe...	AUTOMATION	Before Collating Results	Admin	0	0	7/12/2010 3:35:51 PM	7/12/2010 3:36:20 PM	1107
11	SimpleMigTest	AUTOMATION	Run Failure	Admin	0	3	7/12/2010 4:38:24 PM		1108
12	SimpleMigTest	AUTOMATION	Run Failure	Admin	0	3	7/12/2010 4:46:13 PM	7/12/2010 4:46:14 PM	1108
13	120groups_RTS...	AUTOMATION	Run Failure	Admin	0	4	7/21/2010 10:55:46 AM		1110
2	Test_4SLcdapG...	DOMAIN\PROJECT	Finished	sa	9	7	8/11/2010 4:34:16 AM	8/11/2010 4:40:50 AM	1124

Event...	Event Type	Creation...	Project Name	Action	Description	Responsible
90	Info	8/11/2010 4:...	DOMAIN_SANITY\PROJECT_SANI...	Split Timeslot	Timeslot ID '1124' was split into time...	_pc_system_...
89	Info	8/11/2010 4:...	DOMAIN_SANITY\PROJECT_SANI...	Result Analy...	Result analysis completed successfu...	_pc_system_...
88	Info	8/11/2010 4:...	DOMAIN_SANITY\PROJECT_SANI...	Result Collat...	Result collation completed successfu...	_pc_system_...
87	Info	8/11/2010 4:...	DOMAIN_SANITY\PROJECT_SANI...	Run Test	Test 'Test_4SLcdapGY9' started (Ru...	_pc_system_...

アクセス方法	ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]で、[PC テスト実行]を選択します。
---------------	--

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<PC テスト実行モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> PC テスト実行モジュールのフィールド: フィールドの定義については、「PC テスト実行モジュールのフィールド」(109ページ)を参照してください。 PC テスト実行モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「PC テスト実行モジュールのメニューとボタン」(110ページ)を参照してください。 ALM メイン・メニューとサイドバー: [ツール]メニュー、[ヘルプ]メニュー、サイドバーの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<PC テスト実行のグリッド>	全プロジェクトにわたるすべてのテスト実行のリストが表示されます。各テスト実行の詳細情報が表示されます。
<情報パネル>	モジュールの下部領域にあります。[イベント ログ]タブが表示されます。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。

PC テスト実行モジュールのフィールド

PC テスト実行モジュールでは、次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明
平均仮想ユーザ数	実行中の同時実行仮想ユーザの平均数。
Controller	テスト実行に関わる Controller。
ドメイン/プロジェクト	テストのドメインとプロジェクト。
継続時間	テストの実行にかかった時間(分)。 注: このフィールドは手動で編集しないでください。
終了日	実行の終了日。 注: このフィールドは手動で編集しないでください。
関係する仮想ユーザ数	実行中に少なくとも一度初期化された仮想ユーザ数。
Load Generator	テスト実行に関わる Load Generator。
最大仮想ユーザ数	実行中の同時実行仮想ユーザの最大数。
プロジェクト ID	テストのプロジェクト ID。
実行 ID	テスト実行の識別番号。この番号は、負荷テストの実行開始時にシステムによって自動的に生成されます。
実行名	テスト実行の名前。
状態	テスト実行の状態。テストが特定の状態で停止する場合、変更できます。
開始日	実行の開始日。 注: このフィールドは手動で編集しないでください。
開始時刻	実行の開始時刻。 注: このフィールドは手動で編集しないでください。
一時結果のディレクトリパス	テスト結果が一時的に格納されるディレクトリのパス。




フィールド	説明
テスト名	作成時にテストに与えられた名前。
テスト担当者	テストを実行しているユーザの名前。
VUD を消費	テスト実行で使用されている VUD 数。
タイムスロット ID	テスト実行のタイムスロットの ID。

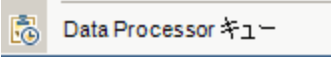



PC テスト実行モジュールのメニューとボタン






本項では、PC テスト実行モジュールで利用可能なメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で、[PC テスト実行]を選択する。
--------	--

PC テスト実行モジュールに共通のメニューとツールバーについて次に説明します。

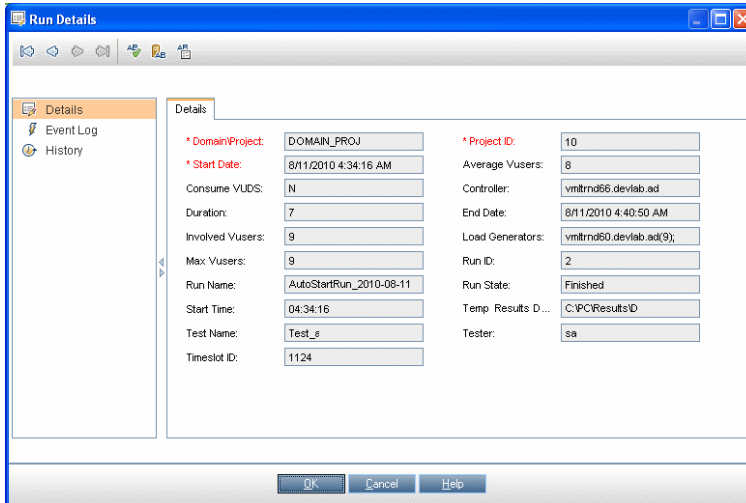
UI 要素	場所	説明
実行の停止 	<右クリック・メニュー>	現在実行中のテストを停止します。 注: 選択したテスト実行のステータスが[初期化中], 「実行中」, [停止中]のいずれかである場合のみ有効です。
お気に入り追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL のコピー 	[実行]と<右クリック・メニュー>	選択したテスト実行をコピーして、その URL をリンクとして貼り付けます。テスト実行自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、テスト実行ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
削除 	[編集]と<右クリック・メニュー>	選択したテスト実行を削除します。 注: 選択したテスト実行がアクティブな状態のいずれかでない場合のみ有効になります。

UI 要素	場所	説明
	<右クリック・メニュー>	実行後のテスト実行の分析, SLA の再計算, テスト実行のトレンド・レポートへの追加を行う場合, そのアクションがデータ処理キューに追加されるため, アクションがいつ実行されるか確認できます。
エクスポート	[実行]と<右クリック・メニュー>	[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスを開き, グリッド内のテスト実行を, テキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Word ドキュメント, HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • すべて: グリッド内のすべてのテスト実行をエクスポートします。 • 選択項目: グリッド内の選択したテストの実行をエクスポートします。
検索 	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き, モジュールでテスト実行を検索できます。検索オプションの詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
実行に移動 	実行	[実行に移動]ダイアログ・ボックスが開き, ID 番号で特定のテスト実行を検索できます。現在のフィルタに含まれるテスト実行にのみ移動できます。
タイムスロットに移動 	<右クリック・メニュー>	タイムスロット・モジュールが開き, 選択したテスト実行のタイムスロットが表示されます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き, プロパティを変更するか, ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については, 『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。

UI 要素	場所	説明
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
実行の詳細 	[実行]と<右クリック・メニュー>	[実行の詳細]ダイアログ・ボックスが開き、選択したテスト実行の詳細を表示、編集できます。
実行画面 	<右クリック・メニュー>	パフォーマンス・テスト実行画面が開き、テスト実行を表示、管理できます。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。 注: テスト実行のステータスが[実行中]である場合のみ有効です。
[カラムの選択] 	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 テスト実行のフィールドの詳細については、「PC テスト実行モジュールのフィールド」(109ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のテスト実行に対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[実行詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、テスト実行の詳細が表示されます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]で, [PC テスト実行]を選択する。 2. グリッド内のテスト実行を右クリックし, [実行の詳細]を選択します。
---------------	--

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の前の次の最後のエンティティ: プロジェクトのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
詳細	選択したテスト実行の詳細情報が表示されます。詳細については、「PC テスト実行モジュールのフィールド」(109ページ)を参照してください。
イベント・ログ	選択したテスト実行中に発生したイベントがリストされます。詳細については、「イベント・ログ」(81ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているテスト実行に行われた変更の一覧です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第7章：使用状況レポート

本章の内容

使用状況レポートの概要	115
レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法	116
レポートをPDF または Excel 形式にエクスポートする方法	116
使用状況レポートの時間フレーム	117
使用状況レポートのユーザ・インターフェース	117

使用状況レポートの概要

ALM Performance Center 使用状況レポート・モジュールでは、Performance Center 全体の分析を実行できます。実行可能な分析には、サイト・ユーザ、リソース使用状況、同時実行リソースの使用状況とライセンスによる上限との比較、タイムスロットの使用状況、継続時間別および実行別のリソース使用状況があります。

次の表に、各レポートの説明を示します。

レポート	説明
リソース・サマリ	プロジェクトによるシステムのさまざまなリソースの使用方法に関する集計データを表示します。
同時実行対ライセンス	プロジェクトごとの同時実行リソース使用状況の詳細、ライセンスの上限内でのシステム・リソースの使用方法に関する情報を表示します。
タイムスロットの使用状況	タイムスロットに関連付けられたリソースの予約と使用状況に関する情報を表示します。
継続時間別リソース	選択した時間フレームにわたるシステム・リソースの使用状況に関する一般的な情報を表示します。プロジェクトごとやプロジェクト内のユーザごとの総使用状況の統計を表示できます。
実行別リソース	テスト実行に関する一般的な情報を表示します。プロジェクトごとやプロジェクト内のユーザごとの総使用状況の統計を表示できます。
プロジェクトごとのVUDライセンス使用状況	選択した各プロジェクトの1日あたりのVUD使用状況に関する情報を表示します。
日次VUDライセンス使用状況	すべてのプロジェクトにわたって集計された1日あたりのVUD使用状況に関する情報を表示します。

レポートの表示方法の詳細については、「レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法」(116ページ)を参照してください。

レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法

このタスクでは、使用状況レポートの表示方法とそれらのフィルタ条件の設定方法について説明します。フィルタ条件は、レポートの対象にするプロジェクト、結果を表示する時間フレームを定義します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)を参照してください。

ALM Performance Center レポートの詳細については、「使用状況レポートの概要」(115ページ)を参照してください。


1. 表示したいレポートの選択

ラボ管理の[Performance Center]で[使用状況レポート]を選択し、ALM Performance Center レポート・ツリーを表示します。ツリーから、表示したいレポートを選択します。

各レポートのユーザ・インタフェース要素の詳細については、「使用状況レポートのユーザ・インタフェース」(117ページ)を参照してください。

2. レポートに含めるプロジェクトをフィルタ

次の手順を実行します。

- [プロジェクト]ボックスの横にある[プロジェクトの選択]ボタン  をクリックします。
- [プロジェクト セレクタ]ダイアログ・ボックスで、矢印ボタンを使用して、[利用可能なプロジェクト]リストから1つまたは複数のプロジェクトを選択します。

注: レポートを生成するには、少なくとも1つのプロジェクトを選択する必要があります。

3. レポートに関する必要な時間フレームを選択します。

[時間フレーム]ドロップダウン・リストから、レポートに適用する時間フレームを選択します。指定されているオプションに加えて、カスタムの時間フレームを設定できます。

指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(117ページ)を参照してください。

4. レポートの更新による新しいフィルタ設定の反映


[生成]をクリックします。レポートに、選択したプロジェクトと時間フレームに関する情報が表示されます。

レポートを PDF または Excel 形式にエクスポートする方法


次のタスクでは、Performance Center レポートを PDF または Excel 形式にエクスポートする方法について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用
方法」(21ページ)を参照してください。

レポートのPDF へのエクスポート

レポートをPDF ファイルにエクスポートするには、レポートの右上隅にある[PDF にエクスポート]アイ
コンをクリックします。

レポートの編集可能な Excel ファイルへのエクスポート

レポートを編集可能な Excel ファイルにエクスポートするには、レポートの右上隅にある[Excel にエ
クスポート]アイコンをクリックします。

使用状況レポートの時間フレーム

次の表に、レポートの選択で利用できる時間フレームの説明を示します。

時間フレーム	説明
今日	現在の日付の00:00 ~ 23:59
前日	前日の00:00 ~ 23:59
今週	現在の週の月曜日から日曜日まで
先週	前の週の月曜日から日曜日まで
今月	現在のカレンダー月の最初から最後まで
先月	前のカレンダー月の最初から最後まで
今四半期	現在の四半期
前四半期	前の四半期
今年	現在の年の1月から12月まで
前年	前年の1月から12月まで

使用状況レポートのユーザ・インタフェース

使用状況レポートを1024x768の解像度で表示する場合、すべてのユーザ・インタフェース・コン
トロールを表示するには、ALM モジュールやレポート選択ツリーを折りたたみます。


本項の内容

[プロジェクトを選択]ダイアログ・ボックス	118
同時実行対ライセンス・レポート	119
リソース・サマリ・レポート	124




タイムスロットの使用状況レポート	126
継続時間別リソースレポート	128
実行別リソース使用状況レポート	131
プロジェクトごとのVUDライセンス使用状況レポート	133
日次 VUD ライセンス使用状況レポート	135

[プロジェクトを選択]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、レポートの対象にするプロジェクトを選択できます。

アクセス方法	任意のレポートで、[プロジェクト]ボックスの横にある[プロジェクトを選択]ボタン  をクリックします。
重要な情報	レポートを生成するには、少なくとも1つのプロジェクトを選択する必要があります。
関連タスク	「レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法」(116ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	[利用可能なプロジェクト]リストをフィルタします。フィルタでは、部分的なテキストの入力がサポートされます。
	クリックして個々のプロジェクトをそれぞれ選択または選択解除します。
	クリックしてすべてのプロジェクトをそれぞれ選択または選択解除します。
[利用可能なプロジェクト]リスト	選択できるプロジェクト。
[選択したプロジェクト]リスト	すでに選択されているプロジェクト。 標準設定値: 利用可能なプロジェクトがすべて自動的に選択されています。

同時実行対ライセンス・レポート

同時実行対ライセンス・レポートには、プロジェクトごとの同時実行リソース使用状況の詳細、ライセンスの上限内でのシステム・リソースの使用方法に関する情報が表示されます。

プロジェクト	同時実行			同時実行仮想ユーザー			同時実行マシン			全体的な継続時間 [時間:分]
	最大値	平均	上限	最大値	平均	上限	最大値	平均	上限	
DEFAULTtest	0	0.0	2	0	0.0	10	0	0.0	5	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRA MIAFC01	0	0.0	2	0	0.0	10	0	0.0	5	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRA MIALLY01	0	0.0	2	0	0.0	10	0	0.0	5	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRA MIBANK01	0	0.0	2	0	0.0	10	0	0.0	5	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRA MIBARCO1	0	0.0	2	0	0.0	10	0	0.0	5	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRA MIBOFA01	0	0.0	2	0	0.0	10	0	0.0	5	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRA MIJCP01	0	0.0	2	0	0.0	10	0	0.0	5	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRA MIWYtest02	0	0.0	2	0	0.0	10	0	0.0	5	0:00

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> [Performance Center] > [使用状況レポート]を選択します。 [使用状況レポート]のリストで、[同時実行対ライセンス]を選択します。
関連タスク	「レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法」(116ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
	レポートを生成します。
[プロジェクト別同時実行] タブ	<p>選択した各プロジェクトの同時実行リソース使用状況情報を表示するテーブルが含まれています。</p> <p>詳細については、「[プロジェクト別同時実行]テーブル」(120ページ)を参照してください。</p>
次でフィルタ: プロジェクト	このフィールドで参照ボタンをクリックして、レポートの対象にするプロジェクトを選択します。
次でフィルタ: 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(117ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
[全体的な同時実行数]タブ	<p>選択したすべてのプロジェクト、およびシステム内のすべてのプロジェクトにわたって集計された同時実行リソース使用状況情報を表示するテーブルが含まれています。</p> <p>詳細については、「[全体的な同時実行数]テーブル」(121ページ)を参照してください。</p>
[全体的なライセンス使用状況]タブ	<p>実行数と仮想ユーザ数の最大値と平均値の使用状況を Performance Center ライセンスの上限のパーセント表記で表示するグラフが含まれていて、管理者は実際に使用されている Performance Center ライセンスの割合を判断できます。</p> <p>使用状況は、選択したすべてのプロジェクト、およびシステム内のすべてのプロジェクトにわたって集計されています。</p> <p>詳細については、「[全体的なライセンス使用状況]グラフ」(122ページ)を参照してください。</p>
[実行別上位プロジェクト]タブ	<p>プロジェクトごとの同時実行数の最大値と平均値を、プロジェクトの上限のパーセント表記で表示するグラフが含まれています。このプロジェクトの上限は、プロジェクト設定([ラボ設定]>[プロジェクト設定])で定義されています。これによって、管理者は、指定された上限内で最も効率的に実行されているプロジェクトを特定できます。</p> <p>詳細については、「[実行別上位プロジェクト]グラフ」(122ページ)を参照してください。</p>
[仮想ユーザ別上位プロジェクト]タブ	<p>プロジェクトごとの同時実行仮想ユーザ数の最大値と平均値を、プロジェクトの上限のパーセント表記で表示するグラフが含まれています。このプロジェクトの上限は、プロジェクト設定([ラボ設定]>[プロジェクト設定])で定義されています。これによって、管理者は、指定された上限内で最も効率的に実行されているプロジェクトを特定できます。</p> <p>詳細については、「[仮想ユーザ別上位プロジェクト]グラフ」(123ページ)を参照してください。</p>

[プロジェクト別同時実行]テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
-------	---

次にユーザ・インターフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
同時実行マシン平均	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行マシン(Controller と Load Generator) の平均数。
同時実行マシン上限	プロジェクト設定([ラボ設定]>[プロジェクト設定])で定義されている、このプロジェクトに許可されている同時実行マシンの最大数。

UI 要素	説明
同時実行マシン最大値	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行マシン(Controller と Load Generator) の最大数。
同時実行平均	プロジェクトの同時テスト実行の平均数。このレポートの目的から、1つのテスト実行は同時実行とみなされます。
同時実行上限	プロジェクト設定([ラボ設定]>[プロジェクト設定])で定義されている、このプロジェクトに許可されている同時実行の最大数。このレポートの目的から、1つのテスト実行は同時実行とみなされます。
同時実行最大値	プロジェクトの同時テスト実行の最大数。このレポートの目的から、1つのテスト実行は同時実行とみなされます。
同時実行仮想ユーザ平均	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行仮想ユーザの平均数。
同時実行仮想ユーザ上限	プロジェクト設定([ラボ設定]>[プロジェクト設定])で定義されている、このプロジェクトに許可されている同時実行仮想ユーザの最大数。
同時実行仮想ユーザ最大値	すべてのプロジェクトの同時テスト実行における同時実行仮想ユーザの最大数。
全体的な継続時間	プロジェクト内でテストが実行された合計時間。この値は、同時実行継続時間ではなく、負荷テストにシステムが使用された実際の時間を示します。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており、赤色のxで示されます。

[全体的な同時実行数]テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
-------	---

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
同時実行マシン平均	同時実行マシンの平均数。
同時実行マシン最大値	同時実行マシンの最大数。
同時実行平均(ライセンス(%))	同時実行の平均数。括弧内の値は、同時実行の平均数を Performance Center ライセンスのパーセントで表記したものです。
同時実行最大値(ライセンス(%))	同時実行の最大数。括弧内の値は、同時実行の最大数を Performance Center ライセンスのパーセントで表記したものです。

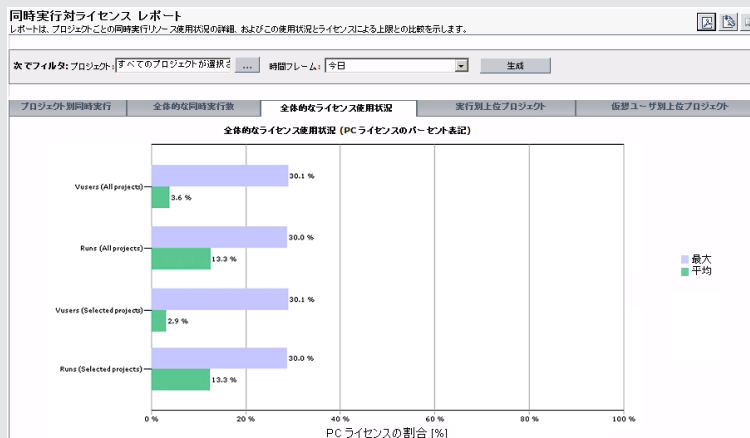
UI 要素	説明
同時実行 PC ライセンス	Performance Center ライセンスで許可された同時実行の最大数。
同時実行仮想ユーザ平均 (ライセンス (%))	同時実行仮想ユーザの平均数。括弧内の値は、同時実行仮想ユーザの平均数を Performance Center ライセンスのパーセントで表記したものです。
同時実行仮想ユーザ最大値 (ライセンス (%))	同時実行仮想ユーザの最大数。括弧内の値は、同時実行仮想ユーザの最大数を Performance Center ライセンスのパーセントで表記したものです。
同時実行仮想ユーザ PC ライセンス	Performance Center ライセンスで許可された同時実行仮想ユーザの最大数。
全体的な継続時間	すべてのプロジェクトにわたって集計された、テストが実行された合計時間。
プロジェクト	[All Projects]または[Selected Projects]。

[全体的なライセンス使用状況]グラフ

X 軸	使用中の Performance Center ライセンスの最大と平均のパーセント。
Y 軸	すべてのプロジェクトにわたって集計された仮想ユーザ数と実行数の使用状況、および選択したプロジェクトのみの仮想ユーザ数と実行数の使用状況。

例

次の例では、システム内のすべてのプロジェクトの仮想ユーザの最大数が Performance Center ライセンスの 30.1% を使用していましたが、すべてのプロジェクトの仮想ユーザの平均数はライセンスの 3.6% しか使用していませんでした。このことで、管理者は Performance Center ライセンスのかなりの部分が未使用であることがわかります。



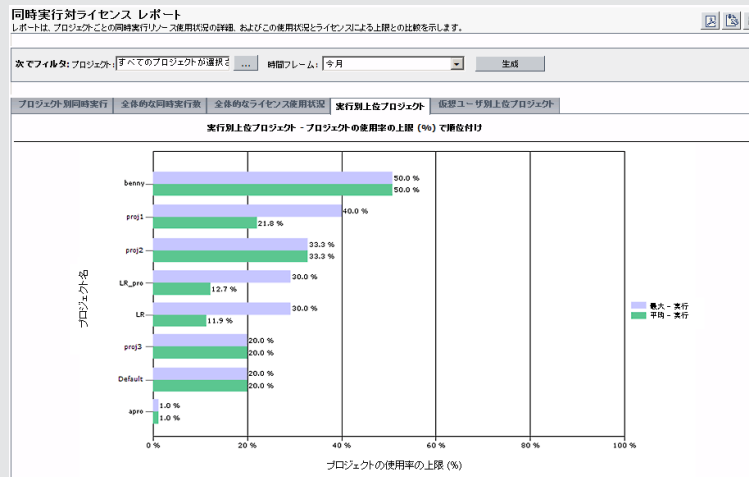
[実行別上位プロジェクト]グラフ

[実行別上位プロジェクト]グラフ

重要な情報	ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。
X 軸	使用中の許可された同時実行数の最大と平均のパーセント。
Y 軸	同時実行の最大数に従って、降順に表示されたプロジェクト。

例

次の例では、LR_pro プロジェクトの[最大値 - 実行数]の値は 30% です。つまり、このプロジェクトの同時実行の最大数はその上限の 30% に到達していました。このプロジェクトの[平均 - 実行数]の値は、同時実行の平均数がその上限の 12.7% に到達したことを示しています。これらの値によって、管理者は、同時実行のプロジェクトの定義済み上限のかなりの部分が活用されていないことがわかります。



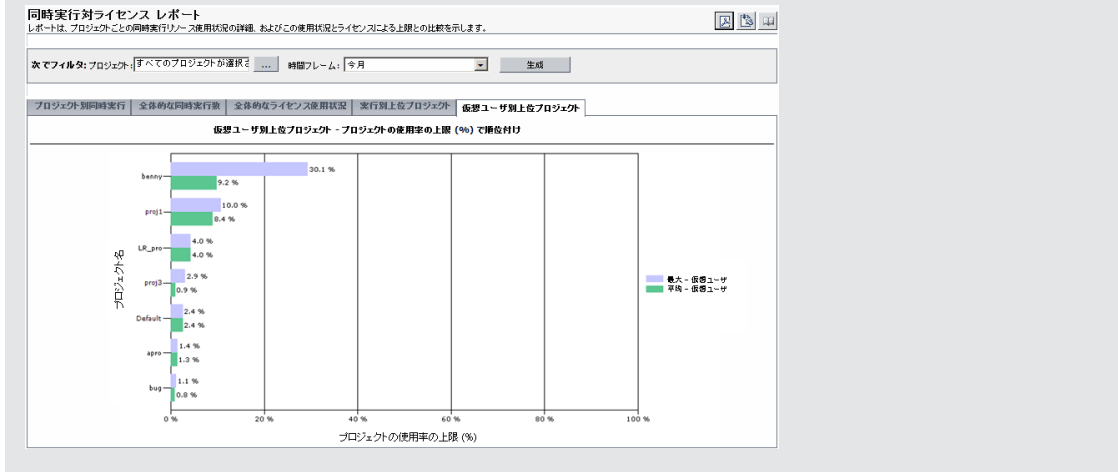
[仮想ユーザ別上位プロジェクト]グラフ

重要な情報	ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。
X 軸	使用中の許可された同時実行仮想ユーザ数の最大と平均のパーセント。
Y 軸	同時実行仮想ユーザの最大数に従って、降順に表示されたプロジェクト。

例

次の例では、proj1 プロジェクトの[最大値 - 仮想ユーザ数]の値は 10% です。つまり、このプロジェクトの同時実行仮想ユーザの最大数はその上限の 10% に到達していました。このプロジェクトの[平均 - 仮想ユーザ数]の値は、同時実行仮想ユーザの平均数がその上限の 8.4%

に到達したことを示しています。これらの値によって、管理者は、同時実行仮想ユーザのプロジェクトの定義済み上限のかなりの部分が活用されていないことがわかります。



リソース・サマリ・レポート

リソース・サマリ・レポートには、プロジェクトによるシステムのさまざまなリソースの使用方法に関する集計データが表示されます。

リソース サマリ レポート
レポートは、プロジェクトごとのリソース使用状況に関する全体の詳細を表示します。

次でフィルタ: プロジェクト: [すべてのプロジェクトが選択] ... 時間フレーム: [今月] 生成

プロジェクト別リソース使用状況 マシン別上位プロジェクト 実行別上位プロジェクト 仮想ユーザ別上位プロジェクト

プロジェクト別リソース使用状況

プロジェクト	(x = 削除されたプロジェクト)	実行数	仮想ユーザ数	マシン数	継続時間 [時間:分]
DEFAULTtest	x	0	0	0	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\AFC01		0	0	0	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\ALLV01		0	0	0	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\BANKW01		0	0	0	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\BARC01		0	0	0	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\BOFA01		0	0	0	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\CBA01		0	0	0	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\CIBC01		0	0	0	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\CIGNAD		0	0	0	0:00
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\INX01		0	0	0	0:00

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> [Performance Center] > [使用状況レポート]を選択します。 [使用状況レポート]のリストで、[リソース サマリ]を選択します。
関連タスク	「レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法」(116ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート: クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。

UI 要素	説明
次でフィルタ: プロジェクト	このフィールドの右にある参照ボタンをクリックして、レポートの対象にするプロジェクトを選択します。
次でフィルタ: 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(117ページ)を参照してください。
[プロジェクト別リソース使用状況]タブ	<p>選択した各プロジェクトのリソース使用状況情報を表示するテーブルが含まれています。</p> <p>詳細については、「[プロジェクト別リソース使用状況]テーブル」(125ページ)を参照してください。</p>
[マシン別上位プロジェクト]タブ	<p>すべての実行にわたって集計された、プロジェクトごとに使用されているマシン数を表示するグラフが含まれています。</p> <p>X 軸: プロジェクトごとに使用されているマシン数。</p> <p>Y 軸: 使用されているマシン数に従って、降順に表示されたプロジェクト。</p> <p>注: ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。</p>
[実行別上位プロジェクト]タブ	<p>プロジェクトごとのテスト実行数を表示するグラフが含まれています。</p> <p>X 軸: プロジェクトごとのテスト実行数。</p> <p>Y 軸: テスト実行数に従って、降順に表示されたプロジェクト。</p> <p>注: ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。</p>
[仮想ユーザ別上位プロジェクト]タブ	<p>すべての実行にわたって集計された、プロジェクトごとの仮想ユーザ数を表示するグラフが含まれています。</p> <p>X 軸: プロジェクトごとの仮想ユーザ数。</p> <p>Y 軸: 仮想ユーザ数に従って、降順に表示されたプロジェクト。</p>

[プロジェクト別リソース使用状況]テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
-------	---

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
継続時間	プロジェクト内でテストが実行された合計時間。
マシン数	すべてのプロジェクトにわたって集計された、プロジェクトで使用されたマシンの合計数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており、赤色の x で示されます。
実行数	すべてのテストにわたって集計された、プロジェクト内のテスト実行の合計数。
テスト	プロジェクト内の負荷テスト数。
仮想ユーザ数	すべての実行にわたって集計された、プロジェクト内の仮想ユーザの合計数。

タイムスロットの使用状況レポート

タイムスロットの使用状況レポートには、タイムスロットに関連付けられたリソースの予約と使用状況に関する情報が表示されます。

タイムスロット 使用状況レポート
レポートは、予約使用状況に関する詳細を表示します

次でフィルタ: プロジェクト: [すべてのプロジェクトが選択] ... 時間フレーム: [今月] 生成



プロジェクト別タイムスロットの使用状況 期間使用状況別上位プロジェクト 仮想ユーザの使用状況別上位プロジェクト マシン使用状況別上位プロジェクト

プロジェクト別タイムスロットの使用状況

プロジェクト (x = 削除されたプロジェクト)	継続時間 [時間:分]		マシン数		仮想ユーザ	
	予約済み	使用済み	予約済み	使用済み	予約済み	使用済み
DEFAULTtest x	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\AFC01	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\ALLY01	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\BANK001	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\BARCO1	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\BOFAD1	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\CBA01	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\LOADT01	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\LPS01	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\Mytest01 x	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\Mytest01 x	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\Mytest02	0:00	0:00	0	0	0	0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\NAT	0:00	0:00	0	0	0	0

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> [Performance Center] > [使用状況レポート]を選択します。 [使用状況レポート]のリストで、[タイムスロットの使用状況]を選択します。
関連タスク	「レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法」(116ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
	レポートを生成します。
次でフィルタ: プロジェクト	このフィールドで参照ボタンをクリックして、レポートの対象にするプロジェクトを選択します。
次でフィルタ: 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(117ページ)を参照してください。
[プロジェクト別タイムスロットの使用状況]タブ	プロジェクトごとの継続時間、マシン数、仮想ユーザ数に関する予約と使用状況の情報を表示するテーブルが含まれています。 詳細については、「[プロジェクト別タイムスロットの使用状況]テーブル」(128ページ)を参照してください。
[期間使用状況別上位プロジェクト]タブ	プロジェクトごとのタイムスロットの継続時間に関する予約と使用状況の情報を表示するグラフが含まれています。これによって、管理者は、どのプロジェクトが予約済みの継続時間を最も効率的に使用しているかがわかります。 X 軸 : 各プロジェクトで予約され、使用されている継続時間の合計。 Y 軸 : 継続時間の使用状況に従って、降順に表示されたプロジェクト。 注: ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。
[マシン使用状況別上位プロジェクト]タブ	プロジェクトごとのタイムスロットのマシンに関する予約と使用状況の情報を表示するグラフが含まれています。これによって、管理者は、どのプロジェクトが予約済みのマシン数を最も効率的に使用しているかがわかります。 X 軸 : 各プロジェクトで予約され、使用されているマシン数の合計。 Y 軸 : 仮想ユーザの使用状況に従って、降順に表示されたプロジェクト。 注: ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。

UI 要素	説明
[仮想ユーザの使用状況別上位プロジェクト]タブ	<p>プロジェクトごとのタイムスロットの仮想ユーザに関する予約と使用状況の情報を表示するグラフが含まれています。これによって、管理者は、どのプロジェクトが予約済みの仮想ユーザ数を最も効率的に使用しているかがわかります。</p> <p>X 軸: 各プロジェクトで予約され、使用されている仮想ユーザの合計数。</p> <p>Y 軸: マシンの使用状況に従って、降順に表示されたプロジェクト。</p> <p>注: ほとんどの場合、グラフには、最大で 10 個の選択したプロジェクトの情報が表示されます。最大同時実行数が同じプロジェクトが複数選択されている場合、これらすべてのプロジェクトが表示されます。この場合、10 を超えるプロジェクトが表示される可能性があります。</p>

[プロジェクト別タイムスロットの使用状況]テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
-------	---

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
継続時間 予約済み	プロジェクトに予約された時間。
継続時間 使用済み	プロジェクト内で使用された時間。
マシン数 予約済み	プロジェクトに予約されたマシン数。
マシン数 使用済み	プロジェクト内で使用されたマシン数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており、赤色の x で示されます。
仮想ユーザ 予約済み	プロジェクトに予約された仮想ユーザ数。
仮想ユーザ 使用済み	プロジェクト内で使用された仮想ユーザ数。

継続時間別リソース・レポート

継続時間別リソース・レポートには、選択した時間フレームにわたるシステム・リソースの使用状況に関する一般的な情報が表示されます。プロジェクトごとやプロジェクト内のユーザごとの総使用状況の

統計を表示できます。

継続時間別リソース レポート
レポートは、プロジェクトごとやユーザーごとの継続時間別リソース使用状況の詳細を示します。


次でフィルタ: プロジェクト: [すべてのプロジェクトが選択] ... 時間フレーム: [今月] 生成

プロジェクト別リソース使用状況 ユーザー別リソース使用状況

プロジェクト (x = 削除されたプロジェクト)	アクティブな合計継続時間 [時間:分]	合計予約継続時間 [時間:分]	アクティブな 1 時間ごとの平均マシン数	アクティブな 1 時間ごとの平均管理ユーザー数
DEFAULTtest	x 0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\AFCD1	0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\ALLYD1	0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\BANKW01	0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\BARCD1	0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\BOPAD1	0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\LOADT01	0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\LPS01	0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\MyTest01	x 0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\MyTest01	x 0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\MyTest02	0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\NATW01	0:00	0:00	0:00	0.0
PC11_PRE_RELEASE_PROGRAM\	0:00	0:00	0:00	0.0

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 [使用状況レポート] のリストで、[継続時間別リソース使用状況] を選択します。
関連タスク	「レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法」(116ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。
次でフィルタ: プロジェクト	このフィールドで参照ボタンをクリックして、レポートの対象にするプロジェクトを選択します。
次でフィルタ: 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(117ページ)を参照してください。
[プロジェクト別リソース使用状況] タブ	<p>選択した時間フレームにわたるプロジェクトごとのリソース使用状況を表示するテーブルが含まれています。</p> <p>詳細については、「[プロジェクト別リソース使用状況] テーブル」(130ページ)を参照してください。</p>
[ユーザー別リソース使用状況] タブ	<p>ユーザーごとのリソース使用状況を表示するテーブルが含まれています。</p> <p>詳細については、「[ユーザー別リソース使用状況] テーブル」(130ページ)を参照してください。</p>

[プロジェクト別リソース使用状況]テーブル

重要な情報	任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
--------------	---

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
アクティブな 1 時間ごとの平均マシン数	<p>アクティブな 1 時間ごとに使用されているマシンの平均数。</p> <p>注: アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。</p>
アクティブな 1 時間ごとの平均仮想ユーザ数	<p>アクティブな 1 時間ごとに実行されている仮想ユーザの平均数。</p> <p>注: アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。</p>
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており、赤色の x で示されます。
アクティブな合計継続時間	<p>予約済みのタイムスロット中にテストが実行された合計時間。</p> <p>注: アクティブな継続時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。</p>
合計予約継続時間	プロジェクト別に[タイムスロット]ページで予約された合計時間。

[ユーザ別リソース使用状況]テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • 選択したプロジェクト内の権限を持つユーザのみ表示されます。 • 任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
--------------	--

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
アクティブな 1 時間ごとの平均ホスト数	<p>アクティブな 1 時間ごとに使用されているホストの平均数。</p> <p>注: アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。</p>

UI 要素	説明
アクティブな 1 時間ごとの平均仮想ユーザ数	アクティブな 1 時間ごとに実行されている仮想ユーザの平均数。 注: アクティブな時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
氏名	ユーザの名前。削除されたユーザもレポートに表示されます。
アクティブな合計継続時間	予約済みのタイムスロット中にテストが実行された合計時間。 注: アクティブな継続時間とは、選択した時間フレーム内のテストの実際の実行時間のことです。
合計予約継続時間	ユーザ別に[タイムスロット] ページで予約された合計時間。

実行別リソース使用状況レポート

実行別リソース使用状況レポートには、テスト実行に関する一般的な情報が表示されます。プロジェクトごとやプロジェクト内のユーザごとの総使用状況の統計を表示できます。

実行別リソース レポート
レポートは、プロジェクトごとやユーザごとの実行別リソース使用状況の詳細を示します


次でフィルタ: プロジェクト [すべてのプロジェクトが選択] ... 時間フレーム: [今月] 生成

プロジェクト別リソース使用状況 ユーザ別リソース使用状況

プロジェクト別リソース使用状況	プロジェクト別リソース使用状況					
プロジェクト エント	合計実行 回数 (x = 削除されたプロジェクト エント)	関連仮想ユーザ の合計数	実行ごとの平均 仮想ユーザ数	合計継続時間 [時 間:分]	実行ごとの平均継続 時間 [時間:分]	実行ごとの平均 シン数
alex		0		0:00	0:00	
alex_oba		0		0:00	0:00	
anatoly		0		0:00	0:00	
anton		0		0:00	0:00	
ash	3	253	84.3	2:17	0:46	6.0
benny		0		0:00	0:00	
eugene		0		0:00	0:00	
john		0		0:00	0:00	
nick		0		0:00	0:00	
Testing User		0		0:00	0:00	
Testing User 2		0		0:00	0:00	

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 [使用状況レポート] のリストで、[実行別リソース使用状況] を選択します。
関連タスク	「レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法」(116ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート: クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
生成	レポートを生成します。

UI 要素	説明
次でフィルタ: プロジェクト	このフィールドで参照ボタンをクリックして、レポートの対象にするプロジェクトを選択します。
次でフィルタ: 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(117ページ)を参照してください。
[プロジェクト別リソース使用状況]タブ	選択した時間フレームにわたるプロジェクトごとのテスト実行の統計を表示するテーブルが含まれています。 詳細については、「[プロジェクト別リソース使用状況]テーブル」(132ページ)を参照してください。
[ユーザ別リソース使用状況]タブ	ユーザごとのテスト実行の統計を表示するテーブルが含まれています。 詳細については、「[ユーザ別リソース使用状況]テーブル」(133ページ)を参照してください。

[プロジェクト別リソース使用状況]テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再試行回数さえも含まれています。 • 任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
-------	---

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
実行ごとの平均継続時間	リストされている実行に使用された平均時間。
実行ごとの平均マシン数	実行ごとに使用されているマシンの平均数。
実行ごとの平均仮想ユーザ数	実行ごとに使用されている仮想ユーザの平均数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており、赤色のxで示されます。
合計継続時間	リストされている実行で使用された合計時間。
合計実行数	プロジェクト内の実行の合計数。
関連仮想ユーザの合計数	プロジェクト内の仮想ユーザの合計数。

[ユーザ別リソース使用状況]テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • テーブルには、システムから削除されたか、権限がなくなったユーザの実行も含まれています。 • テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再試行回数さえも含まれています。 • 任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
--------------	--

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。



UI 要素	説明
実行ごとの平均継続時間	リストされている実行に使用された平均時間。
実行ごとの平均マシン数	実行ごとに使用されているマシンの平均数。
実行ごとの平均仮想ユーザ数	実行ごとに使用されている仮想ユーザの平均数。
氏名	ユーザの名前。削除されたユーザもレポートに表示されます。
合計継続時間	リストされている実行で使用された合計時間。
合計実行数	ユーザに関連付けられている実行の合計数。
関連仮想ユーザの合計数	ユーザに関連付けられている仮想ユーザの合計数。

プロジェクトごとの VUD ライセンス使用状況レポート

プロジェクトごとの VUD ライセンス使用状況レポートには、選択した各プロジェクトの 1 日あたりの VUD 使用状況に関する情報が表示されます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 2. [使用状況レポート] のリストで、[VUD ライセンスのプロジェクト使用状況] を選択します。
関連タスク	「レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法」(116ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート : クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
	レポートを生成します。
次でフィルタ: プロジェクト	このフィールドで参照ボタンをクリックして、レポートの対象にするプロジェクトを選択します。

UI 要素	説明
次でフィルタ: 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(117ページ)を参照してください。
[プロジェクトごとのVUD]タブ	選択したプロジェクトごとの日次 VUD 使用状況に関する情報を表示するテーブルが含まれています。詳細については、「[プロジェクトごとのVUD]テーブル」(134ページ)を参照してください。
[VUD トランザクション]タブ	トランザクションごとの VUD に関する情報を表示するテーブルが含まれています。詳細については、「[VUD トランザクション]テーブル」(134ページ)を参照してください。

[プロジェクトごとのVUD]テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再試行回数さえも含まれています。 • 任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
-------	---

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
割り当て済み	当日の初めにプロジェクトに割り当てられた VUD 数。
消費済み	当日中に消費された VUD 数。
日付	VUD 使用状況情報が表示されている日付。
新しい値	当日の終わりに残った VUD 数。
プロジェクト	プロジェクトの名前。

[VUD トランザクション]テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再試行回数さえも含まれています。 • 任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
-------	---

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
アクション	VUD の現在の状態。



UI 要素	説明
日付	VUD 情報が表示されている日付。
使用中	現在実行中の VUD 数。
新規上限	プロジェクトで現在利用できる VUD 数。
保留中	実行できる VUD 数。
プロジェクト	プロジェクト名。削除されたプロジェクトもレポートに含まれており、赤色の x で示されます。
実行 ID	実行 ID。
テスト名	パフォーマンス・テストの名前。
一意 ID	発行から有効期限まで VUD を識別する一意な ID。
ユーザ	トランザクションを実行したユーザ。
値	[アクション]カラムで示された状態にある VUD 数。

日次 VUD ライセンス使用状況レポート

日次 VUD ライセンス使用状況レポートには、特定の日すべてのプロジェクトにわたって集計された全体的な VUD 使用状況情報が表示されます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> [Performance Center] > [使用状況レポート] を選択します。 [使用状況レポート] のリストで、[日次 VUD ライセンスのサイト使用状況] を選択します。
関連タスク	「レポートの表示方法とレポートのフィルタ条件の設定方法」(116ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	PDF/Excel にエクスポート: クリックして、レポートを PDF または Excel にエクスポートします。
	レポートを生成します。
[日次 VUD 使用状況] タブ	日次 VUD 使用状況情報を表示するテーブルが含まれています。詳細については、「[日次 VUD 使用状況] テーブル」(136ページ)を参照してください。
次でフィルタ: 時間フレーム	レポートに関する必要な時間フレームを選択します。指定されている時間フレームの説明については、「使用状況レポートの時間フレーム」(117ページ)を参照してください。

[日次 VUD 使用状況]テーブル

重要な情報	<ul style="list-style-type: none">• テーブルには、継続時間のあるすべての実行の詳細情報、1つの実行の再試行回数さえも含まれています。• 任意のカラムの値に従って、テーブルをソートできます。見出しの矢印は、カラムが昇順または降順でソートされているかを示します。順序を逆にするには、カラムの見出しをクリックします。
-------	--

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
追加済み	当日追加された VUD 数。
消費済み	当日使用された VUD 数。
日付	VUD 使用状況情報が表示されている日付。
新しい値	当日の終わりに残った VUD 数。

第8章：システム・ヘルス

本章の内容

システムのヘルスの概要	137
システムのヘルスのユーザ・インタフェース	137

システムのヘルスの概要

ALM でパフォーマンス・テストを設計、実行するには、Performance Center システムが正常に稼働中である必要があります。システムのヘルス・モジュールでは、システム・コンポーネント間の通信をチェックするタスクを実行することによって、システム稼働を正常な状態に維持することができます。

システムのヘルスのユーザ・インタフェース

本項の内容

システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ	138
[システム チェックの設定] ダイアログ・ボックス	139




システムのヘルス・モジュール・ウィンドウ

このモジュールには、ALM Performance Center システムのヘルスのメンテナンス・タスクと一般的なシステム・チェックに関する情報が表示され、ALM Performance Center システムで完全な検証を実行できます。



アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で、[システムのヘルス]を選択します。
参照情報	「システムのヘルスの概要」(137ページ)

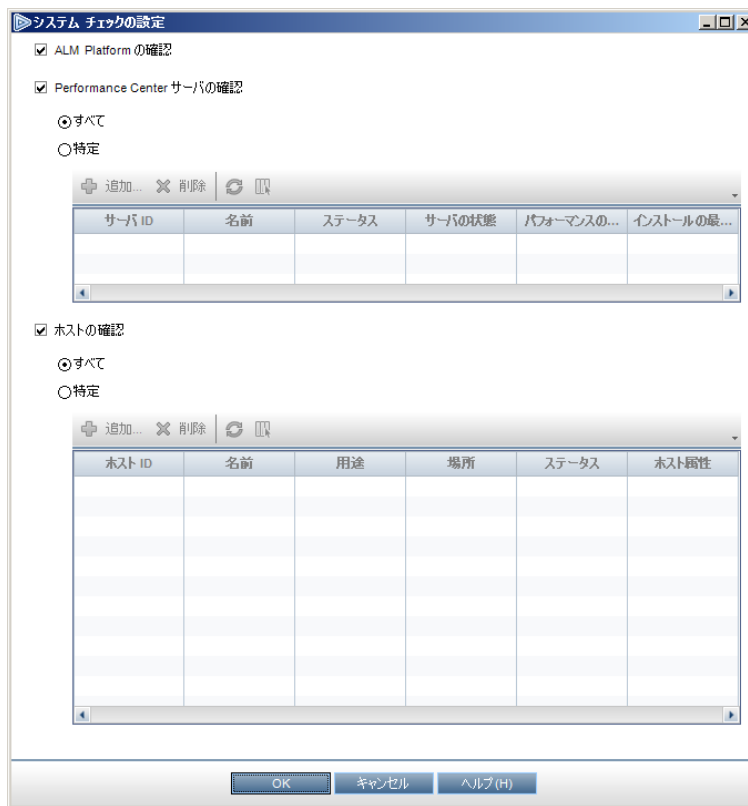
次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。


UI 要素	説明
 システムの確認	[システム チェックの設定]ダイアログ・ボックスが開き、システム・チェックの対象にする ALM-Performance Center システム内のサーバとホストを選択できます。詳細については、「[システム チェックの設定]ダイアログ・ボックス」(139ページ)を参照してください。
	すべて更新: 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。 [自動更新]が有効になっている場合、このボタンは無効になります。
	自動更新をオンに設定/自動更新をオフに設定: 有効にした場合、最新のタスク情報が表示されるように、グリッドを5秒ごとに自動更新します。
失敗したタスクのみ表示	失敗ステータスのみを持つシステム・チェック結果が表示されます。

UI 要素	説明
エクスポート	<p>[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き、システム・チェックの結果を Microsoft Excel ワークシートとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート: グリッドのすべてのタスクをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート: グリッドの選択したタスクをエクスポートします。
<結果グリッド>	システム・チェックの進行状況と結果が表示されます。

[システム チェックの設定]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、システム・チェックの実行時に対象とする ALM-Performance Center システム・コンポーネント(サーバとホスト)を選択できます。



アクセス方法	<p>[Performance Center]のラボ管理 サイドバーで、[システムのヘルス]を選択します。</p> <p> システムの確認 をクリックします。</p>
--------	--

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> システム・チェックは、稼動中状態の Performance Center サーバとホストのみで実行されます。 システム・チェックは、Controller 目的のホストのみで実行されます。
参照情報	「システムのヘルスの概要」(137ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
ALM Platform の確認	システム・チェックで ALM サーバを対象にします。
Performance Center サーバの確認	<p>システム・チェックで稼動中の Performance Center サーバを対象にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべて:システム・チェックで稼動中の Performance Center サーバをすべて対象にします。 特定:システム・チェックの対象にする稼動中の Performance Center サーバを選択できます。
ホストの確認	<p>システム・チェックで Controller 目的の稼動中の Performance Center ホストを対象にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> すべて:システム・チェックで Controller 目的の稼動中の Performance Center ホストをすべて対象にします。 特定:システム・チェックの対象にする Controller 目的の稼動中の Performance Center ホストを選択できます。
<Performance Center サーバのグリッド>	システム・チェックの対象にするように選択した Performance Center サーバがリストされ、その詳細が表示されます。
<Performance Center ホスト・グリッド>	システム・チェックの対象にするように選択した Performance Center ホストがリストされ、その詳細が表示されます。

第9章: PC ライセンス

本章の内容

HP ALM Performance Center PC ライセンスの概要	141
PC ライセンスのユーザ・インタフェース	143

HP ALM Performance Center PC ライセンスの概要

HP ALM Performance Center を使用するには、次のライセンスを定義する必要があります。

ライセンス	説明
ALM ライセンス	ALM ライセンスは、ALM のインストール・プロセスの一環として設定され、サイト管理で管理されます。ALM ライセンスの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ライセンス	説明
Performance Centerライセンス	<p>Performance Center のライセンスには 2 つのタイプがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">● PC: このライセンスは、同時実行または仮想ユーザの合計数によって制限され、有効期限が設定されている可能性があります。● PC_VUDS: バーチャル・ユーザ・デイ(VUD)ライセンスでは、指定された仮想ユーザ数(VUD)を24時間の期間(バーチャル・ユーザ・デイ)以内に無制限で実行できます。バーチャル・ユーザ・デイの終わりに、ライセンス済みVUDの残りの数が計算されます。この計算では、使用済みのVUD数を差し引くか、同時実行で使用した場合は、ライセンス済みVUDの合計数から同時実行VUDの最大数を差し引きます。 <p>たとえば、ユーザに1,000個のVUDを実行できるライセンスがあったとします。ユーザは、200個の仮想ユーザを必要とし、45分間実行されるパフォーマンス・テストを作成します。テストを08:00:00時、10:00:00時、14:00:00時、16:00:00時に実行します。それぞれのケースで、テストは次のテストが始まる前に終了します。仮想ユーザを同時実行で使用していないため、各テストで同じ200個のVUDを再利用できます。つまり、24時間の期間の最後に、ライセンスから200個のVUDのみ差し引かれ、残りの800個を今後使用できることになります。</p> <p>ただし、ユーザが2番目の実行を午前8時30分に開始した場合、2番目のテストの初期化時に最初のテストはまだ実行中です。この重複によって、同時実行のために400個(各テストで200個ずつ)の仮想ユーザ数が必要になります。この期間の最後に、ライセンスから400個のVUDが差し引かれます。400が同時実行仮想ユーザの最大数であるためです。今後使用できる残りの合計は、600個のVUDとなります。</p> <p>注:</p> <ul style="list-style-type: none">■ Performance Center ライセンスとホスト・ライセンスは、Performance Center サーバのインストール後に直接設定されます。ライセンスの設定は、PC ライセンス・モジュール・ウィンドウで行います。詳細については、「PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ」(144ページ)を参照してください。■ 次のものを除き、HP 開発のプロトコル上でVUDを実行できません。COM/DCOM, VB Com, VB 仮想ユーザ, VB Script 仮想ユーザ, VB.NET 仮想ユーザ, VB.NET テンプレート。■ SDK プロトコル上では、VUDを実行できません。■ UFT Professional スクリプトなどのGUI 仮想ユーザ・スクリプト上では、VUDを実行できません。■ VUD ベースのPerformance Center ライセンスを使用する場合、ホスト・ライセンスは無関係です。

ライセンス	説明
ホスト・ライセンス	<p>ホスト・ライセンスは、ホスト上のプロトコルごとの仮想ユーザ数の上限を定義します。ホスト・ライセンスの仮想ユーザ・タイプには、次の2つがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">• <バンドル・タイプ>バンドル: 各バンドルにプロトコルの集合が含まれています。プロトコル・バンドルを選択した場合、このセクションには、含まれているプロトコルのリストが表示されます。• グローバル: グローバル・ライセンスを使用すると、合計制限内に留まる限り、すべての仮想ユーザ・タイプを実行できます。「グローバル」の後に続く数は、購入した仮想ユーザの合計数を示します。 <p>注: Performance Center ライセンスとホスト・ライセンスは、Performance Center サーバのインストール後に直接設定されます。ライセンスの設定は、PC ライセンス・モジュール・ウィンドウで行います。詳細については、「PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ」(144ページ)を参照してください。</p>

PC ライセンスのユーザ・インタフェース

本項の内容

PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ	144
[ファイルからライセンスを追加]ダイアログ・ボックス	146

PC ライセンス・モジュール・ウィンドウ

このページでは、Performance Center ライセンスとVUD ベースのライセンスのサマリ、ホスト・ライセンスの情報を表示できます。

PC ライセンスのサマリ (有効なライセンス)		Host ライセンスのサマリ (有効なライセンス)	
合計仮想ユーザ数:	10000	Web&Multimedia	1000
合計同時実行数:	6	Global	130
次のライセンス有効期限:	3/1/2013		
VUD ライセンスのサマリ			
購入済み VUD の合計数:	240		
残りの VUD の合計数:	240		
プロジェクトに割り当てられていない数:	230		

すべてのライセンス								
ライセンスタイプ	期限切れモード	有効期限 (GMT)	Host	ライセンス	バンドル	数量	仮想ユーザ	同時実行
PC	Time Limited	4/1/2013 12:00:00 AM					10000	
PC	Time Limited	4/1/2013 12:00:00 AM						5
PC	Time Limited	3/1/2013 12:00:00 AM						1
PC_VUDS	Unlimited	12/1/2009 12:00:00 AM					100	
PC_VUDS	Unlimited	12/1/2009 12:00:00 AM					130	
PC_VUDS	Unlimited	12/1/2009 12:00:00 AM					10	
Host	Permanent	4/2/2013 12:00:00 AM	Web&Multimedia			1000		
Host	Time Limited	2/1/2013 12:00:00 AM	Web&Multimedia			120		
Host	Permanent	4/2/2013 12:00:00 AM	Global			130		

アクセス方法	ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]から[PC ライセンス]を選択します。
関連タスク	「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)
参照情報	「HP ALM Performance Center PC ライセンスの概要」(141ページ)

[PC ライセンスのサマリ] 領域

すべての Performance Center ライセンスのサマリ情報が表示されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
合計仮想ユーザ数	すべてのライセンスの仮想ユーザの合計数。
合計同時実行数	同時に実行できる仮想ユーザの合計数。
ライセンスの有効期限	ライセンスの有効期限が切れる日を示します。

VUD ライセンスのサマリ領域

VUD ベースのすべてのライセンスのサマリ情報が表示されます。

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。






UI 要素	説明
購入済み VUD の合計数	購入した VUD の合計数。
残りの VUD の合計数	残っている VUD の合計数。
プロジェクトに割り当てられていない数	割り当てられていない VUD の合計数。

ホスト・ライセンスのサマリ領域

すべてのホスト・ライセンスについて、プロトコル・バンドルと容量の情報を表示します。

すべてのライセンス領域

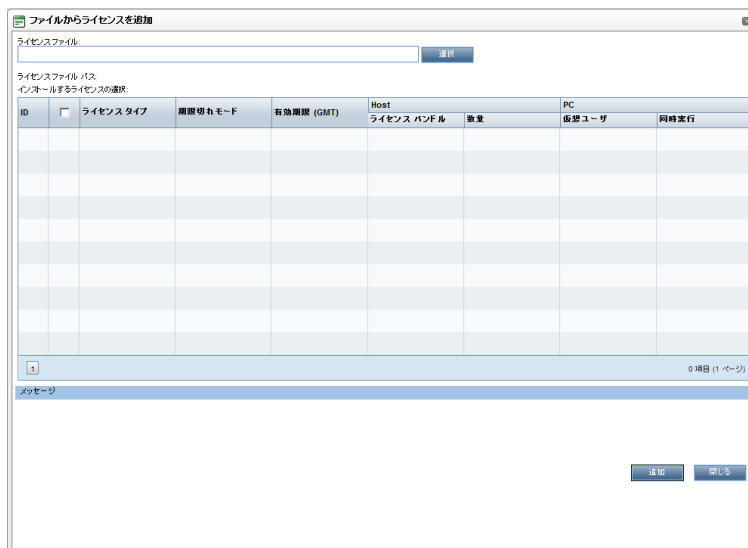
次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
 ライセンスキーの追加	<p>一度に1つのライセンス・キーをインストールできます。</p> <p>クリックして[新規ライセンスの追加]ダイアログ・ボックスを開き、新規ライセンス・キーを入力します。</p> <p>注: 必要なアクセス許可を持っている場合にのみ、ライセンスを追加できます。</p>
 ファイルからライセンスを追加	<p>[ファイルからライセンスを追加]ダイアログ・ボックスを開くと、複数のライセンス・キーを同時にインストールできます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ファイルからライセンスを追加]ダイアログ・ボックス」(146ページ)を参照してください。</p>
 期限切れを表示  期限切れを非表示	<p>すべてのライセンスを表示、または期限切れのライセンスを非表示にします。</p>
 ライセンスの詳細	<p>クリックすると、[ライセンスの詳細]ダイアログ・ボックスが開き、次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 割り当て日: ライセンスがシステムに追加された日付。 • ライセンス・キー: ライセンス・キー。 • タイプ: ライセンスのタイプ。 <p>詳細を Excel ファイルにエクスポートするには、[Excel にエクスポート]をクリックします。</p> <p>注: 必要なアクセス許可を持っている場合にのみ、ライセンスの詳細を表示できます。</p>
ライセンス・タイプ	<p>選択したライセンス・キーに利用できるライセンスのタイプ。値は次のとおりです。PC、PC_VUDS、Host。詳細については、「HP ALM Performance Center PC ライセンスの概要」(141ページ)を参照してください。</p>
期限切れモード	<ul style="list-style-type: none"> • 永続 • 時間制限: ライセンスは有効期限で制限されます。 • 一時: 製品のインストール後、定義済み日数の間供与される時間制限ライセンス。

UI 要素	説明
有効期限 (GMT)	ライセンスの有効期限が切れる日時。
ホスト	<ul style="list-style-type: none"> • ライセンス・バンドル: ライセンスが適用される仮想ユーザ・プロトコル・バンドルの名前を示します。ライセンスを使用すると、Controller でプロトコル・バンドルに含まれているすべてのプロトコルの仮想ユーザを実行できます。 • 容量: LoadRunner Controller から同時に実行できる仮想ユーザの最大数を示します。
PC	<ul style="list-style-type: none"> • 仮想ユーザ: 仮想ユーザ数。 • 同時実行: 同時に実行できるテスト実行の最大数。

[ファイルからライセンスを追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、複数の Performance Center ライセンス・キーを同時にインストールできます。



アクセス方法	ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]から[PC ライセンス]を選択します。 + ファイルからライセンスを追加 をクリックします。
重要	必要なアクセス許可を持っている場合にのみ、ライセンスを追加できます。
関連タスク	「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)
参照情報	「HP ALM Performance Center PC ライセンスの概要」(141ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
ライセンス・ファイル	[選択]をクリックしてライセンス・ファイルを選択します。
インストールするライセンスの選択	インストールするライセンスのチェック・ボックスを選択します。
ID	連続するID 番号を示します。
ライセンス・タイプ	選択したライセンス・キーに利用できるライセンスのタイプ。値は次のとおりです。PC、PC_VUDS、Host。詳細については、「 HP ALM Performance Center PC ライセンスの概要 」(141ページ)を参照してください。
期限切れモード	<ul style="list-style-type: none">• 永続• 時間制限:ライセンスは有効期限で制限されます。• 一時:製品のインストール後、定義済み日数の間供与される時間制限ライセンス。
有効期限	ライセンスの有効期限が切れる GMT 日時を示します。
ホスト	<ul style="list-style-type: none">• ライセンス・バンドル:ライセンスが適用される仮想ユーザ・プロトコル・バンドルの名前を示します。ライセンスを使用すると、Controller でプロトコル・バンドルに含まれているすべてのプロトコルの仮想ユーザを実行できます。• 容量:LoadRunner Controller から同時に実行できる仮想ユーザの最大数を示します。
PC	<ul style="list-style-type: none">• 仮想ユーザ:仮想ユーザ数。• 同時実行:同時に実行できるテスト実行の最大数。
追加	選択したライセンスをインストールします。

第10章: 診断管理

本章の内容

J2EE/.NET 診断の概要	149
ERP/CRM 診断の概要	150
ERP/CRM メディエータの追加方法	152
HP Diagnostics サーバの追加方法	153
Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法	153
Oracle 11i 診断を事前に設定する方法	156
SAP 診断を事前に設定する方法	158
Siebel サーバでログを有効, 無効にする方法	158
Oracle サーバのログを有効にする方法	159
Oracle サーバの診断パスワードを設定, 無効にする方法	160
診断のユーザ・インタフェース	161

J2EE/.NET 診断の概要

HP Diagnostics と HP Application Lifecycle Management (ALM) との統合によって、Java 2 Enterprise Edition (J2EE), .NET 接続, SAP, Oracle, その他の複雑な環境のパフォーマンスを監視, 分析できるようになります。

パフォーマンス・テスト中に、HP Diagnostics データをドリルダウンしてテスト全体や特定のトランザクションを表示できます。テストの後に、HP LoadRunner Analysis を使用して、テスト中に収集されたオフライン診断データを分析できます。

サーバ要求の監視

J2EE/.NET 診断を使用するようにパフォーマンス・テストを設定する場合、仮想ユーザ・トランザクションのコンテキスト外で発生するサーバ要求のパーセントをキャプチャするように ALM に指示できます。

この機能を有効にする利点は、次の場合にも、バックエンドの VM への呼出しをキャプチャできることです。

- プローブが RMI 呼び出しをキャプチャしていない場合
- RMI 呼び出しをキャプチャできない場合 (おそらく、サポートされていないアプリケーション・コンテナが使用されているため)
- アプリケーションが複数の VM 間の通信に他の何らかのメカニズムを使用している場合

J2EE と .NET の診断の使用の詳細については、『HP Diagnostics User Guide』を参照してください。

ERP/CRM 診断の概要

次の項では、ERP/CRM 診断の概要について説明します。

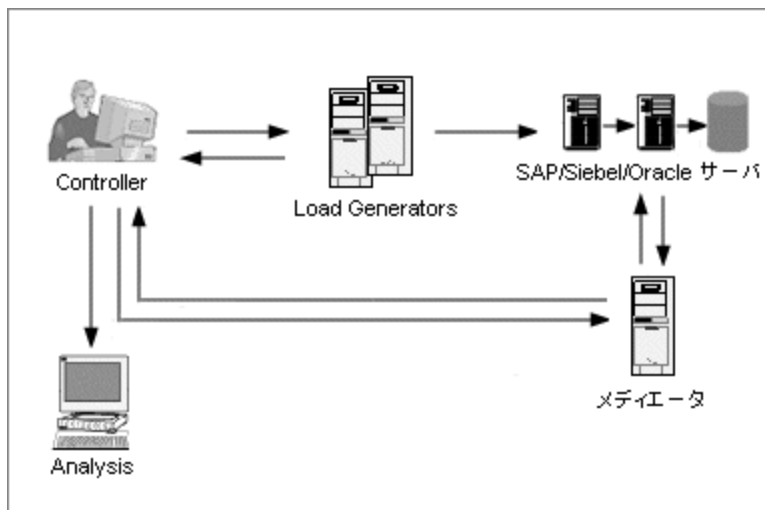
ERP/CRM 診断について

パフォーマンス・テスト中、ALM 診断モジュールは、Web、アプリケーション、データベース・サーバにわたって個々のトランザクションのトレース、時間測定、トラブルシューティングを行います。これで、低速のエンドユーザ・トランザクションからボトルネックとなったメソッドやSQL ステートメントまでドリルダウンできます。ALM Performance Center 診断モジュールを使用すると、組織では次のことが可能になります。

- エンドユーザ体験に重大な影響を与えるアプリケーション・コンポーネントの迅速な隔離。
- 開発者へのパフォーマンスの改善方法に関する正確なデータの提供。

ERP/CRM 診断モジュールのアーキテクチャ

ERP/CRM 診断のアーキテクチャは、次の図に示すように、次のコンポーネントで構成されています。



- **メディエータ:** ERP/CRM メディエータ("メディエータ")は、Web、データベース、アプリケーション・サーバからオフライン・トランザクション・データを収集し、相関します。メディエータのインストールの詳細については、『HP ALM Performance Center インストール・ガイド』を参照してください。
- **Controller:** テスト実行の前に、Controller はすべてのサーバ情報をメディエータに転送し、監視に参加するユーザのパーセントを分配します。テストの実行後に、Controller は、集計されたトランザクション・データ・ファイルをメディエータから収集し、結果を照合します。結果は、Siebel 診断、SAP 診断、Oracle DB 結果ディレクトリに転送されます。

情報の照合を負荷テストの直後に行わない場合は、後で照合を実行できます。

ファイルは、その後、診断のタイプごとに次の結果ディレクトリに転送されます。

- Siebel の結果は、`\sbl_bd` ディレクトリに転送されます。
- Oracle 11i の結果は、`\ora_bd` ディレクトリに転送されます。
- SAP の結果は、`\sap_bd` ディレクトリに転送されます。
- **Load Generator:** 負荷テストを実行すると、Controller によって各仮想ユーザが Load Generator

に分配され、Load Generatorによって仮想ユーザ・スクリプトが実行されます。

- **Analysis:** 詳細な診断グラフと診断レポートを表示します。診断グラフの詳細については、『HP LoadRunner Analysis ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

メディエータのリモート・サーバへの接続

ERP/CRM 診断モジュールを設定する場合、監視するサーバを定義するには、トレース/ログ・ファイルを格納するサーバのユーザ名を入力します。本項では、サーバがリモート Windows サーバまたは UNIX サーバである場合に、メディエータがサーバに接続する方法について説明します。

- リモート Windows サーバを監視する場合、メディエータは、診断設定プロセス中に[<診断タイプ> サーバの設定]ダイアログ・ボックスに入力した設定詳細を使用してサーバへの接続を試みます。この設定では、リモート・マシンに対する管理者権限を付与する必要があります。
- リモート UNIX サーバを監視する場合、メディエータではリモート・シェル接続タイプをサポートしています。リモート・シェル接続の詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストールおよびアップグレード・ガイド』のUNIX Load Generator のインストールの確認に関する項を参照してください。

Siebel 診断と Siebel DB 診断の概要

Siebel 診断は、次の2つのモジュールに分かれています。

- **Siebel 診断モジュール:** Siebel トランザクションをレイヤ、領域、サブ領域、サーバ、スクリプトにブレークダウンできます。また、トランザクションの呼び出しチェーンと呼び出しスタックの統計を表示して、トランザクションの各部分で費やされる時間のパーセントを追跡することもできます。Siebel-Web 仮想ユーザでは Siebel 診断がサポートされています。
- **Siebel DB 診断モジュール:** データベースのパフォーマンスの問題を迅速に特定し解決できます。各トランザクションの SQL が表示されるほか、各スクリプトで問題が生じている SQL クエリと、問題がどの時点で発生したかを特定できます。Siebel-Web 仮想ユーザでは Siebel DB 診断がサポートされています。

注: Siebel 診断 (Siebel Application Response Measurements) では、Siebel アプリケーション・サーバのバージョン 7.53 と 7.7 がサポートされています。

Siebel/Siebel DB 診断モジュールを事前に設定する方法の詳細については、「[Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法](#)」(153ページ)を参照してください。

Oracle 11i 診断の概要

Oracle 11i 診断では、Oracle NCA システム上のパフォーマンスの問題を特定できます。診断情報は、トランザクションから SQL ステートメントおよび各ステートメントの SQL ステージまでドリルダウンできます。Oracle NCA 仮想ユーザでは Oracle 11i 診断がサポートされています。

Oracle 11i 診断モジュールを事前に設定する方法の詳細については、「[Oracle 11i 診断を事前に設定する方法](#)」(156ページ)を参照してください。

SAP 診断の概要

SAP 診断では、特定の問題(たとえば DBA、ネットワーク、WAS、アプリケーション、OS/HW)の根本原因をすばやく簡単に特定できます。また問題を該当する専門家に限定して通知し、チームのメンバー全員に示す必要はありません。

次の表に、SAP アプリケーション・サーバおよび SAPGUI クライアントのサポートされているバージョンおよび必要なカーネル・パッチを示します。

	サポートされているバージョン	必要なカーネル・パッチ
SAP アプリケーション・サーバ	4.6C, 4.6D	カーネル・パッチ 1984(リリース日 11/01/05, SAP ノート 0451251)
	4.7 以上	パッチは不要
SAPGUI クライアント	SAPGUI for Windows 6.20	最小パッチ・レベル: 48
	SAPGUI for Windows 6.40	最小パッチ・レベル: 2

SAP 診断モジュールの設定方法の詳細については、「SAP 診断を事前に設定する方法」(158ページ)を参照してください。

サーバ側のデータ収集: SAP 診断は SAP Distributed Statistical Records(DSR)に基づいています。アプリケーション・サーバで実行されるダイアログ・ステップごとに統計レコードが生成されます。レコードには、応答時間コンポーネント、データベースの統計情報、RFC 時間などの情報が含まれます。Diagnostics メディエータは、パフォーマンス・テスト中にサーバからの診断データの収集を担当します。

仮想ユーザの色分け: SAP 診断では、SAPGUI プロトコルを再生できます。[設定]ダイアログで色分けされる仮想ユーザのパーセントを設定します(最大 100%)。SAPGUI ユーザの色分けによるアプリケーション・サーバのオーバーヘッドは発生しません。

ERP/CRM メディエータの追加方法


このタスクでは、J2EE/.NET 診断とERP/CRM 診断を使用するために、Diagnostic サーバと Diagnostic メディエータを追加する方法について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)を参照してください。

1. 前提条件

メディエータが監視対象サーバと同じ LAN にインストールされていることを確認します。ERP/CRM メディエータのインストールの詳細については、『HP ALM Performance Center インストール・ガイド』を参照してください。

2. メディエータの追加と設定

- ラボ管理サイドバーの[ラボ設定]で、[診断]を選択します。
- [ERP/CRM 診断]タブを選択します。
- [新規 Diagnostics Mediator]ボタン  をクリックし、必要な情報を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「診断モジュールのフィールド」(163ページ)を参照してください。

HP Diagnostics サーバの追加方法

このタスクでは、HP Diagnostics サーバを追加して J2EE/.NET 環境を監視、分析できるようにする方法について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)を参照してください。

1. ラボ管理 サイドバーの[ラボ設定]で、[診断]を選択します。
2. [J2EE/.NET 診断]タブを選択します。
3. [新規 Diagnostics サーバ]ボタンをクリックし、必要な情報を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「診断モジュールのフィールド」(163ページ)を参照してください。
4. [ラボ設定]で、[プロジェクト設定]を選択します。該当するプロジェクトを右クリックし、[プロジェクト設定の詳細]を選択します。[Diagnostics サーバ]フィールドで該当するサーバ情報を追加します。

注: 診断データをオンラインで利用できるようにするには、Diagnostics サーバの時刻がプローブと同期されていることを確認してください。

Siebel/Siebel DB 診断を事前に設定する方法

このタスクでは、パフォーマンス・テスト担当者が Siebel 診断を有効にし、実行できるようになる、ALM 管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(153ページ)
- 「リモート・シェル(RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続している場合」(153ページ)
- 「診断を有効にするサーバ・マシンの設定」(154ページ)
- 「Siebel アプリケーション・サーバからメディエータへのファイルのコピー」(155ページ)
- 「時間の同期」(156ページ)
- 「(Siebel DB) Siebel サーバでのログの有効化」(156ページ)

1. 前提条件

ERP/CRM メディエータがインストールされ、設定されていることを確認します。詳細については、「ERP/CRM メディエータの追加方法」(152ページ)を参照してください。

2. リモート・シェル(RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続している場合

- RSH と RCP デーモンが UNIX サーバ上で実行されていることを確認します。

- UNIX ユーザにリモート・シェル・コマンドを実行する権限があることを確認します。これをチェックするには、DOS コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
rsh <サーバ・マシン名> -l <UNIX ユーザのログイン名> -n <コマンド>
```

例:

```
rsh my_unix -l my_name -n "cd ~;pwd"
```

注: DOS コマンド・プロンプト・ウィンドウから動作する RSH コマンドのみ使用できます。

- RSH コマンドの実行後に出力が生成されないことを確認します。

注: `.login`, `.profile`, `.cshrc` の各ファイルから出力を生成しないでください(たとえば, `echo` による出力や, `biff` などによる間接的な出力も不可です)。既存のユーザの RSH ステップが出力を生成する場合, そのステップを削除できないのであれば, 出力が生成されない新しいユーザを作成し, そのユーザにサーバ・マシンで RSH コマンドおよび RCP コマンドを実行する権限を与えます。

3. 診断を有効にするサーバ・マシンの設定

診断データを収集するように Siebel アプリケーション・サーバと Web サーバを設定するには, 次の手順を実行します。

- a. テストの対象となるすべての Siebel アプリケーション・サーバおよび Web サーバで, Siebel 診断を有効にします。

Siebel サーバの環境変数を次のように設定します。

```
SIEBEL_SarmEnabled=true
```

次に, サーバを再起動します。

- b. サーバのパフォーマンス設定を最適化します。

次の変数を使用して, メモリ・キャッシュやファイル・サイズの最大値を変更できます。

```
SIEBEL_SarmMaxMemory= <バイト数> SIEBEL_SarmMaxFileSize = <バイト数>
```

SIEBEL_SarmMaxMemory の値は, 情報を Siebel ログ・ファイルに書き込む前に Siebel がメモリ内に保持するバッファのサイズを制御します。このパラメータ値を増やすことで, サーバのパフォーマンスを向上できます。ただし, 実行の最後に得られる情報は, Analysis グラフには表示されません。

次の設定をお勧めします。

- **SIEBEL_SarmMaxMemory**

値	仮想ユーザ数
5000	20 未満(低い負荷の場合)
1000000	100 超(高い負荷の場合)

- **SIEBEL_SarmMaxFileSize**

値	仮想ユーザ数
5000000	20 未満(低い負荷の場合)
25000000	100 超(高い負荷の場合)

サーバで Siebel ログ・ファイルが生成される頻度が 10 秒ごとに 2 つ以上の場合、 **Siebel_SarmMaxFileSize** の値を増やす必要があります。

c. Siebel サーバ ID のリストを生成します。

Siebel サーバでコマンド・ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

```
<Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /u <ユーザ名> /p <パスワード> /g <ゲートウェイ・サーバ> /e <Enterprise サーバ> /c "list servers show SBLSRVR_NAME, SV_SRVRID"
```

ここで:

- /u <ユーザ名>** :サーバ管理者のユーザ名
- /p <パスワード>** :サーバ管理者のパスワード
- /g <ゲートウェイ・サーバ>** :ゲートウェイ・サーバのアドレス
- /e <Enterprise サーバ>** :Enterprise サーバ名
- /c <コマンド>** :単一のコマンドを実行

このコマンドにより、すべての Siebel アプリケーション・サーバおよび ID のリストが生成されます。この情報は[Siebel サーバ設定]ダイアログ・ボックスで必要となるため、サーバ ID を記録しておいてください。

4. Siebel アプリケーション・サーバからメディアータへのファイルのコピー

アプリケーション・サーバを設定したら、次に示すファイルを Siebel アプリケーション・サーバの \bin ディレクトリから、<メディアータのルート>\bin ディレクトリ、<Windows>\System32 ディレクトリ、またはメディアータ・マシンの PATH に含まれる他の任意のディレクトリにコピーします。

Siebel 7.53 の場合、次のファイルをコピーします。

<ul style="list-style-type: none"> ■ samalyzer.exe ■ sslcver.dll ■ sslcsym.dll 	<ul style="list-style-type: none"> ■ sslcshar.dll ■ sslcosa.dll
---	---

Siebel 7.7 の場合、次のファイルをコピーします。

■ sarmanalyzer.exe	■ sslcosa.dll
■ libarm.dll	■ sslcosd.dll
■ msvc70.dll	■ sslcrsa.dll
■ msucr70.dll	■ sslcscr.dll
■ sslcacln.dll	■ sslcshar.dll
■ sslccore.dll	■ sslcsrd.dll
■ sslcevt.dll	■ sslcsym.dll
■ sslcos.dll	■ sslcver.dll

5. 時間の同期

- **Windows Siebel サーバの場合**: Siebel システム内のすべてのマシンの時間が同期されていることを確認します。これによって、SQL とトランザクションの相関が正しいことが確認されます。

Load Generator から次のコマンドを実行して、Siebel Gateway と Load Generator の時間を同期します。

```
net time \ <Gateway 名> /set /y
```

<Gateway 名> は、Siebel Gateway の名前です。

- **Unix Siebel サーバの場合**: Siebel システム内のすべてのマシンの時間が同期されていることを確認します。これによって、SQL とトランザクションの相関が正しいことが確認されます。

UNIX システムでは、次のいずれかの方法で時間を同期させることができます。

- UNIX Siebel Gateway サーバで **date** コマンドを使用して時間を手動で変更して、Load Generator の時間と同期するようにします。
- Load Generator で時間を変更して、UNIX Siebel Gateway サーバと同期するようにします。
- Analysis で時間差を設定します。詳細については、『HP LoadRunner Analysis ユーザーズ・ガイド』の Siebel DB 診断グラフに関する章を参照してください。

6. (Siebel DB) Siebel サーバでのログの有効化

タスクの詳細については、「Siebel サーバでログを有効、無効にする方法」(158ページ)を参照してください。

Oracle 11i 診断を事前に設定する方法

このタスクでは、パフォーマンス・テスト担当者が Oracle 11i Diagnostics を有効にし、実行できるようになる、ALM 管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(157ページ)
- 「リモート・シェル(RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続する前の考慮事項」(157ページ)
- 「Oracle サーバでのログの有効化」(157ページ)
- 「Oracle サーバの診断パスワードの設定または無効化 - オプション」(157ページ)

1. 前提条件

ERP/CRM メディエータがインストールされ、設定されていることを確認します。詳細については、「ERP/CRM メディエータの追加方法」(152ページ)を参照してください。

2. リモート・シェル(RSH/RCP) 接続を使用して UNIX サーバに接続する前の考慮事項

- RSH と RCP デーモンが UNIX サーバ上で実行されていることを確認します。
- UNIX ユーザにリモート・シェル・コマンドを実行する権限があることを確認します。これをチェックするには、DOS コマンド・プロンプトで次のように入力します。

```
rsh <サーバ・マシン名> -l <UNIX ユーザのログイン名> -n <コマンド>
```

例:

```
rsh my_unix -l my_name -n "cd ~;pwd"
```

注: DOS コマンド・プロンプト・ウィンドウから動作する RSH コマンドのみ使用できます。

- RSH コマンドの実行後に出力が生成されないことを確認します。

注: `.login`, `.profile`, `.cshrc` の各ファイルから出力を生成しないでください(たとえば、`echo` による出力や、`biff` などによる間接的な出力も不可です)。既存のユーザの RSH ステップが出力を生成する場合、そのステップを削除できないのであれば、出力が生成されない新しいユーザを作成し、そのユーザにサーバ・マシンで RSH コマンドおよび RCP コマンドを実行する権限を与えます。

3. Oracle サーバでのログの有効化

タスクの詳細については、「Oracle サーバのログを有効にする方法」(159ページ)を参照してください。

4. Oracle サーバの診断パスワードの設定または無効化 - オプション

ALM が Oracle サーバの診断パスワードを扱えるようにするには、仮想ユーザ・スクリプトでパスワードを設定するか、サーバ自体でパスワード要求を無効にできます。タスクの詳細については、「Oracle サーバの診断パスワードを設定、無効にする方法」(160ページ)を参照してください。

SAP 診断を事前に設定する方法

このタスクでは、パフォーマンス・テスト担当者がSAP 診断を有効にし、実行できるようになる。ALM 管理者によって実行される事前設定の手順について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(21ページ)を参照してください。

ERP/CRM メディエータのインストール

ERP/CRM メディエータがインストールされ、設定されていることを確認します。詳細については、「[ERP/CRM メディエータの追加方法](#)」(152ページ)を参照してください。

注: SAP 診断を使用する場合、SAPGUI クライアントがERP/CRM メディエータと同じマシンにインストールされていることを確認します。

Siebel サーバでログを有効、無効にする方法

このタスクでは、Siebel サーバでログを有効、無効にする方法について説明します。

注:

- このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「[ラボ管理の管理の使用方法](#)」(21ページ)を参照してください。
- Siebel サーバでログを有効にすると、サーバのパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。ログを無効にして、パフォーマンス・テストの完了後にログの標準設定を復元することをお勧めします。

Siebel サーバのログを有効にするには

次の手順を実行します。

- コマンド・ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。
`<Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /g <ゲートウェイ・サーバ> /s <Siebel サーバ> /e <Enterprise サーバ名> /u <ユーザ名> /p <パスワード>`

ここで:

`/u <ユーザ名>` :サーバ管理者のユーザ名

`/p <パスワード>` :サーバ管理者のパスワード

`/g <ゲートウェイ・サーバ>` :ゲートウェイ・サーバのアドレス

`/e <Enterprise サーバ>` :Enterprise サーバ名

`/s <Siebel サーバ>` :Siebel サーバ(標準設定のサーバ)

- 次のコマンドを入力します。

```
change evtloglvl ObjMgrsqllog=4 for comp <コンポーネント名>
```

```
evtloglvl EventContext=3 for comp <コンポーネント名>
```

```
evtloglvl ObjMgrSessionInfo =3 for comp <コンポーネント名>
```

例:

Call Center コンポーネントの場合、コンポーネント名として `sccobjmgr_enu` を入力します。

```
change evtloglvl ObjMgrsqllog=4 for comp sccobjmgr_enu
```

Siebel サーバのログを無効にするには

次の手順を実行します。

1. コマンド・ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

```
<Siebel bin ディレクトリ> \srvrmgr /g <ゲートウェイ・サーバ> /s <Siebel サーバ>  
/e <Enterprise サーバ名> /u <ユーザ名> /p <パスワード>
```

ここで:

/u <ユーザ名> : サーバ管理者のユーザ名

/p <パスワード> : サーバ管理者のパスワード

/g <ゲートウェイ・サーバ> : ゲートウェイ・サーバのアドレス

/e <Enterprise サーバ> : Enterprise サーバ名

/s <Siebel サーバ> : Siebel サーバ名 (標準設定のサーバ)

2. 次のコマンドを入力します。

```
change evtloglvl ObjMgrsqllog=0 for comp <コンポーネント名>
```

```
change evtloglvl EventContext=0 for comp <コンポーネント名>
```

```
change evtloglvl ObjMgrSessionInfo =0 for comp <コンポーネント名>
```

Oracle サーバのログを有効にする方法

このタスクでは、Oracle サーバでログを有効にする方法について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用
方法」(21ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「トレース診断が有効であることの確認」(159ページ)
- 「トレース・ファイルのサイズの無制限への設定」(160ページ)

1. **トレース診断が有効であることの確認**

次の手順を実行します。

- a. 管理者権限を持つユーザとして Oracle アプリケーション・サーバにログオンし, Oracle アプリケーションに使用するモジュールを選択します。[Responsibilities]ダイアログ・ボックスが開きます。
- b. [System Administrator]を選択し, [OK]をクリックします。
- c. [Functions]タブで, [Profile] > [System]を選択し, [Open]をクリックします。[System Profile Values]ダイアログ・ボックスが開きます。
- d. [Display]セクションで[Site]および[Profiles with No Values]を選択し, [Profiles]フィールドに %Diagnostics% と入力して, [Find]をクリックします。
- e. 診断プロファイルが無効になっている場合は([Site]カラムに「Yes」と表示される), 設定を「No」に変更します。
- f. 設定を保存します。

2. トレース・ファイルのサイズの無制限への設定

Oracle 9i の場合:

Oracle サーバで, SQL エディタを使用して次のコマンドを実行します。

```
Alter system set max_dump_file_size=UNLIMITED scope=both;
```

Oracle 8i の場合:

- a. Oracle サーバで, SQL エディタを使用して次のコマンドを実行します。

```
Alter system set max_dump_file_size=2048000;
```

- b. \$ORACLE_HOME\admin\ <sid> \pfile\init <sid> .ora の init*.ora ファイルを編集します。パラメータの行を検索して値を変更し, ファイルを保存します。

注: トレース・ファイルは非常に大きくなる可能性があるため, データベース・サーバ上に十分なディスク領域があることを確認してください。

Oracle サーバの診断パスワードを設定, 無効にする方法

ALM が Oracle サーバの診断パスワードを扱えるようにするには, 仮想ユーザ・スクリプトでパスワードを設定するか, サーバ自体でパスワード要求を無効にできます。

注: このタスクは, 上位レベルのタスクの一環です。詳細については, 「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)を参照してください。

- 「仮想ユーザ・スクリプトでの診断パスワードの設定」(160ページ)
- 「Oracle サーバでの診断パスワード要求の無効化」(161ページ)

仮想ユーザ・スクリプトでの診断パスワードの設定

VuGen で, スクリプトに `nca_set_diagnostics_password(<パスワード>)` 関数を追加し, パスワードを選択します。

注: `nca_set_diagnostics_password` 関数は, `nca_connect_server` 関数よりも後の位置に追加する必要があります。

Oracle サーバでの診断パスワード要求の無効化

次の手順を実行します。

1. 管理者権限を持つユーザとして Oracle サーバにログオンし, Oracle アプリケーションに使用するモジュールを選択します。[Responsibilities]ダイアログ・ボックスが開きます。
2. [System Administrator]を選択し, [OK]をクリックします。
3. [Functions]タブで, [Profile] > [System]を選択し, [Open]をクリックします。[System Profile Values]ダイアログ・ボックスが開きます。
4. [Display]セクションで[User]を選択し, 必要なユーザ名を入力します。[Profile]フィールドに %Utilities:Diagnosics% と入力し, [Find]をクリックします。Utilities:Diagnosics プロファイルの値が表示されます。
5. Utilities:Diagnosics プロファイルの[User]カラムの値を「Yes」に設定します。
6. 設定を保存します。

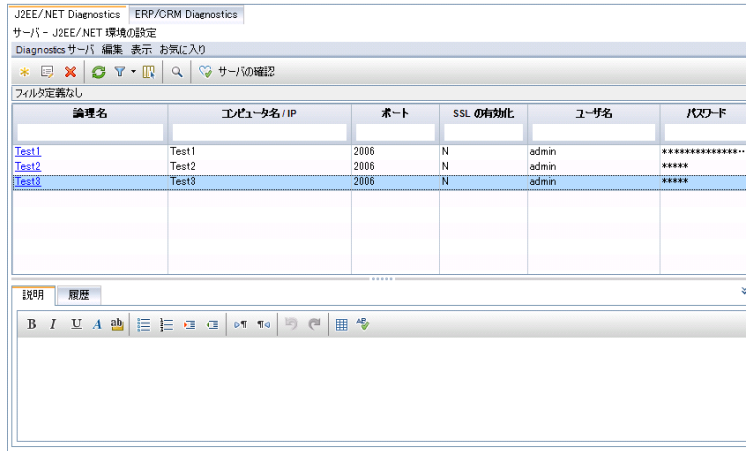
診断のユーザ・インタフェース

本項の内容

診断モジュール・ウィンドウ	162
診断モジュールのフィールド	163
診断モジュールのメニューとボタン	164

診断モジュール・ウィンドウ

診断モジュールのウィンドウを使用すると、ERP/CRM メディエータと J2EE/.NET サーバを追加、管理できます。



アクセス方法	ラボ管理 サイドバーで、 Performance Center の下での [Diagnostics] を選択します。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> 「ERP/CRM メディエータの追加方法」(152ページ) 「HP Diagnostics サーバの追加方法」(153ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<ALM の共通領域>	ALM の共通領域の詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<診断モジュールのフィールド>	診断モジュールで利用できるフィールドの詳細については、「診断モジュールのフィールド」(163ページ)を参照してください。
<診断モジュールのメニューとボタン>	診断モジュールで利用できるアイコンの詳細については、「診断モジュールのメニューとボタン」(164ページ)を参照してください。
[ERP/CRM 診断] タブ	ERP/CRM 診断メディエータを追加、管理できます。
[J2EE/.NET 診断] タブ	J2EE/.NET 診断サーバを追加、管理できます。
[履歴] タブ	<p>変更日時、変更者の名前を含め、選択したサーバメディエータに加えられた変更の履歴が表示されます。</p> <p>詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>







診断モジュールのフィールド





本項では、診断モジュールのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
説明	メディエータ/サーバの説明。
SSLの有効化	ALMがSSL経由でDiagnosticsと通信している場合、[有効化]を選択します。
論理名	メディエータ/サーバに与えられている論理名。
コンピュータ名/IP	メディエータ/サーバの名前またはIPアドレス。
ファイアウォール越し	ファイアウォール越しの監視が有効かどうかを指定します。有効にする場合は、[Y]を選択し、無効にする場合は、[N]を選択します。 注: ERP/CRM診断でのみ利用可能です。
パスワード	HP Diagnosticsへのログオンに使用するパスワードを入力します。 標準設定値: Admin 注: J2EE/.NET診断でのみ利用可能です。
ポート	Diagnosticsサーバが使用するポート番号を入力します。 標準設定値: 2006 注: J2EE/.NET診断でのみ利用可能です。
タイプ	ERP/CRMメディエータのタイプ。 注: ERP/CRM診断でのみ利用可能です。
ユーザ名	HP Diagnosticsにログインするユーザ名を入力します。 注: 指定するユーザ名には、[表示]、[変更]、[実行]の各権限がある必要があります。ユーザ権限の詳細については、『HP Diagnostics インストールおよび設定ガイド』を参照してください。

診断モジュールのメニューとボタン

本項では、診断モジュールのメニューとボタンについて説明します。

UI 要素	メニュー	説明
	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッド内の選択したサーバメディエータを削除します。
サーバメディエータの確認 	[Diagnosticsサーバメディエータ]と<右クリック・メニュー>	クリックして、サーバメディエータが起動され、実行中であるかどうかをチェックします。
URLのコピー 	Diagnosticsサーバメディエータ	選択したサーバメディエータをコピーして、そのURLをリンクとして貼り付けます。サーバメディエータ自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックするとALMが開き、サーバメディエータに移動します。ログインしていない場合、ALMによって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
Diagnosticsサーバメディエータ詳細 	[Diagnosticsサーバメディエータ]と<右クリック・メニュー>	クリックすると、サーバメディエータの詳細が表示されます。
エクスポート	[Diagnosticsサーバメディエータ]と<右クリック・メニュー>	<p>[グリッドデータのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのサーバメディエータをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Wordドキュメント、HTMLドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • すべて: グリッドのすべてのサーバメディエータをエクスポートします。 • 選択項目: グリッド内で選択したサーバメディエータをエクスポートします。
検索 	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでフィールドの詳細を検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
Diagnosticsサーバメディエータに移動 	Diagnosticsサーバメディエータ	サーバメディエータIDの入力を要求するダイアログ・ボックスが開きます。[OK]をクリックすると、サーバメディエータの詳細ウィンドウが開きます。

UI 要素	メニュー	説明
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
新規 Diagnostics サーバメディア 	Diagnostics サーバメディア	クリックして、新しい ERP/CRM メディエータまたは J2EE/.NET サーバを追加します。関連するフィールドの詳細については、「診断モジュールのフィールド」(163ページ)を参照してください。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッドに[置換]ダイアログ・ボックスを開き、グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 診断のフィールドの詳細については、「診断モジュールのフィールド」(163ページ)を参照してください。
フィルタソートの設定 	表示	グリッド内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	[編集]と<右クリック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第11章: パッチ管理

本章の内容

パッチの概要	167
パッチの ALM へのアップロード方法	167
パッチ管理のユーザ・インタフェース	167

パッチの概要


パッチ・モジュールでは、Performance Center パッチを ラボ管理 にアップロードし、該当するホストまたはサーバにインストールできます。

パッチの ALM へのアップロード方法

このタスクでは、パッチを ALM にアップロードする方法について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)を参照してください。

パッチをアップロードするには、次の手順を実行します。

1. ラボ管理 サイドバーで、**Performance Center**の下 の[**パッチ**]を選択します。
2. [**新規パッチ**]ボタン  をクリックします。[**パッチの選択**]ダイアログ・ボックスが開き、アップロードするパッチ(.msp/.msi)を選択できます。
3. [**開く**]をクリックします。[**新規パッチ**]ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 新しいパッチの詳細を入力し、[**OK**]をクリックします。パッチがシステムに追加され、パッチ・グリッドに表示されます。

パッチ管理のユーザ・インタフェース

本項の内容

パッチ・モジュール・ウィンドウ	168
パッチ・モジュールのフィールド	169
パッチ・モジュールのメニューとボタン	169
[パッチの詳細]ダイアログ・ボックス	171
[新規パッチ]ダイアログ・ボックス	172

パッチ・モジュール・ウィンドウ

このモジュールを使用すると、パッチを表示、アップロードできます。

ID	名前	パス
1001	Patch1	Patch_1.msi
1002	Patch2	Patch_2.msp

アクセス方法	ラボ管理 サイドバーで、Performance Center の下の [パッチ] を選択します。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード方法」(167ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> 「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ) 「Performance Center サーバを管理する方法」(199ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<情報パネル>	モジュールの下部領域にあります。グリッド内で選択されたパッチに関する説明を表示します。
<パッチ グリッド>	ALM Performance Center にアップロードされたパッチのリストを表示します。
<パッチ・モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> パッチ・モジュールのフィールド: フィールドの定義については、「パッチ・モジュールのフィールド」(169ページ)を参照してください。 パッチ・モジュールのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「パッチ・モジュールのメニューとボタン」(169ページ)を参照してください。 ALM メイン・メニューとサイドバー: [ツール]メニュー、[ヘルプ]メニュー、サイドバーの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

パッチ・モジュールのフィールド

本項では、パッチ・モジュールのフィールドについて説明します。



フィールド	説明
説明	選択したパッチの説明を表示します。
ID	パッチ ID。
名前	パッチ名。
パス	パッチのパス。







パッチ・モジュールのメニューとボタン

本項では、パッチ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーで、 Performance Center の下の[パッチ]を選択します。
--------	---

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

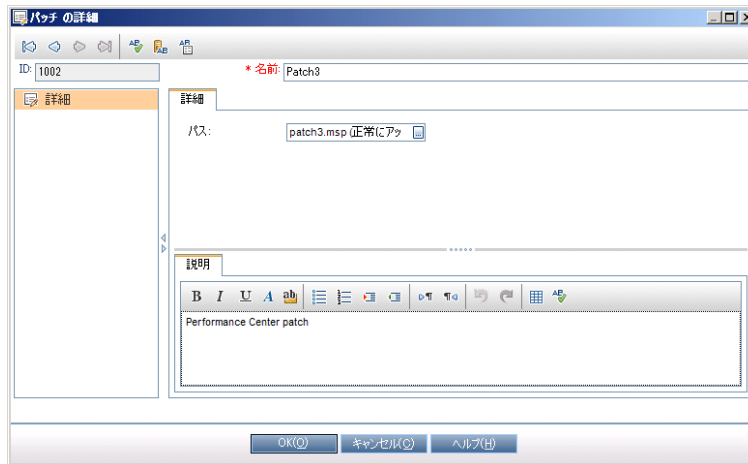
UI 要素	場所	説明
お気に入り 追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URL の コピー 	[パッチ]と< 右クリック・メ ニュー>	選択したパッチをコピーし、その URL をリンクとして貼り付けます。パッチ自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、パッチ・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
エクスポート	[パッチ]と< 右クリック・メ ニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのパッチをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none">• すべてエクスポート: グリッドのすべてのプロジェクト設定をエクスポートします。• 選択項目のエクスポート: グリッドの選択したプロジェクト設定をエクスポートします。
検索 	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでパッチを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
 パッチに移動	パッチ	[パッチに移動]ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のパッチを検索できます。現在のフィルタに含まれるパッチにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
 新規パッチ	パッチ	[パッチの選択]ダイアログ・ボックスが開き、アップロードするパッチを選択できます。
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、プロパティを変更するか、ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
 パッチの詳細	[パッチ]と<右クリック・メニュー>	[パッチの詳細]ダイアログ・ボックスが開き、選択したパッチの詳細を表示、編集できます。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りレビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りレビューのリストを表示します。
 すべて更新	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	プロジェクトの詳細のグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
 カラムの選択	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 パッチのフィールドの詳細については、「 パッチ・モジュールのフィールド 」(169ページ)を参照してください。
 フィルタソートの設定	表示	グリッド内のパッチに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
選択項目の更新	[編集]と<右クリック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

[パッチの詳細]ダイアログ・ボックス


このダイアログ・ボックスを使用すると、ラボ管理 のパッチの詳細を表示できます。



アクセス方法	ラボ管理 サイドバーで、Performance Center の下の [パッチ] を選択します。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード方法」(167ページ)
参照情報	<ul style="list-style-type: none"> 「ラボ・リソースを管理する方法」(57ページ) 「Performance Center サーバを管理する方法」(199ページ)

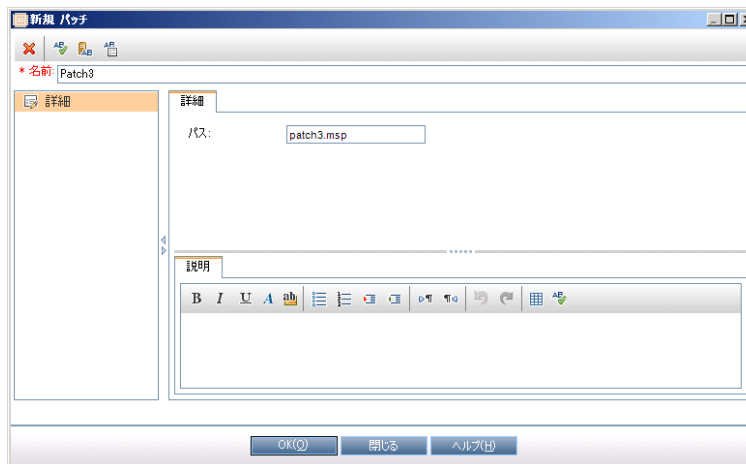
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。


UI 要素	説明
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ: プロジェクトのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。

UI 要素	説明
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
詳細	フィールドの定義については、「 パッチ・モジュールのフィールド 」(169ページ)を参照してください。




[新規パッチ]ダイアログ・ボックス


このダイアログ・ボックスを使用すると、Performance Center の新しいパッチを追加できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理 サイドバーで、Performance Center の下の [パッチ] を選択します。 [新規パッチ] ボタン  をクリックします。[パッチの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。 パッチの場所に移動し、[開く] をクリックします。
関連タスク	「パッチの ALM へのアップロード方法」 (167ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。

UI 要素	説明
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
詳細	<p>パッチのフィールドがリストされます。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「パッチ・モジュールのフィールド」(169ページ)を参照してください。</p> <p>ヒント: このページの[説明]フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
名前	<p>新しいパッチに付ける名前を入力します。</p> <p>構文の例外: サーバ名には、「\」、「/」、「:」、「"」、「?」、「<」、「>」、「 」、「*」、「%」、「'」は使用できません。</p>

第12章: AUT ホストの管理

本章の内容

AUT リソースの概要	175
Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法	175
AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース	179

AUT リソースの概要

テスト対象アプリケーション(AUT)のコンポーネント(Web サーバ/アプリケーション・サーバやデータベース・サーバなど)は、AUT ホストと呼ばれるマシンでホストされます。AUT ホストをグループ化したものが、**AUT プール**です。

AUT ホストは、トポロジと SiteScope の統合機能の核となる要素です。

Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法

このタスクでは、AUT ホストのリストを Excel ファイル(.xls または .csv) から ALM にインポートする方法について説明します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(175ページ)
- 「AUT ホストのインポート(Performance Center ユーザのみ)」(178ページ)
- 「結果」(178ページ)

1. 前提条件

Excel ファイルは、インポート機能によってそのカラムを認識、マップできるように設定する必要があります。

- Excel ファイルの最初の行には、次の表に表示されるフィールド名または対応する論理名が含まれている必要があります。(日付文字列は、大文字と小文字が区別されません。)

フィールドの中には、必須のフィールド、あるいは必要または任意指定のフィールドがあります。

- **必須**は、Excel ファイルに**必ずなければならない**フィールドを示します。このフィールドを省略すると、インポートは失敗します。このフィールドのカラムのいずれかの行で値を省略すると、その特定の行のインポートが失敗します。
- **必要**は、Excel ファイルに**ある必要がある**フィールドを示します。このフィールドを省略すると、コードによってすべての行に標準設定値が入ったフィールドが追加されます。フィールドを指定しても、このカラムのいずれかの行で値を省略すると、コードによってその行に標準設定値が追加されます。
- **任意指定**は、Excel ファイルに**ある必要がない**フィールドを示します。このフィールドを省略しても、インポート手順に影響はありません。

- 仮想, 参照, 無効なフィールドを表すフィールドは無視されます。
- 空のカラムは許可されます。

次のようにファイル内のカラムと値を設定します。

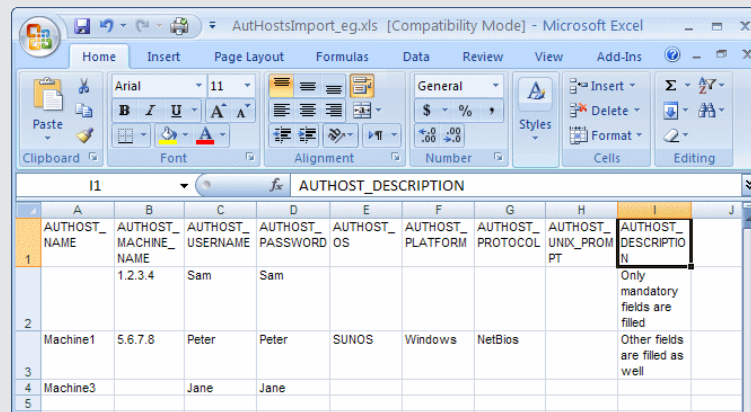
フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
AUTHOST_NAME 必要	論理名	任意の文字列	AUT ホストの論理名 注:この値が空の場合, AUTHOST_MACHINE_NAME と同じ値が設定されず
AUTHOST_MACHINE_NAME 必須	コンピュータ名/IP	マシン名/IP	AUT ホストの物理マシン名
AUTHOST_USERNAME 必須	ユーザ名	マシンのユーザ名	AUT ホスト・マシンにログオンするためのユーザ名
AUTHOST_PASSWORD 必須	パスワード	ユーザ名のパスワード	AUT ホスト・マシンにログオンするためのパスワード

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
AUTHOST_OS UNIX プラットフォームに対してのみ必要	OS タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ■ SUNOS(標準設定) ■ Sun Solaris ■ MacOSX ■ Linux ■ Red Hat Enterprise Linux ■ AIX ■ FreeBSD ■ HP-UX ■ HP/UX ■ HP/UX 64-bit ■ NonStopOS ■ OPENSERVER ■ SCO ■ SGI Irix ■ Tru64 5.x ■ Tru64 pre 4.x (Digital) 	AUT ホスト・マシンのオペレーティングシステム (UNIX プラットフォームに対してのみ)
AUTHOST_PLATFORM 必要	プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> ■ Windows(標準設定) ■ UNIX 	AUT ホスト・プラットフォーム
AUTHOST_PROTOCOL 必要	プロトコル	Windows: <ul style="list-style-type: none"> ■ NetBIOS(標準設定) ■ SSH ■ WMI UNIX: <ul style="list-style-type: none"> ■ rlogin ■ Telnet(標準設定) ■ SSH 	AUT ホスト・プロトコル

フィールド名	論理名	値	このフィールドの対象
AUTHOST_UNIX_PROMPT UNIX プラットフォームに対してのみ必要	UNIX プロンプト	#(標準設定)	AUT ホスト・マシン上のUNIX プロンプト
AUTHOST_DESCRIPTION 任意指定	説明	任意の文字列	AUT ホストの説明

例:

次の図は、2 台の AUT ホスト (1.2.3.4, 5.6.7.8) と名前が提供されていない 3 番目のマシンによる Excel ファイルの設定を示しています。



2. AUT ホストのインポート (Performance Center ユーザのみ)

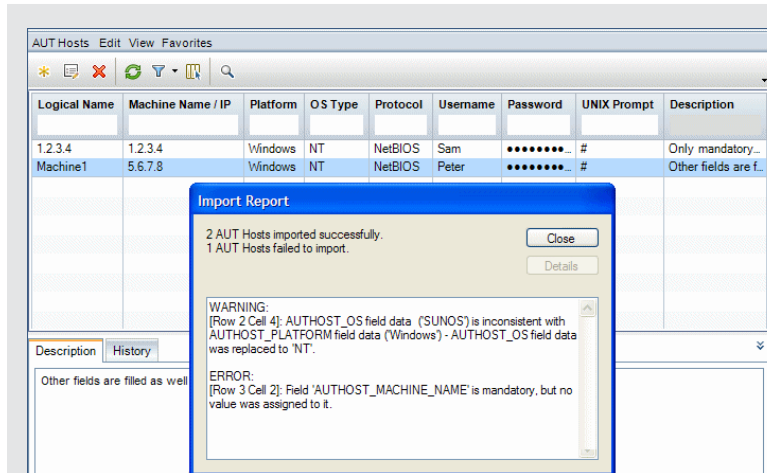
- 次のように AUT ホスト・モジュールを開きます。
 - ALMの場合**: ALM サイドバーの [Performance Center AUT] で、[AUT ホスト] を選択します。
 - ラボ管理の場合**: ラボ管理 サイドバーの [Performance Center] で、[AUT ホスト] を選択します。
- [AUT ホスト] > [インポート] を選択します。
- AUT ホストを含む Excel ファイルを参照し、[開く] をクリックします。

3. 結果

インポート・プロセスの進行状況が表示されます。プロセスの最後に、レポートにインポート結果が表示されます。インポートされた AUT ホストが AUT ホスト・モジュールにリストされます。正常にインポートされなかった AUT ホストは、手動で追加する必要があります。

例:

上記の手順 1 での Excel ファイルのインポート結果を、次の図に示します。



注:

- Excel ファイルには、マシン 1.2.3.4 の論理名が入力されていなかったため、マシン名/IP と同じ論理名が与えられています。
- マシン 1 のオペレーティング・システムは SUNOS と指定されていましたが、プラットフォームは Windows と指定されていました。SUNOS は UNIX プラットフォームにのみ関連するため、これらの値は整合性を欠いています。このため、値 SUNOS は NT で置き換えられました。
- Excel ファイルにリストされていた 3 番目のマシンには、マシン名が指定されていませんでした。このマシンはインポートされませんでした。手動で追加する必要があります。
- 必要であるが、必須ではない値は、インポート・プロセス中にシステムによって自動的に入力されています。
- 仮想、参照、無効なフィールドを表すカラムは無視されます。

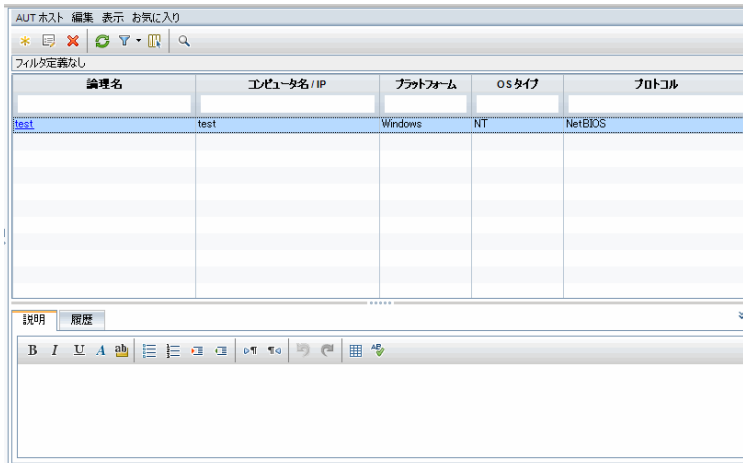
AUT リソース・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

AUT ホスト・モジュール	180
AUT ホストのフィールド	181
[新規 AUT ホスト] ダイアログ・ボックス	181
[AUT ホストの詳細] ダイアログ・ボックス	183
AUT プール・モジュール	184
[リンクされたホスト] ページ	185
[AUT ホストをプールに追加] ダイアログ・ボックス	186
AUT プールのフィールド	188
[新規 AUT ホスト プール] ダイアログ・ボックス	188
[AUT ホスト プール詳細] ダイアログ・ボックス	189

AUT ホスト・モジュール

このモジュールを使用すると、AUT ホストを表示、管理できます。



アクセス方法	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]で、[AUT ホスト]を選択します。 ALM サイドバーの[Performance Center AUT]で、[AUT ホスト]を選択します。
重要な情報	AUT ホスト・モジュールは、ラボ管理とALM の両方で利用できます。
参照情報	「AUT リソースの概要」(175ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<共通のメニューとツールバー>	AUT リソース・モジュールのメニューとツールバーの詳細については、「AUT リソース・モジュールのメニューとボタン」(190ページ)を参照してください。
<AUT ホスト・グリッド>	ALM で定義されている AUT ホストのリストを表示します。
[説明]タブ	AUT ホストに関する主な詳細と説明を表示します。 ヒント: 編集と形式のオプション用の[説明]領域を右クリックしてください。
[履歴]タブ	選択した AUT ホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

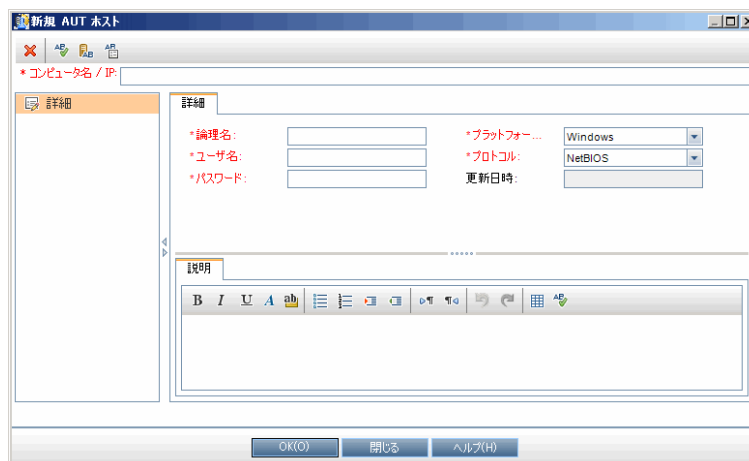
AUT ホストのフィールド



次の表に、AUT ホストのフィールドについて説明します。

フィールド	説明
所属プール	AUT ホストが所属するホスト・プール。 利用可能な場所: ラボ管理のみ
説明	AUT ホストの説明。
論理名	AUT ホストに与えられている論理名。
コンピュータ名/IP	AUT ホスト・マシンの名前または IP アドレス。
更新日時	AUT ホストの詳細情報が最後に変更された日付。
OS タイプ	AUT ホスト・マシンのオペレーティング・システム。
パスワード	AUT ホスト・マシンにログインするためのパスワード。
プラットフォーム	AUT ホスト・マシンの基本オペレーティング・システム: Window または UNIX。
プロトコル	AUT ホストとの通信(監視目的)に使用されるネットワーク・プロトコル。 標準設定値: Windows: NetBIOS, UNIX: SSH
UNIX プロンプト	オペレーティング・システムによって使用されるプロンプト。AUT ホストとの通信(監視目的)にも使用されます。 利用可能な場所: UNIX の AUT ホストのみ。
ユーザ名	AUT ホスト・マシンにログインするためのユーザ名。





[新規 AUT ホスト]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、新しいAUT ホストを作成できます。



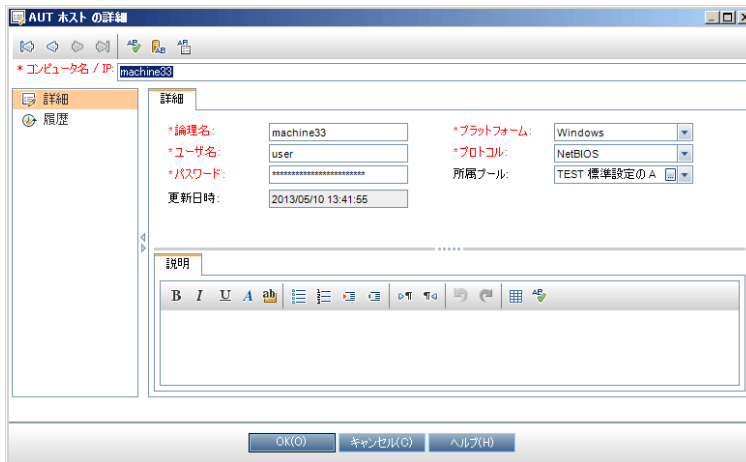
アクセス方法	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で, [AUTホスト]を選択します。[新規AUTホスト]  をクリックします。 • ALMサイドバーの[Performance Center AUT]で, [AUTホスト]を選択します。[新規AUTホスト]  をクリックします。
重要な情報	<p>ALMでAUTホストを作成すると, AUTホストが自動的にプロジェクトのAUTプールに追加されます。</p> <p>ヒント: AUTホストのリストをExcelファイルからインポートできます。詳細については, 「ExcelからAUTホスト・データをインポートする方法」(175ページ)を参照してください。</p>
参照情報	<p>「AUTリソースの概要」(175ページ)</p>

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
コンピュータ名/IP	AUTホスト・マシンの名前またはIP。
説明	新しいAUTホストの詳細情報を入力できます。詳細については, 「AUTホストのフィールド」(181ページ)を参照してください。

[AUT ホストの詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、AUT ホストの詳細を表示、変更できます。



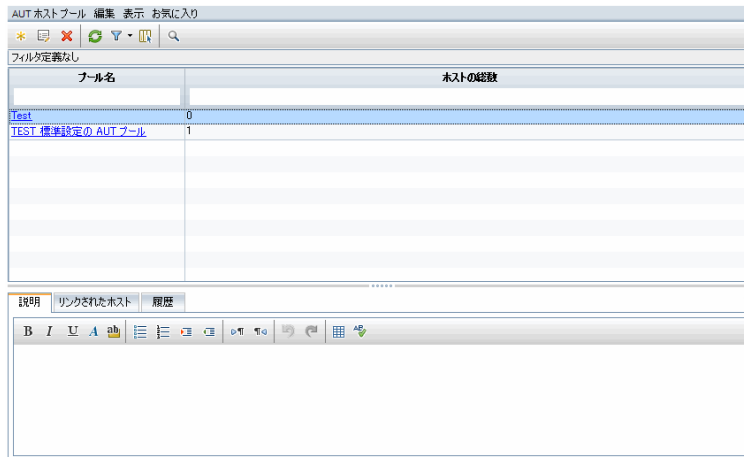
アクセス方法	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で、[AUT ホスト]を選択します。グリッドのAUT ホストを右クリックし、[AUT ホストの詳細]を選択します。 ALM サイドバーの[Performance Center AUT]で、[AUT ホスト]を選択します。グリッドのAUT ホストを右クリックし、[AUT ホストの詳細]を選択します。
参照情報	「AUT リソースの概要」(175ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ: AUT ホストのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語、反義語、関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
コンピュータ名/IP	AUT ホスト・マシンの名前または IP。
詳細	選択した AUT ホストの詳細情報を表示します。詳細については、「AUT ホストのフィールド」(181ページ)を参照してください。
履歴	選択した AUT ホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

AUT プール・モジュール

このモジュールを使用すると、AUT プールを表示、管理できます。



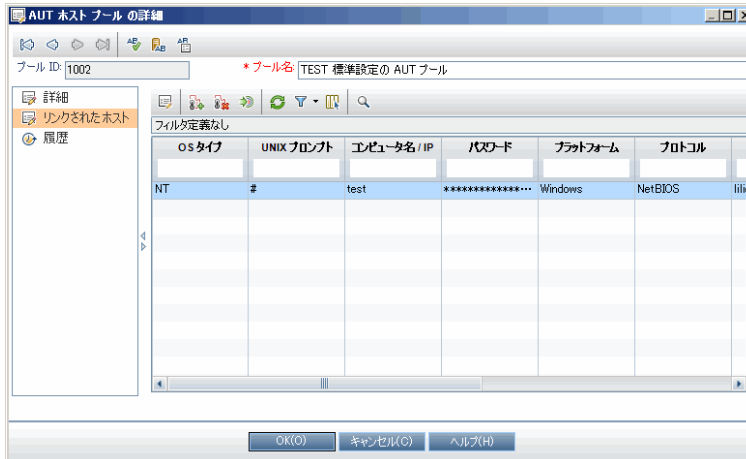
アクセス方法	ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]で、[AUT プール]を選択します。
関連タスク	AUT プール・モジュールは、ラボ管理でのみ利用できます。
参照情報	「AUT リソースの概要」(175ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<共通のメニューとツールバー>	AUT プール・モジュールのメニューとツールバーの詳細については、「AUT リソース・モジュールのメニューとボタン」(190ページ)を参照してください。
<AUT プールのグリッド>	システム内で定義されている AUT プールを表示します。
[説明]タブ	AUT プールに関する主な詳細と説明を表示します。 ヒント: 編集と形式のオプション用の[説明]領域を右クリックしてください。
[リンクされたホスト]タブ	AUT ホストを選択したプールに追加し、プールからホストを削除できます。詳細については、「[リンクされたホスト]ページ」(185ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	選択した AUT プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。


[リンクされたホスト] ページ








このページを使用すると、AUT ホストを AUT プールに追加し、AUT プールから AUT ホストを削除できます。



<p>アクセス方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● AUT プール・モジュールからの場合： ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]で、[AUT プール]を選択します。情報パネルで、[リンクされたホスト]を選択します。 ● [AUT プール詳細]ダイアログ・ボックスからの場合： ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]で、[AUT プール]を選択します。AUT プールを右クリックし、[AUT プール詳細]を選択します。[AUT プール詳細]ダイアログ・ボックスで、[リンクされたホスト]を選択します。 <p style="background-color: #f0f0f0; padding: 5px;">注: ラボ管理でのみ利用できます。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>[リンクされたホスト] ページを使用すると、複数のAUT ホストをAUT プールにリンクできます。</p> <p>あるいは、AUT ホストの詳細の[所属プール]フィールドから単一のAUT ホストを複数のAUT プールにリンクできます。詳細については、「AUT ホストのフィールド」(181ページ)を参照してください。</p>
<p>参照情報</p>	<p>「AUT リソースの概要」(175ページ)</p>

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。



UI 要素	説明
	<p>ホストをプールに追加： [AUT ホストをプールに追加] が開き、AUT プールに追加する AUT ホストを選択できます。</p>

UI 要素	説明
	ホストの削除 : AUT プールから選択した AUT ホストを削除します。
	ホストに移動 : AUT ホスト・モジュール内の選択したリンクされている AUT ホストを表示します。
	AUT ホストの詳細 : [AUT ホストの詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したリンクされている AUT ホストの詳細情報を表示できます。詳細については、「AUT ホストのフィールド」(181ページ)を参照してください。
	すべて更新 : 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	フィルタ/ソートの設定 : グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択 : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索 : [検索] ダイアログ・ボックスが開き、AUT ホストを検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<リンクされているホストのグリッド>	AUT プールに属している AUT ホストが一覧表示されます。ホストのフィールドの詳細については、「AUT ホストのフィールド」(181ページ)を参照してください。




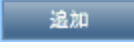
[AUT ホストをプールに追加] ダイアログ・ボックス

このページを使用すると、AUT プールに追加する AUT ホストを選択できます。



アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ● AUT プール・モジュールからの場合： ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で、[AUT プール]を選択します。情報パネルで、[リンクされたホスト]を選択し、[ホストをプールに追加]ボタン  をクリックします。 ● [AUT プール詳細]ダイアログ・ボックスからの場合： ラボ管理サイドバーの[Performance Center]で、[AUT プール]を選択します。AUT プールを右クリックし、[AUT プール詳細]を選択します。[AUT プール詳細]ダイアログ・ボックスで、[リンクされたホスト]を選択し、[ホストをプールに追加ボタン ]をクリックします。 <p>注: ラボ管理でのみ利用できます。</p>
重要な情報	あるいは、AUT ホストの詳細の[所属プール]フィールドから単一のAUT ホストを複数のAUT プールにリンクできます。詳細については、「AUT ホストのフィールド」(181ページ)を参照してください。
参照情報	「AUT リソースの概要」(175ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべて更新: 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	カラムの選択: [カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	フィルタ/ソートの設定: グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	選択したAUT ホストをAUT プールに追加します。
<AUT ホスト・グリッド>	AUT プールに追加できるAUT ホストが一覧表示されます。
選択済み	プールに追加することを選択したAUT ホストが表示されます。

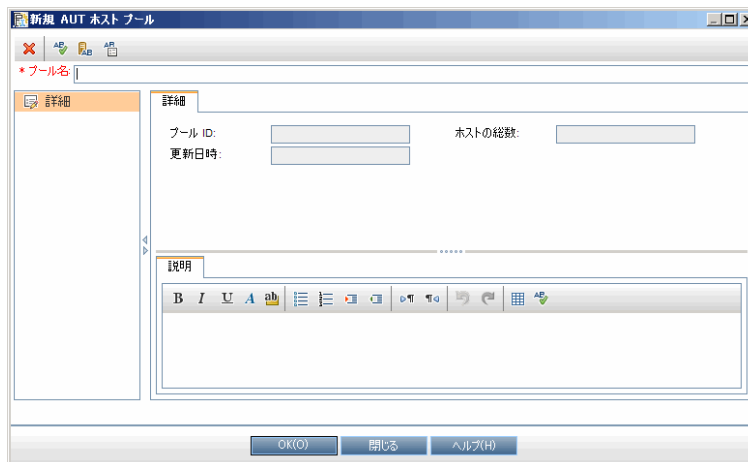
AUT プールのフィールド


AUT プールには、次のフィールドを利用できます。

フィールド	説明
説明	AUT プールの説明。
更新日時	AUT プールの詳細情報が最後に変更された日付。
プール ID	AUT プールの ID。
プール名	AUT プールの名前。 注: この名前には、スペース、ピリオド、次のいずれかの文字を除き、最大 128 文字まで指定できます。 ; * \ / " ~ & ? { } \$ % < > + = ^ [] ()
ホストの総数	ホスト・プール内の AUT ホストの合計数。





[新規 AUT ホスト プール] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、新しい AUT プールを作成できます。



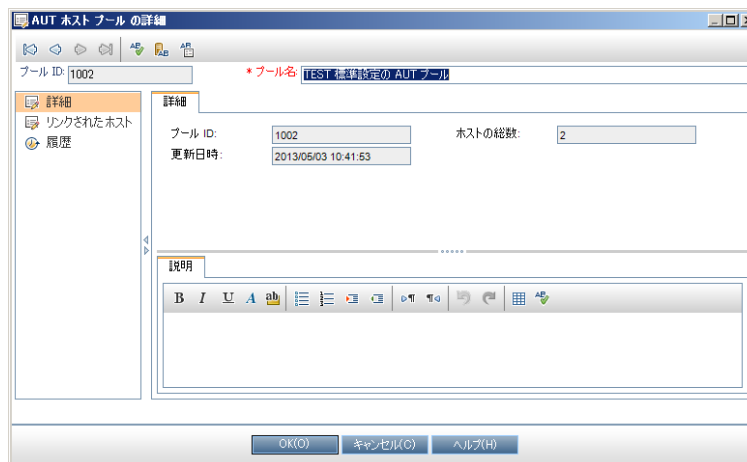
アクセス方法	ラボ管理 サイドバーの [Performance Center] で、[AUT プール] を選択します。 [新規 AUT プール  <p>188 / 233 ページ</p>
--------	--

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: データをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
プール名	AUT プールの名前。
詳細	新しいAUTプールの詳細情報を入力できます。詳細については、「AUTプールのフィールド」(188ページ)を参照してください。





[AUT ホスト プール詳細]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、AUTプールの詳細を表示、変更できます。



アクセス方法	ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]で、[AUT ホスト]を選択します。グリッドのAUTホストを右クリックし、[AUTホストの詳細]を選択します。
参照情報	「AUTリソースの概要」(175ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。






UI 要素	説明
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ: AUT プールのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
プール名	AUT プールの名前。
詳細	選択した AUT プールの詳細情報を表示します。詳細については、「AUT プールのフィールド」(188ページ)を参照してください。
リンクされたホスト	AUT ホストを選択したプールに追加し、プールからホストを削除できます。詳細については、「[リンクされたホスト]ページ」(185ページ)を参照してください。
履歴	選択した AUT プールに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。





AUT リソース・モジュールのメニューとボタン

これらのモジュールを使用すると、テスト対象のアプリケーションをホストしている AUT リソースを管理できます。

アクセス方法	<p>次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ラボ管理の場合: ラボ管理 サイドバーの[Performance Center]で、[<AUT リソース>]を選択します。 • ALM の場合: ALM サイドバーの[Performance Center AUT]で、[AUT ホスト]を選択します。 <p>注: ラボ管理では、AUT ホストとAUT プールの両方を定義できます。ALM では、AUT ホストのみ定義できます。</p>
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> • AUT ホストは、ラボ管理とALM の両方で管理できます。 • 管理者権限を持つユーザのみ、AUT プールを管理できます(ラボ管理で)。
参照情報	「AUT リソースの概要」(175ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	場所	説明
<AUT リソース>の詳細 	<AUT リソース> と右クリック・メニュー	[<AUT リソース> 詳細]ダイアログ・ボックスが開き、選択したAUT リソースの詳細情報を表示できます。
お気に入り追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りレビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
URLのコピー 	<AUT リソース> と<右クリック・メニュー>	選択したAUT リソースのURL をコピーして、リンクとして貼り付けます。電子メールやドキュメントなどの別の場所にURL を貼り付けることができます。リンクをクリックするとALM が起動し、リソース・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
削除 	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッド内の選択したAUT リソースを削除します。
エクスポート	<AUT リソース> と<右クリック・メニュー>	<p>[すべてのグリッド データをエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き、AUT リソースを、テキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Wordドキュメント、HTMLドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● すべて:グリッドのすべてのリソースをエクスポートします。 ● 選択:グリッド内で選択したリソースをエクスポートします。
検索 	ビュー	[検索]ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでリソースを検索できます。検索オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<AUT リソース>に移動 	<AUT リソース>	[<AUT リソース> に移動]ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のリソースを検索できます。現在のフィルタ内のリソースにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	[表示]と<右クリック・メニュー>	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	場所	説明
インポート	AUT ホスト	AUT ホストのリストを Excel ファイル(.xls または .csv) から ALM にインポートできます。詳細については、「Excel から AUT ホスト・データをインポートする方法」(175ページ)を参照してください。
情報パネル	[表示]と<右クリック・メニュー>	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
新規 <AUT リソース> 	<AUT リソース>	AUT リソースを追加できます。 注: AUT プールの場合、ラボ管理でのみ利用できます。
お気に入りの整理	お気に入り	[整理 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、プロパティを変更するか、ビューを削除してお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
すべて更新 	ビュー	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	<AUT リソース> グリッドに[置換]ダイアログ・ボックスを開き、グリッドのリソースのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	ビュー	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 リソースのフィールドの詳細については、次を参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> 「AUT ホストのフィールド」(181ページ) 「AUT プールのフィールド」(188ページ)
フィルタ/ソートを設定 	ビュー	グリッド内のリソースに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI要素	場所	説明
選択項目の更新	[編集]と<右クリック・メニュー>	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスが開き, <AUTリソース>グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

第13章: プロジェクト管理

本章の内容

ラボ管理対応プロジェクトの使用の概要 195

ラボ管理対応プロジェクトの使用の概要

ラボ管理対応プロジェクトを作成した後、サイト管理でそのプロジェクトを管理します。ALMでのプロジェクトの管理の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ただし、サイト管理の管理タスクに加え、追加の手順を把握しておく必要がある特定のユースケースがあります。次に、それらのユースケースを示します。

プロジェクトのステージングから運用環境への移行

詳細については、「ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法」(196ページ)を参照してください。

プロジェクトのコピーの作成

プロジェクトのコピーの作成方法の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理対応プロジェクトのコピーを作成する場合、次のことを認識しておく必要があります。

- 新しいプロジェクトでも、ラボ管理拡張が有効になっている必要があります。
- テスト実行の詳細情報は、**使用状況レポート**には表示されません。
- タイムスロットとプロジェクトの設定はコピーされません。
- 元のプロジェクトに関連付けられている結果ファイルはコピーされません。

ラボ管理プロジェクトのアーカイブ

ラボ管理対応プロジェクトのアーカイブとは、プロジェクトが置かれているサーバからプロジェクトをエクスポートまたは削除し、後でそのプロジェクトを同じサーバにインポートし戻すことです。

プロジェクトのエクスポート、インポート、アクセスの復元の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ラボ管理対応プロジェクトをアーカイブする場合、次のことを認識しておく必要があります。

- 同じ PUID を持つプロジェクトが元のサーバに存在している場合、プロジェクトをそのサーバにインポートできません。
- プロジェクトへのアクセスを復元する場合、次のことを認識しておく必要があります。
 - テスト実行の詳細情報は、**使用状況レポート**には表示されません。
 - タイムスロットとプロジェクトの設定情報が失われます。

ラボ管理システムをステージングから運用環境へ移行する方法

次のタスクでは、ラボ管理システムをステージングから運用環境へ正常に移行する方法について説明します。

注: システムの移行の結果、運用環境で最初に作成され、ラボ管理に含まれていたすべての情報が失われます。

タスクは次の手順で構成されています。

- 「[サイト管理のオープン](#)」(196ページ)
- 「[ラボ管理のステージングから運用環境への移行](#)」(196ページ)
- 「[運用環境でのラボ管理のアクティブ化](#)」
- 「[ALM ライセンスの更新](#)」(196ページ)
- 「[サーバおよびホストの更新](#)」(196ページ)
- 「[プロジェクトのステージング環境から運用環境への移行](#)」(197ページ)
- 「[運用環境でのプロジェクトのアクティブ化](#)」(197ページ)
- 「[運用環境でのラボ管理のプロジェクト設定](#)」(197ページ)

1. サイト管理のオープン

詳細については、『[HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド](#)』を参照してください。

2. ラボ管理のステージングから運用環境への移行

- a. ステージング環境で、サイト管理の[[ラボ管理](#)]タブを選択します。
- b. ステージングからラボ管理プロジェクトを削除し、運用環境に復元します。ラボ管理の削除と復元の詳細については、「[\[ラボ管理\]タブ](#)」(24ページ)を参照してください。

3. 運用環境でのラボ管理のアクティブ化

ラボ管理のアクティブ化の詳細については、「[\[ラボ管理\]タブ](#)」(24ページ)を参照してください。

4. ALM ライセンスの更新

運用環境のラボ管理で、ALM ライセンスを更新します。詳細については、『[HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド](#)』を参照してください。

5. サーバおよびホストの更新

注: 運用環境のサーバとホストがステージング環境のものとは異なる場合に、この手順を実行してください。

ラボ管理で既存のサーバとホストを削除し、新しいサーバとホストで置き換えます。

- Performance Center サーバを追加する方法の詳細については、「[Performance Center サーバを管理する方法](#)」(199ページ)を参照してください。

- ホストを追加する方法の詳細については、「[ラボ・リソースを管理する方法](#)」(57ページ)を参照してください。

6. プロジェクトのステージング環境から運用環境への移行

各プロジェクトをステージング環境から削除し、運用環境に復元します。プロジェクトの削除と復元の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

7. 運用環境でのプロジェクトのアクティブ化

プロジェクトのアクティブ化の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

8. 運用環境でのラボ管理のプロジェクト設定

運用環境に移行した各プロジェクトについて、この手順を実行します。プロジェクト設定の詳細については、「[プロジェクト設定](#)」(29ページ)を参照してください。

第14章: PC サーバ

本章の内容

PC サーバの概要	199
Performance Center サーバを管理する方法	199
Performance Centerサーバ・モジュールのユーザ・インタフェース	200

PC サーバの概要

PC サーバ・モジュールでは、Performance Center の機能で必要な情報とリソースの管理を行います。PC サーバの新規作成、Performance Center サーバ・ステータスのモニタ、サーバ情報の編集、サーバパフォーマンスのチェックを実行できます。

Performance Center サーバの管理の詳細については、「Performance Center サーバを管理する方法」(199ページ)を参照してください。

Performance Center サーバを管理する方法

このタスクでは、Performance Center サーバを管理するためのさまざまなオプションについて説明します。


注: このタスクは、次の上位レベルのタスクの一環です。「ラボ管理の管理の使用方法」(21ページ)

Performance Center サーバの詳細については、「PC サーバの概要」(199ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「サーバの追加」(199ページ)
- 「Performance Center server に対するサーバ接続のチェック」(199ページ)
- 「サーバの再起動」(200ページ)
- 「サーバへのパッチのインストール」(200ページ)

サーバの追加

1. ラボ管理で、[サーバ] > [PC サーバ]を選択します。
2. [新規 PC サーバ]ボタン  をクリックします。
3. [新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックスで、必要な情報を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックス」(208ページ)を参照してください。

Performance Center server に対するサーバ接続のチェック

ラボ管理サイドバーの[サーバ]から[PC サーバ]を選択します。グリッド内のサーバを右クリックし、[サーバの確認] > [サーバの確認]を選択します。

タスク・マネージャが開き、サーバ上で実行された各チェックの結果全体、[成功]または[失敗]が表示されます。

サーバ・チェックの進行状況は、PC サーバ・モジュールの[サーバのステータスの確認]タブで確認できます。

次のチェックが実行されます。

- **サーバへの ping:** Performance Center サーバが選択したマシンへの ping を実行します。
- **Ping URL:** 選択したサーバがリストされている URL への ping を実行します。

あるいは、上記のチェックとともにサーバから特定の URL への追加の接続チェックを実行できます。グリッド内のサーバを右クリックし、[サーバの確認]>[URL への接続性の確認]を選択して、URL を入力します。

例:

- 通常の URL: `http://www.website.com`
- マシン名: `machine22` または `http://machine22`

サーバの再起動

ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。グリッド内の再起動するサーバを右クリックし、[サーバの再起動]を選択します。

サーバへのパッチのインストール

注: サーバにパッチをインストールするには、最初にパッチを ALM にアップロードしておく必要があります。詳細については、「[パッチの ALM へのアップロード方法](#)」(167ページ)を参照してください。

ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。グリッド内のパッチをインストールするサーバを右クリックし、[パッチのインストール]を選択します。

ヒント: パッチは、複数のサーバに同時にインストールできます。複数のサーバを選択するには、キーボードの CTRL キーを押しながらサーバを選択します。

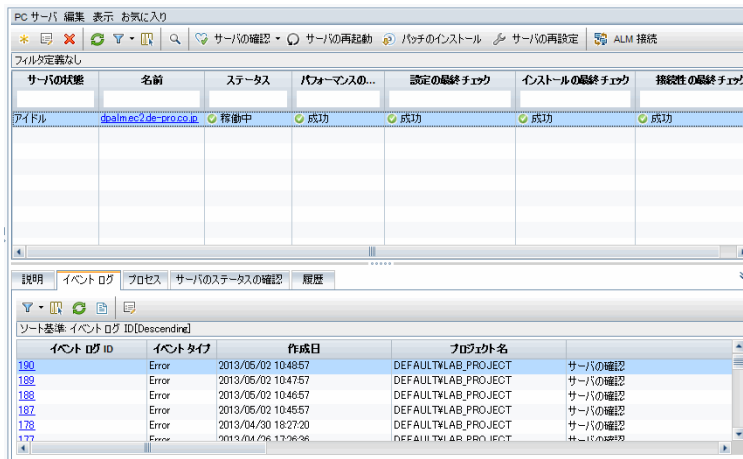
Performance Centerサーバ・モジュールのユーザー・インタフェース

本項の内容

PC サーバ・モジュール・ウィンドウ	201
PC サーバ・モジュールのメニューとボタン	202
PC サーバ・モジュールのフィールド	205
[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックス	207
[新規 PC サーバ]ダイアログ・ボックス	208
[プロセス]ページ	209

PC サーバ・モジュール・ウィンドウ


PC サーバ・モジュール・ウィンドウを使用すると、Performance Center サーバを管理できます。



アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(199ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
<PC サーバ・モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> ● PC サーバのフィールド: フィールドの定義については、「PC サーバ・モジュールのフィールド」(205ページ)を参照してください。 ● PC サーバのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「PC サーバ・モジュールのメニューとボタン」(202ページ)を参照してください。 ● ALM メイン・メニューとサイドバー: [ツール]メニュー, [ヘルプ]メニュー, サイドバーの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<グリッド・フィルタ>	<p>各カラム名の下にあります。カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。このフィルタ・ボックスが空の場合、現在カラムにはフィルタが適用されていません。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
<サーバグリッド>	Performance Center server のリストを表示します。
<情報パネル>	モジュールの下部領域にあります。グリッド内で選択したサーバに関する情報を表示します。








UI 要素	説明
[説明]タブ	現在選択されているサーバについての説明が表示されます。 テキスト・ボックス内でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
[イベント ログ]タブ	選択したサーバで実行されているタスク、操作のステータス、エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については、『HP ALM Performance Center ガイド』を参照してください。
[インストール済みの PC コンポーネント]タブ	サーバ・マシンにインストールされている Performance Center コンポーネント(バージョンとパッチを含む)のリストを表示します。 グリッドを更新するには、  をクリックします。
[プロセス]タブ	選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。詳細については、「[プロセス]ページ」(209ページ)を参照してください。
[サーバのステータスの確認]タブ	サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。サーバの確認のステータスの詳細を表示するには、タブ内の行を右クリックし、[サーバのステータスの確認の詳細]を選択します。詳細については、「[サーバのステータスの確認]ページ」(211ページ)を参照してください。
[履歴]タブ	現在選択されているホストに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。






PC サーバ・モジュールのメニューとボタン



本項では、PC サーバ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(199ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
 ALM 接続	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	<p>内部と外部の ALM URL を定義できます。</p> <p>内部 URL は、すべての Performance Center コンポーネントが ALM への接続に使用します。</p> <p>この URL は次の形式である必要があります。<code>http://<alm>:<port></code></p> <p>例: <code>http://myalm:8080</code></p> <p>SSL 接続では、ALM の内部 URL は、<code>https</code> で始まる必要があります。例: <code>https://myalm:443</code>。</p>
 サーバの再設定	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	<p>選択したサーバのシステム情報をリセットします。たとえば、内部/外部 URL、ユーザ ID などです。</p>
 パッチのインストール	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	<p>[パッチのインストール]ダイアログ・ボックスが開き、選択したサーバにインストールするパッチを選択できます。</p>
 サーバの確認	PC サーバ	<p>選択したサーバとシステム内の他のマシン間の接続性をチェックします。</p>
 サーバの再起動	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	<p>選択したサーバをリモートで再起動できます。</p>
お気に入り追加	お気に入り	<p>[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りレビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
URL のコピー 	PC サーバ	<p>選択したサーバをコピーして、その URL をリンクとして貼り付けます。サーバ自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、リソース・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。</p>
削除 	[編集]と<右クリック・メニュー>	<p>グリッド内の選択したサーバを削除します。</p>

UI 要素	メニュー	説明
エクスポート	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのサーバをテキスト・ファイル, Microsoft Excel ワークシート, Microsoft Wordドキュメント, HTMLドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート: グリッドのすべてのサーバをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート: グリッド内で選択したサーバをエクスポートします。
検索 	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでサーバを検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
PC サーバに移動 	PC サーバ	[PC サーバに移動]ダイアログ・ボックスが開き、ID 番号で特定のサーバを検索できます。現在のフィルタ内のサーバにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	表示	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
情報パネル	表示	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
新規 PC サーバ 	PC サーバ	PC サーバを追加できます。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りレビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
PC サーバの詳細 	[PC サーバ]と<右クリック・メニュー>	[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスが開き、選択したサーバの詳細が表示されます。詳細については、「[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックス」(207ページ)を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りレビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りレビューのリストを表示します。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。

UI 要素	メニュー	説明
置換	[編集]と<右クリック・メニュー>	PC サーバのグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 PC サーバのフィールドの詳細については、「PC サーバ・モジュールのフィールド」(205ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のサーバに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	編集	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

PC サーバ・モジュールのフィールド

本項では、PC サーバ・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(199ページ)

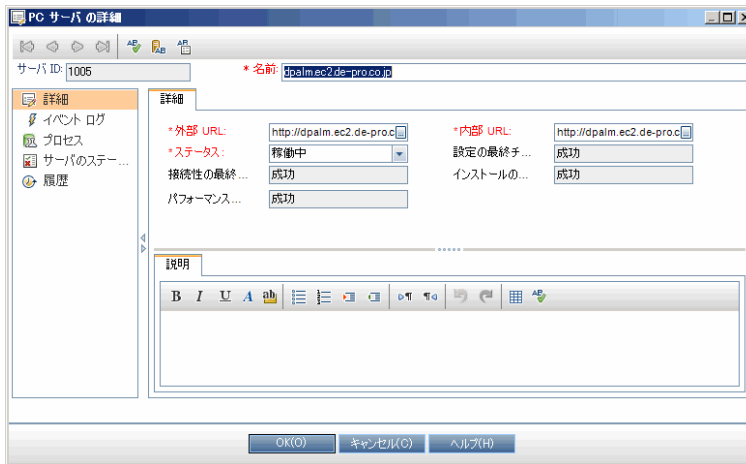
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
設定の最終チェック	最後の設定のチェックが成功または失敗したかを表示します。
接続性の最終チェック	最後の接続のチェックが成功または失敗したかを表示します。
説明	Performance Center サーバの説明。

UI 要素	説明
外部 URL	外部ソースから Performance Center サーバへの接続に使用する URL。 注: SSL 接続の場合, 外部 URL に次の形式を使用して, Performance Center server を追加します。 <code>https://<PC サーバ></code> 例: <code>https://mypcs:443</code>
インストールの最終チェック	最後のインストールのチェックが成功または失敗したかを表示します。
内部 URL	Performance Center サーバと ALM とのすべての内部通信, および負荷分散に使用する URL。
名前	新規サーバの設定時に割り当てるサーバ名。
パフォーマンスの最終チェック	最後のパフォーマンスのチェックが成功または失敗したかを表示します。
サーバ ID	サーバ ID。
サーバの状態	サーバの現在の状態。可能性のある状態は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• アイドル: サーバはアイドル状態です。• パッチのインストール中: インストール用のパッチをサーバにインストール中で, サーバは一時的に利用できません。• 再起動中: サーバは再起動中で, 一時的に利用できません。 標準設定値: [アイドル]
ステータス	サーバの現在のステータス。可能性のあるステータスは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">• 稼動中: サーバは稼動中です。• 非稼動: サーバは稼動していません。• 利用不可: サーバは利用できません。

[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックス


[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスでは、単一のサーバの表示と更新ができます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。 2. サーバを右クリックし、[PC サーバの詳細]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(199ページ)

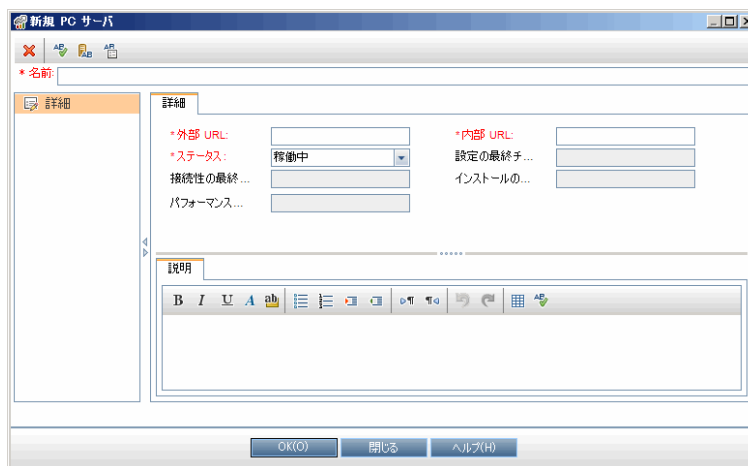
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。


UI 要素	説明
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ: サーバのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
サーバ ID	サーバの ID。
名前	サーバの名前。
詳細	現在選択されているサーバの詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「PC サーバ・モジュールのフィールド」(205ページ)を参照してください。
イベント・ログ	選択したサーバで実行されているタスク, 操作のステータス, エラーの説明に関する詳細情報を表示します。詳細については、「イベント・ログ」(81ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
履歴	現在選択されているサーバに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
インストール済みの PC コンポーネント	サーバ・マシンにインストールされている Performance Center コンポーネント (バージョンとパッチを含む) のリストを表示します。 グリッドを更新するには、  をクリックします。
プロセス	選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報を表示します。詳細については、「[プロセス] ページ」(209 ページ) を参照してください。
サーバステータスの確認	サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。サーバの確認のステータスの詳細を表示するには、タブ内の行を右クリックし、[サーバステータスの詳細の確認] を選択します。詳細については、「[サーバのステータスの確認] ページ」(211 ページ) を参照してください。

[新規 PC サーバ] ダイアログ・ボックス




このダイアログ・ボックスを使用すると、新しい Performance Center server を追加できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。 [新規 PC サーバ] ボタン  をクリックします。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(199 ページ)

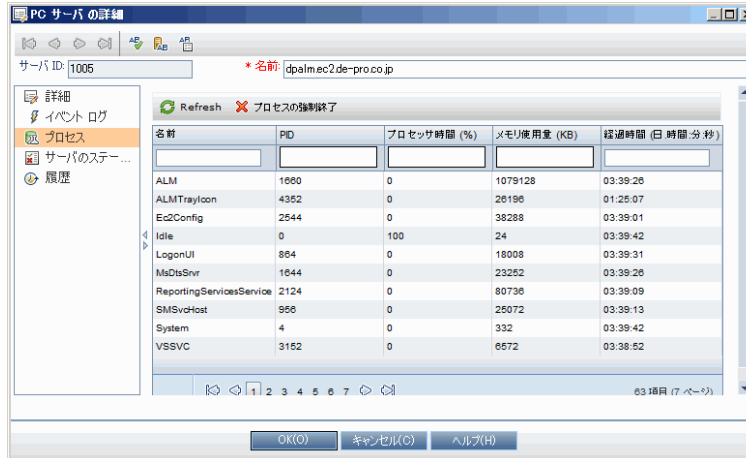
次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。

UI 要素	説明
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
詳細	<p>PC サーバのフィールドが一覧表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「PC サーバ・モジュールのフィールド」(205 ページ)を参照してください。</p> <p>ヒント: このページの[説明]フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
名前	<p>新しいサーバに付ける名前を入力します。</p> <p>構文の例外: サーバ名には、「\」、「/」、「:」、「"」、「?」、「<」、「>」、「 」、「*」、「%」、「'」は使用できません。</p>

[プロセス] ページ



このページには、選択したサーバのプロセスとリソース使用状況に関する詳細情報が表示されます。



アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ● PC サーバ・モジュールからの場合: ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。情報パネルで、[プロセス]を選択します。 ● [PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスからの場合: ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。サーバを右クリックして、[サーバの詳細]を選択します。[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスで、[プロセス]を選択します。
---------------	--

関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(199ページ)
参照情報	「PC サーバの概要」(199ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	更新:最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
	プロセスの強制終了:グリッド内の選択したプロセスを終了します。 注: <ul style="list-style-type: none"> • ホスト・モジュールの場合:選択したプロセスを終了するには、プロセスの強制終了アクセス許可が必要です。 • Performance Center サーバ・モジュールの場合:ビューア・アクセス許可を持つユーザが選択したプロセスを終了できます。
<プロセスグリッド>	プロセスに関する次の詳細情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 名前:プロセスの名前。 • PID:プロセスID。 • プロセッサ時間 (%):プロセスが使用するプロセッサ時間の割合。 • メモリ使用量 (KB):プロセスが使用するメモリ量 (KB)。 • 経過時間 (日.時間:分:秒):プロセス開始以降に経過した時間で、日は日数、時間:分:秒は経過した時間、分、秒です。
<ナビゲーション領域>	ページの下部にあり、グリッド内のエントリのページ内を移動できます。エントリの合計数がナビゲーション領域の右側に表示されます。







[サーバのステータスの確認] ページ

このページは、サーバの確認の各ステップのステータスを表示します。

カテゴリ	確認	期待値	実際値	ステータス	確認日
接続性	マシンへの ping	成功	成功(12 ms)	成功	2013/05/03 10:...
Performance	プロセッサ: プロセ...	0 - 30	0.363	Passed	2013/05/03 10:...
Performance	メモリ: 使用中の...	0 - 80	27.660	Passed	2013/05/03 10:...
Performance	ページング: ファイ...	0 - 90	0	Passed	2013/05/03 10:...
Performance	システム: スレッド		761		2013/05/03 10:...
Performance	システム: プロセス		61		2013/05/03 10:...
Performance	システム: プロセッ...	0 - 20	0	Passed	2013/05/03 10:...
Configuration	DCA (データ取...	実行中	実行中	Passed	2013/05/03 10:...
Configuration	リモート管理工...	実行中	実行中	Passed	2013/05/03 10:...
Configuration	IDS が実行中	実行中	実行中	Passed	2013/05/03 10:...
Installation	適切な PC バ...	バージョン: 11.5...	バージョン: 11.5...	Passed	2013/05/03 10:...

アクセス方法	<ul style="list-style-type: none"> ● PC サーバ・モジュールからの場合： ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。情報パネルで、[サーバのステータスの確認]を選択します。 ● [PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスからの場合： ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[PC サーバ]を選択します。サーバを右クリックし、[PC サーバの詳細]を選択します。[PC サーバの詳細]ダイアログ・ボックスで、[サーバのステータスの確認]を選択します。
関連タスク	「Performance Center サーバを管理する方法」(199ページ)
参照情報	「PC サーバの概要」(199ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。

UI 要素	説明
	<p>[サーバのステータスの確認]の詳細: 次のフィールドが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実際値: サーバの接続性の確認による実際の値。 ● 確認: サーバの確認機能によってチェックされるサーバのサブ領域。 ● 結果チェック ID: サーバの確認の各ステップの ID。 ● 期待値: サーバの確認による期待される値。 ● カテゴリ: サーバの確認機能によってチェックされるサーバの領域: 設定, 接続性, インストール, パフォーマンス。 ● 確認日: サーバがチェックされた日付。 ● エラー: チェック中にエラーが発生した場合, エラーを表示します。 ● ステータス: サーバの確認が成功または失敗したかを示します。
	更新 : ページを更新します。
	フィルタ/ソートの設定 : グリッドに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	カラムの選択 : [カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	検索 : [検索]ダイアログ・ボックスが開き、グリッド内を検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<サーバのステータスの確認のグリッド>	サーバの確認のステータスを表示します。グリッドに表示するカラムを選択するには、  をクリックします。
実際の値	サーバの接続性の確認による実際の値。
カテゴリ	サーバの確認機能によってチェックされるサーバの領域: <ul style="list-style-type: none"> ● 設定 ● 接続性 ● インストール ● パフォーマンス
確認	サーバの確認機能によってチェックされるサブ領域。たとえば、パフォーマンス・チェックの場合のサブ領域は、プロセッサ、メモリ、システムです。

UI 要素	説明
確認日	サーバがチェックされた日付。
結果 チェック ID	サーバの確認の各ステップの ID。
エラー	チェック中にエラーが発生した場合、エラーを表示します。
期待値	サーバの確認による期待される値。
ステータス	サーバの確認が成功または失敗したかを示します。

第15章: CDA サーバ

本章の内容

CDA サーバの概要	215
CDA サーバを管理する方法	215
CDA サーバのユーザ・インタフェース	216

CDA サーバの概要

CDA サーバ・モジュールは、ラボ管理内での HP Continuous Delivery Automation (CDA) サーバの作成と構成に使用します。CDA には、一連の動的なターゲット環境に複合アプリケーションを送信する方法の定義に必要な結果および関係を示すデータ・モデルが用意されています。

CDA は ALM と統合して、リソースの動的なプロビジョニングおよびデプロイメントを可能にします。AUT 環境設定を CDA にリンクすると、ALM は環境パラメータの特定の値を入力するようにユーザに要求しなくてもリンクされたテストの実行を行うことができます。ラボ管理で CDA サーバを定義すると、AUT 環境パラメータを CDA パラメータにリンクするために ALM で CDA サーバを使用できます。CDA および AUT パラメータの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

CDA サーバを管理する方法

このタスクでは、ラボ管理で CDA サーバを作成する方法を説明します。ラボ管理で CDA サーバを管理し、ALM で CDA リンケージを実行します。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「通信セキュリティ・パスフレーズの更新」(215ページ)
- 「ラボ管理での CDA サーバの作成」(215ページ)
- 「プロジェクト設定の更新」(216ページ)

1. 通信セキュリティ・パスフレーズの更新

- a. サイト管理で、**COMMUNICATION_SECURITY_PASSPHRASE** 標準設定パラメータを更新します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
- b. ALM サーバ上の HP Application Lifecycle Management サービスを再起動します。


2. ラボ管理での CDA サーバの作成

- a. ラボ管理で、[サーバ] > [CDA サーバ] を選択します。
- b. [新規 CDA サーバ] ボタン  をクリックします。

注: サイトごとに設定できる CDA サーバは 1 つだけです。

- c. [新規 CDA サーバ] ダイアログ・ボックスで、サーバ情報を入力します。CDA のフィールドの詳細については、「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(220 ページ)を参照してください。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規 CDA サーバ] ダイアログ・ボックス」(220 ページ)を参照してください。
- d. 送信後、CDA サーバ・データで互換性チェックが行われます。内部 URL は、接続チェックに使用します。接続に問題がない場合には、CDA サーバがグリッドに表示されます。

3. プロジェクト設定の更新

- a. ラボ管理で、[ラボ設定] > [プロジェクト設定] を選択します。
- b. 該当するプロジェクトをグリッドから選択し、[プロジェクト設定の詳細] ボタン  をクリックします。
- c. [プロジェクト設定の詳細] ダイアログ・ボックスで、[CDA サーバ] フィールドと [CDA ドメイン] フィールドを更新します。[OK] をクリックします。

これで、CDA サーバが ALM とリンクできます。

CDA サーバのユーザ・インタフェース

本項の内容

CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ	217
CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン	218
CDA サーバ・モジュールのフィールド	220
[新規 CDA サーバ] ダイアログ・ボックス	220
[CDA サーバ詳細] ダイアログ・ボックス	221

CDA サーバ・モジュール・ウィンドウ

ID	名前	内部 URL	外部 URL
1001	CDA Server	http://adam2.syslab.adam.com	http://adam2.syslab.adam.com:8080/cda

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[CDA サーバ]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(215ページ)

次にユーザ・インタフェースの要素について説明します(ラベルのない要素は、山括弧で囲んで表記してあります)。





UI 要素	説明
<CDA サーバ・モジュールの共通の UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> CDA サーバのフィールド: フィールドの定義については、「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(220ページ)を参照してください。 CDA サーバのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン」(218ページ)を参照してください。 ALM メイン・メニューとサイドバー: [ツール]メニュー、[ヘルプ]メニュー、サイドバーの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<グリッド・フィルタ>	<p>各カラム名の下にあります。カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。このフィルタ・ボックスが空の場合、現在カラムにはフィルタが適用されていません。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして[参照]ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択]ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
<サーバグリッド>	CDA サーバのリストを表示します。
[履歴]タブ	現在選択されている CDA サーバに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。





CDA サーバ・モジュールのメニューとボタン

本項では、CDA サーバ・モジュールで利用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[CDA サーバ]で、[CDA サーバ]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(215ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	メニュー	説明
お気に入り 追加	お気に入り	[追加 お気に入り]ダイアログ・ボックスが開き、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りレビューを追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
CDA サーバ 詳細 	[CDA サーバ]と<右クリック・メニュー>	[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックスが開き、選択したサーバの詳細が表示されます。詳細については、「[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックス」(221ページ)を参照してください。
削除 	[編集]と<右クリック・メニュー>	グリッド内の選択したサーバを削除します。
エクスポート	[CDA サーバ]と<右クリック・メニュー>	[グリッド データのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのサーバをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Wordドキュメント、HTMLドキュメントとしてエクスポートできます。 次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • すべてエクスポート: グリッドのすべてのサーバをエクスポートします。 • 選択項目のエクスポート: グリッド内で選択したサーバをエクスポートします。
検索 	表示	[検索]ダイアログ・ボックスが開き、モジュールでサーバを検索できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
CDA サーバ に移動 	CDA サーバ	[CDA サーバに移動]ダイアログ・ボックスが開き、ID番号で特定のサーバを検索できます。現在のフィルタ内のサーバにのみ移動できます。
グリッド・フィルタ	表示	[フィルタ]ボックス内のエントリに従ってデータをフィルタ処理できます。フィルタ処理オプションの詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
情報パネル	表示	モジュールの下部領域にある[情報パネル]を表示/非表示にします。
新規 CDA サーバ 	CDA サーバ	CDA サーバを追加できます。
お気に入りの整理	お気に入り	お気に入りレビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
非公開	お気に入り	作成者だけがアクセスできるお気に入りレビューのリストを表示します。
公開	お気に入り	どのユーザでもアクセスできるお気に入りレビューのリストを表示します。
すべて更新 	表示	最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
置換	[編集]と<右クリック>メニュー→	CDA サーバのグリッドに[置換]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドのフィールド値を置き換えることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
カラムの選択 	表示	[カラムの選択]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 PC サーバのフィールドの詳細については、「CDA サーバ・モジュールのフィールド」(220ページ)を参照してください。
フィルタ/ソートの設定 	表示	グリッド内のサーバに対してフィルタとソートを実行できます。現在適用されているフィルタとソート順序があれば、ツールバーの下に表示されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
選択項目の更新	編集	[選択項目の更新]ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のフィールド値を更新できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

CDA サーバ・モジュールのフィールド

本項では、CDA サーバ・モジュールのフィールドについて説明します。

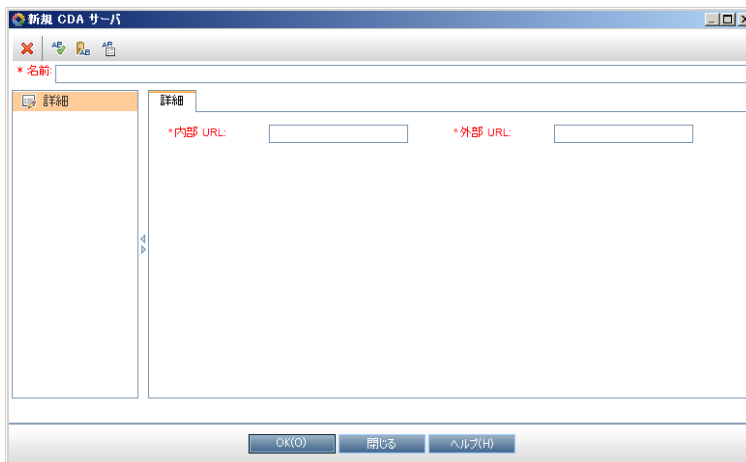
アクセス方法	ラボ管理サイドバーの[サーバ]で、[CDA サーバ]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(215ページ)


次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
外部 URL	外部ソースから CDA サーバへの接続に使用する URL。これは、必須フィールドです。 URL のフォーマット : <code>http://[サーバ名]:[ポート]/cda</code> 注: SSL 接続の場合、外部 URL に次の形式を使用して、CDA サーバを追加します。 <code>https://<cda_server></code>
ID	サーバ ID。
内部 URL	Performance Center サーバと ALM とのすべての内部通信、および負荷分散に使用する URL。
名前	新規サーバの設定時に割り当てるサーバ名。 URL のフォーマット : <code>http://[サーバ名]:[ポート]</code>





[新規 CDA サーバ]ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用すると、新しい CDA サーバを作成できます。



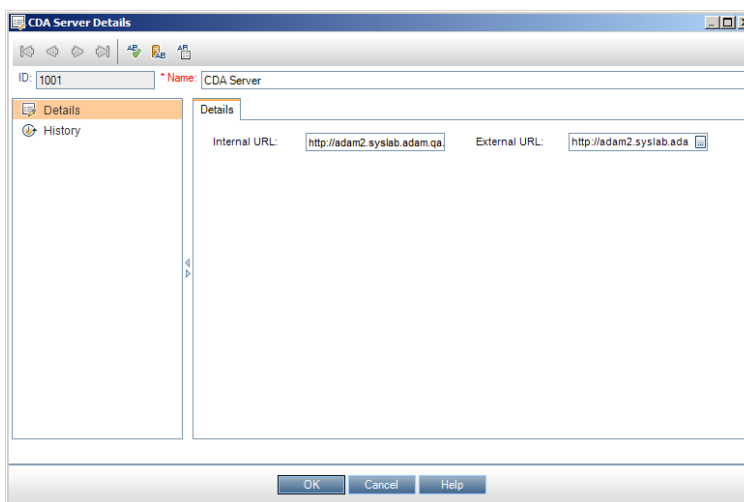
アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理サイドバーの[サーバ]で, [CDA サーバ]を選択します。 2. [新規 CDA サーバ]ボタン  をクリックします。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(215ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	すべてのフィールドをクリア: ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
名前	<p>新しいサーバに付ける名前を入力します。</p> <p>構文の例外: サーバ名には, 「\」, 「/」, 「:」, 「"」, 「?」, 「<」, 「>」, 「 」, 「*」, 「%」, 「'」は使用できません。</p>





[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックス

[CDA サーバ詳細]ダイアログ・ボックスでは, 単一のサーバの表示と更新ができます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. ラボ管理サイドバーの[サーバ]で, [CDA サーバ]を選択します。 2. サーバを右クリックし, [CDA サーバ詳細]を選択します。
関連タスク	「CDA サーバを管理する方法」(215ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
	最初の/前の/次の/最後のエンティティ: サーバのリストの間を移動できます。
	スペル・チェック: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	類語辞典: 選択した単語の類義語, 反義語, 関連語が表示されます。
	スペル・オプション: スペル・チェックの方法を設定できます。
ID	サーバの ID。
名前	サーバの名前。
詳細	現在選択されているサーバの詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「 CDA サーバ・モジュールのフィールド 」(220ページ)を参照してください。
履歴	現在選択されているサーバに加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、『 HP Application Lifecycle Management ユーザーズ・ガイド 』を参照してください。

第16章: Lab Service

本章の内容

HP ALM Lab Service の概要	223
HP ALM Lab Service のインストール	223
HP ALM Lab Service の使用	228
[HP ALM Lab Service 設定] ページ	231

HP ALM Lab Service の概要

HP ALM Lab Service はテストングホスト上でエージェントとして機能するため、ALM はホスト上でテストとメンテナンス・タスクをリモートで開始できます。

Lab Service は、テスト・ツール・ホストでバックグラウンド実行されます。テストングホストを ALM ラボ管理機能と統合するには、ラボ管理または ALM のホスト/テストングホスト・モジュールでホストを定義してから、[Lab Service の設定] ページを使用して ALM Lab Service を ALM サーバに指定します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[HP ALM Lab Service 設定] ページ」(231 ページ)を参照してください。

1 回の登録処理で、エージェントの ID が検証され、ALM とホスト間にセキュリティ保護された通信チャネルが確立されます。登録後、ALM を使用してリモート・ホスト上で機能テストとメンテナンス・タスクを実行します。

Lab Service は、ALM とテスト・ホスト間のセキュアなインタフェースとして機能します。ALM との通信 (テスト要求、テスト結果、メンテナンス・タスクなど) は、Lab Service を経由します。Lab Service は、標準 HTTP プロトコルを通じて ALM と通信し、ファイアウォールを通過できます。ALM Lab Service を停止すると、テストの実行で ALM ラボ管理によるホストの使用が回避されます。

タスクの詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(228 ページ)を参照してください。

HP ALM Lab Service のインストール

このタスクでは、HP ALM Lab Service のインストール方法について説明します。

HP ALM Lab Service のインストールの修正、修復の詳細については、「HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール」(227 ページ)を参照してください。

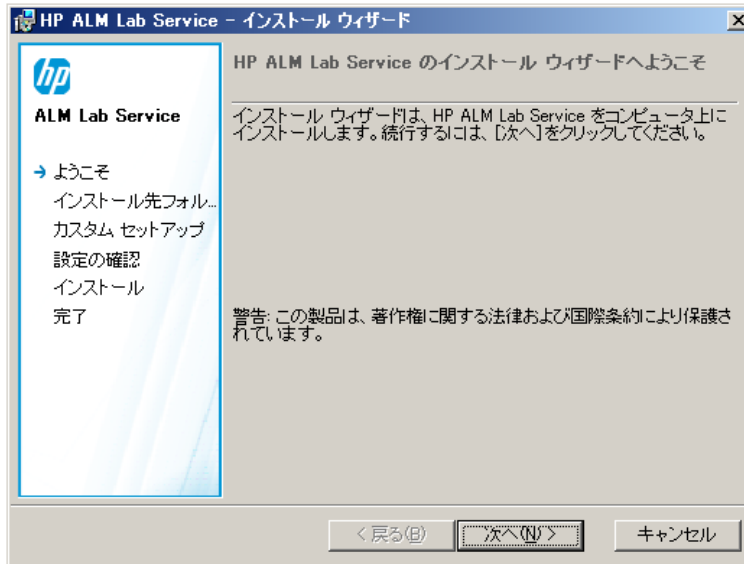
HP ALM Lab Service - インストール・ウィザードによる Lab Service のインストール

1. HP ALM Lab Service MSI インストール・ファイルを HP ALM アドイン・ページでダウンロードします。オペレーティング・システム環境に合わせてインストール・パスを選択します。

注: 互換性を確保するには、Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンである必要があります。Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンではない場合、ALM とラボ管理のホスト/テストング・ホスト・グリッドで、テストング・ツールが[利用不可]として

表示されます。

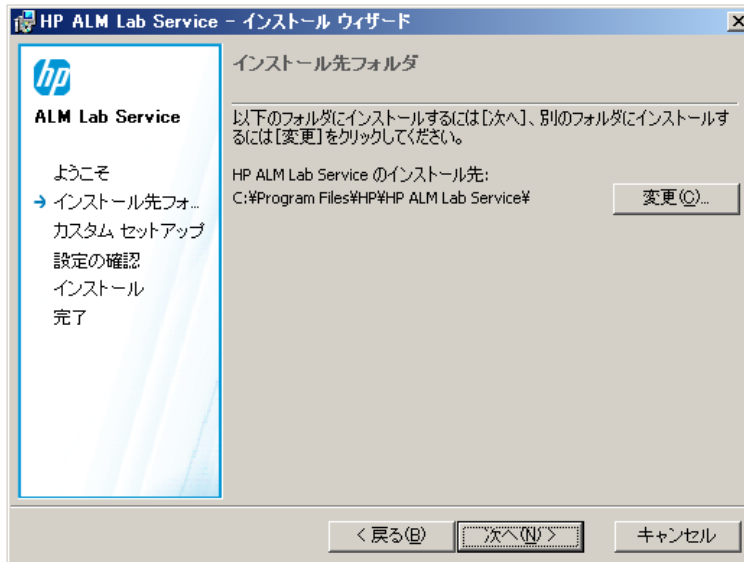
2. MSI インストール・ファイルを実行します。HP ALM Lab Service - インストール・ウィザードが起動し、[ようこそ]画面が開きます。



[次へ]をクリックします。

3. [インストール先フォルダ]画面が開きます。

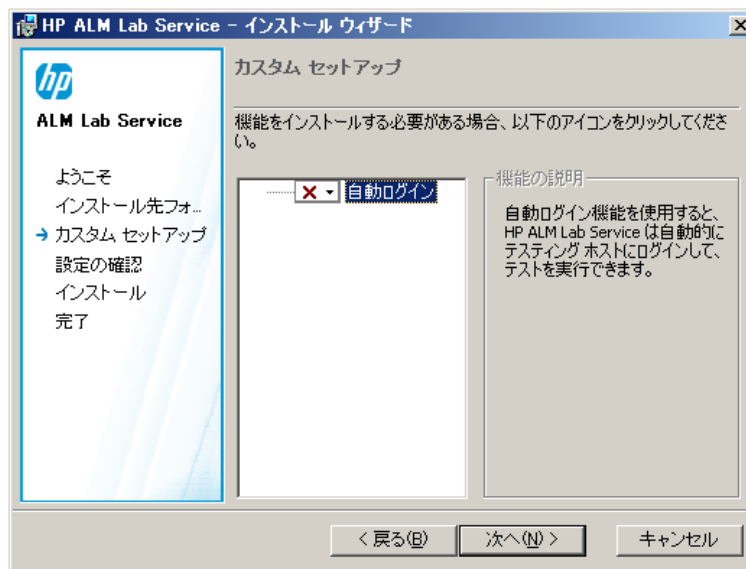
Lab Service をインストールするフォルダを指定します。[変更]をクリックすると、インストール先フォルダを変更できます。



表示されているフォルダへのインストールを開始するには、[次へ]をクリックします。

4. [カスタム セットアップ]画面が開きます。

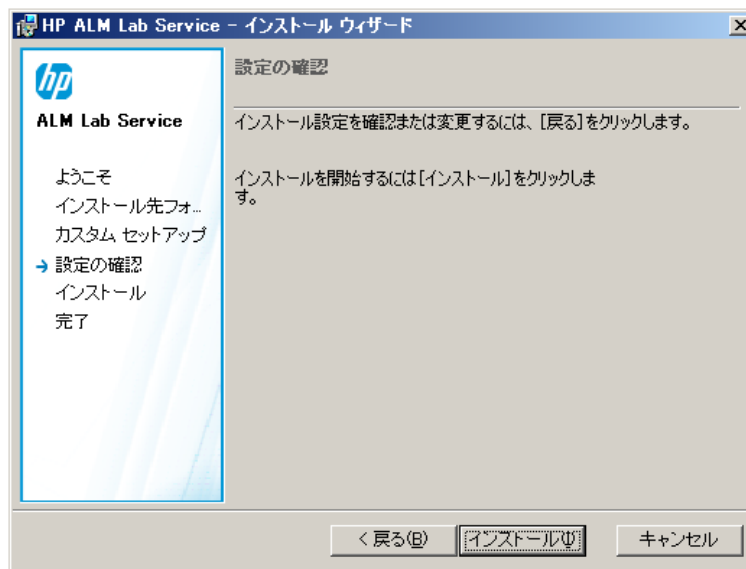
この画面では、Lab Service の自動ログイン機能を有効にすることができます。[自動ログイン] チェックボックス・アイコンをクリックし、[この機能を有効にする]を選択します。自動ログインの詳細については、「自動ログイン」(230ページ)を参照してください。



注意: Windows XP では、HP ALM Lab Service のセットアップを行うと、自動ログインに必要なファイル(GINA DLL)がインストールされます。他のアプリケーションでホストへのログインをカスタマイズしている場合、別バージョンのファイルがすでにインストールされている可能性があります。したがって、このファイルを置換するとエラーが発生することがあります。自動ログイン機能を有効にする場合は、他のアプリケーションをアンインストールしてから、Lab Service のインストールを再開してください。

[次へ]をクリックします。

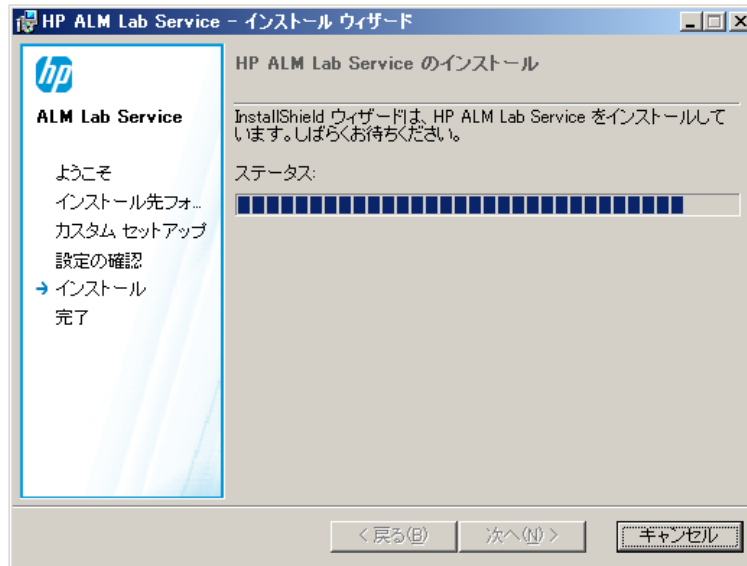
5. [設定の確認]画面が開きます。



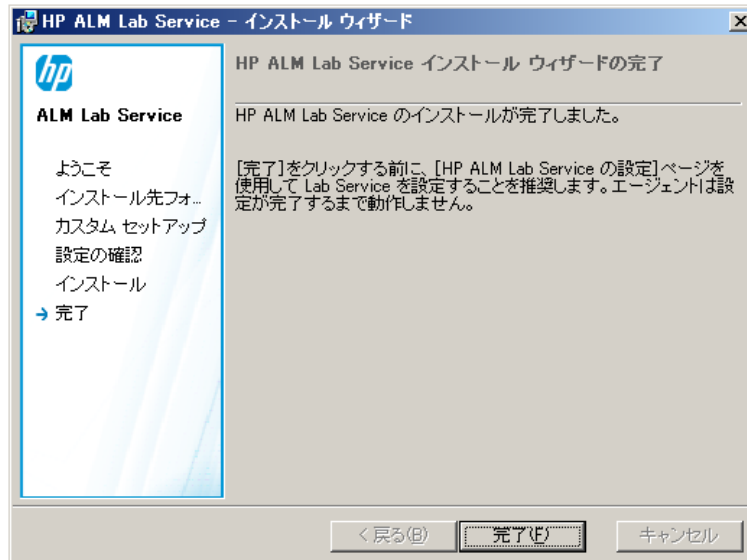
設定を確認または変更する場合は、[戻る]をクリックします。

設定を確定してインストール処理を開始するには、[次へ]をクリックします。

[インストール] ページが開き、HP ALM Lab Service のファイルがインストールされます。




6. インストールが完了すると、[HP ALM Lab Service の設定] ダイアログ・ボックスと[完了]画面が開きます。



[Lab Service の設定] ダイアログ・ボックスにホスト設定を入力し、[OK]をクリックします。[Lab Service の設定] ページのユーザ・インタフェースの詳細については、「[HP ALM Lab Service 設定] ページ」(231ページ)を参照してください。

- Lab Service の設定はこの段階で行うことをお勧めしますが、後で設定することも可能です。エージェントを実行するには、設定を完了する必要があります。
- インストールで自動ログインを有効にすると、コンピュータの再起動を指示するメッセージが表示されます。[Lab Service の設定] ページの内容を確認してから、再起動してください。

い。

これで、Lab Service のインストールは完了です。[完了]画面の[完了]をクリックします。Lab Service のトレイ・アイコンが Windows タスクバーに表示されます。

サイレント・モードでの Lab Service のインストール

コマンド・ラインで、次の Microsoft MSI サイレント・インストール・コマンドを入力します。

```
msiexec /i "<MSI の場所>/HpAlmLabService_x64.msi" /qb  
SERVERNAME=http://<サーバ名>:<ポート>/qcbn HOSTUSERNAME=<ユーザ名>  
HOSTUSERDOMAIN=<ドメイン> HOSTUSERPASSWORD=<パスワード>
```

次のパラメータをオプションで指定できます。

パラメータ	説明
REGISTER=1	インストールの完了後に、登録要求を ALM サーバに自動送信します。
ISAUTOLOGIN=1	自動ログイン機能を有効にします。自動ログインの詳細については、「自動ログイン」(230ページ)を参照してください。
LOGLOCATION="<ログ・ディレクトリ>"	Lab Service のログを記録する場所(<ログ・ディレクトリ>)を指定します。
LOGLEVEL="<ログ・レベル>"	Lab Service がログを記録する際のレベル(<ログ・レベル>)を指定します。ログ・レベルの詳細については、「[HP ALM Lab Service 設定]ページ」(231ページ)を参照してください。

HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール

HP ALM Lab Service のインストールの変更

1. MSI インストール・ファイルを実行します。[ようこそ]画面で HP ALM Lab Service - インストール・ウィザード が起動します。[次へ]をクリックします。
2. [プログラムのメンテナンス]画面が開きます。
[変更]ラジオ・ボタンを選択します。[次へ]をクリックします。
3. [カスタム セットアップ]画面が開きます。
機能アイコンを使用して、HP ALM Lab Service 機能を有効または無効にします。
[次へ]をクリックします。
4. [設定の確認]画面が開きます。
[次へ]をクリックします。
5. [完了]画面が開きます。[完了]をクリックします。

HP ALM Lab Service の削除

注意: Lab Service を削除したら、別のバージョンを再インストールする前にホストを再起動する必要があります。再起動せずに新しいバージョンを再インストールしようとすると、インストールが失敗します。

MSI ファイルを使用して Lab Service を削除するには、次の手順を実行します。

1. MSI インストール・ファイルを実行します。[ようこそ]画面で **HP ALM Lab Service - インストール・ウィザード** が起動します。[次へ]をクリックします。
2. [プログラムのメンテナンス]画面が開きます。
[削除]ラジオ・ボタンを選択します。[次へ]をクリックします。
3. [プログラムの削除]画面が開きます。[削除]をクリックします。
MSI インストール・ファイルの実行時に Lab Service が実行中であった場合、[使用中のファイル]画面が開く場合があります。[OK]をクリックして、削除を完了します。
4. [完了]画面が開きます。[完了]をクリックします。

Windows の[プログラムと機能]を使用して Lab Service を削除するには、次の手順を実行します。

1. [コントロール パネル] > [すべてのコントロール パネル項目] > [プログラムと機能]に移動して、Windows の[プログラムと機能]画面を開きます。
2. [HP ALM Lab Service]を右クリックして、[アンインストール]を選択します。

サイレント・アンインストールを使用して Lab Service を削除するには、次のいずれかのコマンドを実行します。

- `msiexec /x "<msi の場所>\HpAlmLabService_x64.msi"`
- `msiexec /x {8A0D781B-7976-419F-91D9-15F3121FCFA5}`

HP ALM Lab Service の使用

このタスクでは、HP ALM Lab Service のインストール方法について説明します。ALM を使用してテスト・ホストで機能テスト・セットからテストを実行するには、Lab Service を使用して ALM でホストを登録する必要があります。

HP ALM Lab Service の詳細については、「[HP ALM Lab Service の概要](#)」(223ページ)を参照してください。

注: 互換性を確保するには、Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンである必要があります。Lab Service と接続先の ALM サーバが同じバージョンではない場合、ALM とラボ管理のホスト/テスト・ホスト・グリッドで、テスト・ツールが[利用不可]として表示されます。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「[テストングホストの作成](#)」(229ページ)
- 「[HP ALM Lab Service の構成](#)」(229ページ)
- 「[ラボ管理でのホストの登録の承認](#)」(229ページ)
- 「[Lab Service の停止/開始](#)」(230ページ)

1. テスティングホストの作成

ALM またはラボ管理の[ラボリソース]で、ホスト/テストングホスト・モジュールを選択します。
[新規テストングホスト]ボタンをクリックし、テストングホスト情報を入力します。新しいテストングホストの[登録ステータス]が[未登録]に設定されます。

注: [登録自動承認]を[Y]に設定することで、ALMでテストングホスト登録を自動的に承認するように準備できます。

タスクの詳細については、「[ラボ・リソースを管理する方法](#)」(57ページ)を参照してください。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[新規テストングホスト\]ダイアログ・ボックス](#)」(77ページ)を参照してください。


2. HP ALM Lab Service の構成

Lab Service を設定するには、次の内容が必要です。

- ALM サーバの URL。
- テスティングホストでのテスト実行専用を使用する、専用の Windows ユーザ名。
- Windows ユーザ名のパスワードとドメイン。インストールの間に自動ログインを有効にした場合のみ、利用できます。

[設定]ページを使用して、ALM と通信するように Lab Service を設定できます。

[設定]ページを使用して Lab Service を登録するには、次の手順を実行します。

- a. システム・トレイにある[Lab Service]アイコンを右クリックします。[設定]ページを開きます。
- b. ALM サーバ URL とホスト ユーザ情報を入力します。[設定]ページに関するユーザ・インタフェースの詳細については、「[\[HP ALM Lab Service 設定\]ページ](#)」(231ページ)を参照してください。[ホストの登録]をクリックします。
- c. ラボ管理で、ホスト・グリッドを更新します。新しいホストの[登録ステータス]が[保留中]に設定されます。

3. ラボ管理でのホストの登録の承認

ホストを作成したときに[登録自動承認]を[Y]に設定した場合、登録が自動的に承認されません。

自動的に承認されるようにホストを設定しない場合には、ホストを手動で承認する必要があります。ホストの登録要求はラボ管理者によってラボ管理内から承認できます。ホストをプライベート・ホストとして ALM プロジェクトから作成した場合、そのプロジェクトから登録を承認できます。

ホスト・モジュールのグリッドからホストを選択し、[登録の承認]ボタンをクリックします。[登録ステータス]が[保留中]から[登録済み]に変わります。

新しいテストングホストが登録されます。ALM を使用して、このホストで機能テストのスケジュールを設定して実行できます。

4. Lab Service の停止/開始

タスクバーのアイコンを使用して、Lab Service を開始および停止できます。アイコンを右クリックして、次のいずれかを実行します。

- 停止するには、[ALM Lab Service の停止]をクリックします。
- 開始するには、[ALM Lab Service の開始]をクリックします。

注意:

- Lab Service を停止すると、テストングホストはラボ管理に[非稼働]と表示されます。再度開始するまで、テストングホストでサーバ側の実行を使用してテストを実行することはできません。
- Lab Service を停止した後、待機時間が長すぎると、ALM で Lab Service が再起動されたかどうかを確認するためにポーリングが停止されます。ホスト/テストングホスト・グリッドでテストングホストの[ステータス]を手動で[稼働中]に設定する必要があります。

自動ログイン

LM を使用して、登録したテストング・ホスト上でテストを実行するには、テストの実行権限を持つ Lab Service ユーザがテストング・ホストにログインする必要があります。Lab Service では、テスト実行を要求したユーザがテストング・ホストに自動ログインする設定を行うことができるので、ユーザがログインしていない状況避けることができます。

自動ログインを有効にするには、[設定]ページでユーザ名とパスワードを入力する必要があります。詳細については、「[HP ALM Lab Service 設定]ページ」(231ページ)を参照してください。

自動ログインが有効な状態でセッションを切断すると(セッション・ウィンドウを閉じる、など)、ユーザは自動的にログイン状態に戻り、テストを実行します。ただし、画面がロックされていると、セッション・ユーザ・インタフェース(QTP など)が必要なテストは実行できません。

注: 既存の Lab Service 環境で自動ログインを無効または有効にするには、MSI ファイルを実行してから[変更]をクリックします。詳細については、「HP ALM Lab Service の変更またはアンインストール」(227ページ)を参照してください。

[HP ALM Lab Service 設定] ページ

アクセス方法	Windows タスクバーで Lab Service のアイコンを右クリックして、[設定]を選択します。
重要な情報	[設定] ページを使用して、Lab Service と ALM サーバとの通信を管理できます。
関連タスク	「HP ALM Lab Service の使用」(228ページ)
参照情報	「HP ALM Lab Service の概要」(223ページ)

次にユーザ・インタフェース要素について説明します。

UI 要素	説明
[サーバ設定] セクション	ALM サーバ: Lab Service と通信する ALM サーバの URL。 この URL は次の形式である必要があります。 http(s)://<サーバ名>:<ポート>/qcbin

UI 要素	説明
[ホスト設定] セクション	<ul style="list-style-type: none"> ● ホスト・ユーザ名: このホストでの ALM テストの実行に使用する Windows ユーザの名前。名前には、バックスラッシュ記号 (\) は指定できません。 ● ホスト・パスワード: Windows ユーザのパスワード。このフィールドに入力できるのは、自動ログインが有効な場合のみです。 ● ホスト・ドメイン: Windows ユーザのドメイン。このフィールドに入力できるのは、自動ログインが有効な場合のみです。
[ホストの登録] セクション	<ul style="list-style-type: none"> ● ホスト名: LM がテストング・ホストの識別に使用する名前。 ● メッセージ: ラボ管理の管理者に送信されるメッセージ。 ● ホストの登録: ALM サーバを使用したテストングホストを登録します。 <p>詳細については、「HP ALM Lab Service の使用」(228ページ)を参照してください。</p>
[ログ設定] セクション	<p>ログ・ファイルの場所: ログが書き込まれるディレクトリ。ログでテスト実行およびメンテナンス・タスクの進行状況が記録されます。ディレクトリが存在しない場合は、作成されます。このフィールドは入力必須です。</p> <p>注: [ホスト設定] で定義したユーザ名に、ログ・ファイルのパスに対する書き込みアクセス権が割り当てられていないと、実行ログは作成されません。</p> <p>ログ・レベル: ドロップダウン・メニューでログ・レベルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● オフ: ログは記録されません。 ● Error: エラーのみがログに記録されます。 ● Warning: エラーと警告がログに記録されます。 ● Info: エラー、警告、情報がログに記録されます。 ● Verbose: Lab Service エージェントが実行したアクションがすべてログに記録されます。 <p>ログ・レベルを高く設定すると、パフォーマンスに影響する可能性があります。デバッグ情報の生成が必要である場合を除き、[Error] レベルに設定することをお勧めします。</p>

